

茨城県教育財団文化財調査報告第370集

槇 堀 遺 跡

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書7

平成25年3月

国 土 交 通 省
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第370集

槙 堀 遺 跡

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書7

平成25年3月

国 土 交 通 省
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、地域の特性を生かした県土の均衡ある発展を目指して、広域的な交通ネットワークの整備を進めるとともに、道路事情の実態を勘案してバイパスを整備するなど、交通の円滑化や利便性の向上に努めています。

千代田石岡バイパスは、その一環として整備されるものです。しかしながら、この事業予定地内には、埋蔵文化財包蔵地である槇堀遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から委託を受け、平成22年9月から10月までと平成23年12月から平成24年3月までの6か月間にわたって埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

本書は、その成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、石岡市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成25年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木欣一

例　　言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により、財團法人茨城県教育財團（現 公益財團法人茨城県教育財團）が平成 22・23 年度に発掘調査を実施した、 茨城県石岡市北根本字猪野山 793 番地ほかに所在する横堀遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

　　調査　平成 22 年 9 月 1 日～10 月 31 日

　　　　平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

　　整理　平成 24 年 4 月 1 日～10 月 31 日

3 発掘調査は、平成 22 年度は調査課長池田晃一、平成 23 年度は調査課長櫻村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成 22 年度

　　首席調査員兼班長　　皆川 修

　　主任調査員　　櫻井完介

　　調査員　　鹿島直樹

平成 23 年度

　　首席調査員兼班長　　皆川 修

　　首席調査員　　寺内久永

　　主任調査員　　櫻井完介　　平成 23 年 12 月 1 日～31 日

　　調査員　　前島直人　　平成 24 年 1 月 1 日～3 月 31 日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、次席調査員櫻井完介が担当した。

凡　　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 19,200 m, Y = + 41,320 mの交点を基準点（A 1a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3 … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」「B 2b2 区」のように呼称した。また、調査の過程で、基準点（A 1a1）より北側へ遺跡の広がりが確認できたことから、北側に調査区を設定した。北側の大調査区は、「Z 1a1 区」「Y 1a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉穴 P - ピット PG - ピット群 SD - 溝跡 SI - 壁穴住居跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 搅乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



赤彩



炉・火床面・火焚部



竈部材・粘土範囲・黒色処理



●土器

○土製品

□石器・石製品

△金属製品

- - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。計測値の単位は m, cm, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壁穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

槇堀遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 垂穴住居跡	13
(2) 炉穴	42
(3) 炉跡	48
(4) 土坑	50
(5) 集石遺構	66
2 弥生時代の遺構と遺物	68
(1) 垂穴住居跡	68
(2) 土坑	83
3 古墳時代の遺構と遺物	85
垂穴住居跡	85
4 その他の遺構と遺物	97
(1) 土坑	97
(2) 溝跡	105
(3) ピット群	106
(4) 遺構外出土遺物	108
5 埋没谷	112
第4節 まとめ	115

写真図版 PL 1 ~ PL24
抄 錄
付 図

槇堀遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

槇堀遺跡は、石岡市の東部に位置し、山王川右岸の標高 23 m ほどの舌状台地上に立地しています。一般国道 6 号千代田石岡バイパス建設事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財团が平成 22・23 年度に 8,557 m²について発掘調査を行いました。



調査の内容

今回の調査区は、遺跡の北西部にあたる台地平坦部に位置しています。調査の結果、縄文時代前期（約 5,000 年前）から古墳時代後期（約 1,400 年前）にかけて断続的に集落が営まれていたことが分かりました。豊穴住居跡 28 軒のほか、炉穴、炉跡、土坑、集石遺構、溝跡などが確認できました。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、土製品、自然遺物（貝）などです。



調査区全景（北上空から）



縄文時代の住居跡の実測作業



弥生時代の住居跡から壺が出土



古墳時代の住居跡の掘り込み作業



弥生時代の住居跡から出土した壺

調査の結果

縄文時代の住居跡や炉穴からは、海で採れるハイガイやオキシジミなど約6,000点の貝殻が見つかりました。この貝殻は、貝を食べた後に捨てたゴミで、霞ヶ浦は当時、外海とつながっていたことがわかります。当遺跡は、縄文時代には、食料の得やすい環境であった様子がうかがえます。

弥生時代後期の竪穴住居跡の床下からは4個体の壺が寝かされた状態で見つかりました。他での調査例から住居内埋葬の可能性が考えられます。

古墳時代の竪穴住居跡は4軒確認されました。当遺跡の南東部に広がる台地平坦部に集落が展開していたことが想定できます。

いにしえの人々が、自然を畏れ、敬い、恵みに感謝しながら生きていた様子を垣間見ることができました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所は、かすみがうら市及び石岡市において一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）の道路整備を進めている。

平成10年11月12日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道6号千代田石岡バイパス新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、路線予定地内の北根本地区について平成11年2月8日から3月3日までの間に現地踏査を、平成12年7月6・7・13日、平成23年1月5～7日に試掘調査を実施し、積壠遺跡の所在を確認した。平成12年11月21日、平成23年3月1日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、事業地内に積壠遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成15年3月11日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成15年3月12日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、積壠遺跡について工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年2月22日及び平成23年3月3日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成22年2月24日及び平成23年3月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、積壠遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財團法人茨城県教育財團（平成24年4月から公益財團法人茨城県教育財團）を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年9月1日から10月31日までと平成23年12月1日から平成24年3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調 査 経 過

柵堀遺跡の調査は、平成 22 年 9 月 1 日から 10 月 31 日までの 2か月間と平成 23 年 12 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日の 4か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成 22 年度

工程	期間	9 月		10 月	
		1	2	1	2
調査表 柵構造	準備確認				
遺構調査					
遺物洗浄 注写	記理				
補足調査 撤収					

平成 23 年度

工程	期間	12 月		1 月		2 月		3 月	
		1	2	1	2	1	2	1	2
調査表 柵構造	準備確認								
遺構調査									
遺物洗浄 注写	記理								
補足調査 撤収									

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

植権遺跡は、石岡市北根本字猪野山 793 番地ほかに所在している。

石岡市域の地勢は、霞ヶ浦の北西、県中央部に広がる洪積台地を主体としている。筑波山系の加波山に源を発する恋瀬川が、北西から南東方向に流れ霞ヶ浦の高浜入りに注ぎ、両岸には標高 20 ~ 30 m の起伏が緩やかな台地が広がっている。市の北西城は、恋瀬川とその支流によって、高地、台地、低地と起伏に富んだ地形が形成され、恋瀬川右岸の台地上には、柿岡地区を中心とした旧八郷市街地が広がっている。南東域は南端の高浜から市域の中央部に位置する龍神山麓まで約 8 km にわたり、幅約 1.5 km の狭長な台地が形成され、恋瀬川と園部川、その中間を流れる山王川によって支谷が刻まれている。恋瀬川左岸に位置するこの台地は石岡台地と呼ばれ、標高 20 ~ 25 m ほどの平坦な地形で、現在は石岡市街地が広がっている。

地質は、未固結の砂を主とする石崎層、浅海成の貝化石を産する海成の砂層である見和層を基盤とし、その上に茨城粘土層（常総粘土層）と呼ばれる粘土層、さらに褐色の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている。

当遺跡は、霞ヶ浦の高浜入りに注ぐ恋瀬川と山王川に開析された標高 23 ~ 25 m の石岡台地で、山王川右岸に張り出す舌状台地に立地している。遺跡の所在する舌状台地は、長さ 300 m、幅 200 m で、北西側と南側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約 18 m である。舌状台地の基部には府中愛宕山古墳が、支谷を挟んだ約 100 m 西の台地上には中津川遺跡が所在している。当遺跡の北側の台地上は畑地及び市街地として、南側の恋瀬川流域の低地は水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

恋瀬川流域の石岡市やかすみがうら市には、多くの遺跡が分布している。ここでは、恋瀬川流域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

恋瀬川流域における旧石器時代の様相は、未だ不明な点が多い。当遺跡から約 6 km 北西に所在する宮平遺跡みやひらでは石核 3 点、正月平遺跡や田島遺跡（田島下地区）⁽²⁹⁾では、ナイフ形石器がそれぞれ出土している。近年の開発に伴う発掘調査により、ほかの遺跡からも旧石器時代の遺物が出土しているが、石器製作跡や生活の痕跡を示す遺構は、まだ確認されていない⁽¹⁾。

縄文時代の遺跡は、草創期から晩期にかけて各時期のものが確認されている。当遺跡周辺では、早期・前期の茅山式・闇山式土器が確認されている大谷津遺跡⁽²⁾、前期の花積下層式期の住居跡が 5 軒確認されている田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）、前期の浮島式・諸葛式土器が各住居跡から出土している外山遺跡、同じ台地上に前期から後期までの住居跡が確認された中津川遺跡⁽²⁾（20）などがある。これらの遺跡は、恋瀬川から霞ヶ浦にかけての舌状台地上に分布しており、集落が営まれていたと考えられる。

弥生時代に入ると、水田耕作による農耕文化が始まり、生活や文化に変化が見られるようになる。石川山崎鹿島神社境内では、土器底部に稻作が行われていたことを実証する耕痕がある弥生土器が発見されている。当

時代の遺跡については、中期の土器片が確認されたぜんぶ塚古墳群〈10〉や後期初頭の集落が確認された新池台遺跡〈35〉、弥生土器と土師器の共伴が確認された外山遺跡、後期中葉の住居跡が5軒確認された中津川遺跡などがある。恋瀬川や園部川に面する台地縁辺部に集中していることから、入りくんだ谷津の地形を利用して農耕生活を営み、集落を形成していたことをうかがい知ることができる。

古墳時代の遺跡は数多く確認されている。集落跡のみならず古墳も多く、18群132基の古墳が確認されている。当遺跡と同じ台地上の100m南側には全長90mの前方後円墳で、6世紀前半ごろの築造と考えられている府中愛宕山古墳が所在している。この時期の周辺の集落は、田島遺跡で確認されており、当古墳の築造に関係する人々の集落であったと考えられる。更に300m南西には周溝を含めた全長が250mに達する前方後円墳で、5世紀後半ごろの築造と考えられている舟塚山古墳が所在している。舟塚山古墳は県下最大の規模で、東日本においても最大級古墳のひとつにあげられており、この地における強大な権力をもった首長墓とみられる。当古墳の北側に広がる中津川遺跡では、5世紀後葉から末にかけての竪穴住居跡が確認されており、被葬者や古墳築造に係わった人々の集落であると考えられる。また、恋瀬川流域の沖積地に面した台地縁辺部や河岸段丘上には、当時代の集落が多く存在していたことが明らかとなっており、当遺跡周辺では、4世紀・7世紀代の集落跡である田崎遺跡⁴¹⁾〈23〉の存在も発掘調査によって確認されている。

奈良・平安時代になると、律令制により国・郡・里(郷)制がしかれた。石岡市域は茨城郡に属し、常陸国府が置かれた。常陸国衙跡〈46〉は從来から現石岡小学校敷地説が有力であったが、近年の継続的な調査によって、1町四方の区画内に正殿、前殿が置かれ、その東西に脇殿が整然と配された国衙跡が確認されたことで、石岡小学校敷地が常陸国衙の中核部である国衙であったことが判明した。当遺跡の北西には、国衙作成文書など常陸国政の一端を知る貴重な漆紙文書が発見された鹿の子C遺跡〈51〉や一直線上に中門跡・金堂跡・講堂跡の礎石群が基壇上にあり、全国的に見ても極めて貴重な遺跡である常陸國分尼寺跡〈52〉、寺域が東西約270m、南北約240mの規模をもち、創建瓦(複弁葉蓮華文軒丸瓦)が平城京羅城門跡で確認された軒丸瓦と同系の紋様であることで注目される常陸國分寺跡〈55〉、昭和54年より発掘調査が3回に渡って実施され、塔跡・金堂跡・講堂跡が確認され、法隆寺式伽藍配置であったことが明確になった茨城庵寺跡〈34〉、茨城庵寺跡近くの外城の地が推定地とされている茨城郡衙跡〈42〉などが所在し、当遺跡から北西に2kmほどの石岡市域は古代常陸国を中心とした中心地であった。また、茨城庵寺跡から南東の当遺跡にかけては、発掘調査により当時代の集落跡が確認されている。田島遺跡(三面寺地区)や田崎遺跡、中津川遺跡を見てみると、茨城庵寺跡から石岡台地を南東に向かうにしたがって集落は少なくなり、当遺跡では確認できなくなる。このことから、この台地上における当時代の集落の南東端は中津川遺跡と考えられる。「常陸國風土記」には、「郡より西南に近く河間有り。信筑の川と謂ふ。源は筑波の山より出で、西より東に流れ、郡の中を経て、高浜の海に入る。」と茨城郡衙の近くには信筑川が流れ、蛇行しながら高浜の入江に流れ行く景観が記されている。当遺跡から高浜を経て霞ヶ浦に至る古代の風景が目に浮かぶようである。

中世になると、武家が台頭して勢力争いが起こり、戦国乱世へ流れていくなか、各地に城館が築造されるようになる。石岡市域では、鎌倉時代に常陸国衙において政務を執っていた常陸大掾馬場資幹が外城の地に石岡城〈40〉を築城した。南北朝時代には、大掾氏と小田氏との間で抗争が激化し、8代詮国は現在の石岡小学校の場所に城を移して府中城〈48〉とした。これにより石岡城は府中城の出城としての性格を強めた。高野浜城跡〈7〉、三村城跡〈17〉などは、この時期に築城された出城跡である。やがて中世末期には、大掾氏や小田氏の抗争が起こり、北から勢力を伸ばしてきた佐竹氏の支配下に入るようになった。

徳川家康が江戸に幕府を開いた近世は、大掾氏に代わって佐竹氏が天正18年から約12年間支配していたが、

その後は江戸や城下町に住む將軍や大名、あるいは旗本のような幕藩領主による支配を経て、元禄13年水戸藩徳川頼房の五男頼隆が府中城の一画に陣屋を置いて統治した⁵⁾。古來から水運交通に恵まれていた石岡の地は、周辺集落や各地からの物産集散地としての性格を色濃くし、特に酒・醤油など、醸造業を中心とした商人層の活躍が目覚ましかった。また、陸路も発達し、江戸から水戸、さらには東北地方へ延びる浜街道が整備された。

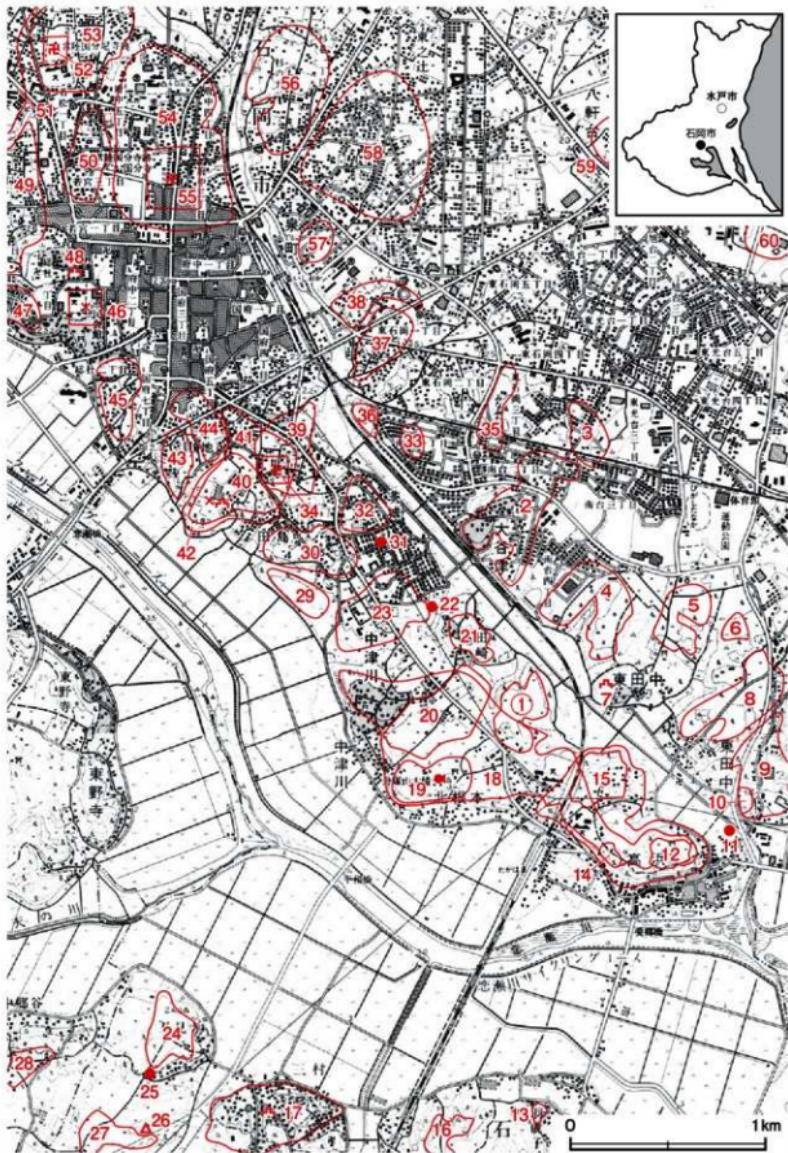
※文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の番号と同じである。なお、本章は『茨城県教育財團文化財調査報告』第338集を基にし、若干加筆したものである。

註

- 1) 石岡市文化財関係資料編纂会「常府石岡の歴史」石岡市教育委員会 1997年3月
- 2) 近江屋成陽「中津川遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書5」『茨城県教育財團文化財調査報告』第338集 2011年3月
- 3) 後藤孝行「石岡別所遺跡 一般県道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第244集 2004年3月
- 4) 斎藤貴史「田崎遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財團文化財調査報告』第327集 2010年3月
- 5) 竹内理三編『角川日本地名大辞典8 茨城県』角川書店 1983年12月

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課『茨城県道路地図（地名表編・地図編）』 2001年3月
- ・石岡市編さん委員会『石岡市史』（上巻） 石岡市 1990年7月



第1図 横堀遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「石岡」「常陸高浜」）

表1 横堀遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	横堀遺跡	○	○	○	○				31	茨城古墳			○				
2	大谷津遺跡	○			○	○	○		32	税所屋敷遺跡	○	○	○			○	
3	六軒遺跡	○			○				33	兵崎下遺跡	○			○			
4	中山遺跡	○			○				34	茨城廃寺跡				○			
5	東田中遺跡	○			○				35	新池台遺跡	○						
6	柏葉遺跡	○							36	兵崎遺跡	○	○	○				
7	高野浜城跡					○			37	兵崎箕輪遺跡	○		○	○			
8	大作台遺跡	○		○	○				38	山王遺跡			○	○			
9	新田遺跡	○	○	○	○	○	○		39	小日台遺跡	○		○	○	○		
10	ぜんぶ塚古墳群			○					40	石岡城跡				○	○		
11	下川古墳			○					41	外城遺跡	○	○	○	○	○		
12	上野遺跡			○	○	○			42	茨城郡衙跡				○			
13	羽成子遺跡				○				43	通安寺遺跡	○	○	○	○			
14	権現遺跡	○		○	○				44	富田遺跡	○		○	○	○		
15	関戸遺跡	○		○	○				45	幸町遺跡	○		○	○	○		
16	下ノ宮遺跡	○	○	○	○	○			46	常陸国衙跡			○				
17	三村城跡					○			47	古城遺跡	○		○	○			
18	舟塚山古墳群			○					48	府中城跡				○			
19	宮久保遺跡	○		○	○	○	○		49	宮部遺跡	○		○	○	○		
20	中津川遺跡	○	○	○	○	○	○		50	一本杉遺跡	○		○	○			
21	石岡田崎遺跡	○			○				51	鹿の子遺跡	○	○	○	○	○		
22	田崎古墳			○					52	常陸國分尼寺跡				○			
23	田崎遺跡	○	○	○	○				53	尼寺ヶ原遺跡	○		○	○	○		
24	上ノ宮遺跡		○		○	○	○		54	国分遺跡	○		○	○	○		
25	長見寺古墳			○					55	常陸國分寺跡				○			
26	地蔵窪貝塚	○	○	○	○	○	○		56	杉ノ井遺跡	○		○	○			
27	地蔵平遺跡	○	○	○	○	○	○		57	白久台遺跡	○						
28	台遺跡	○			○				58	東ノ辻遺跡	○		○	○			
29	田島遺跡	○		○	○	○	○		59	上人塚遺跡	○			○			
30	三面寺遺跡	○			○	○			60	東大橋原遺跡	○		○	○	○		



第2図 横堀遺跡調査区設定図（石岡市都市計画基本図 2,500 分の 1 を使用）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

楨堀遺跡は、恋瀬川の支流である山王川右岸の標高約23mほどの北東に張り出す舌状台地上に立地している。遺跡の範囲は舌状台地の全域で、今回の調査区はその北西部で、調査面積は8,557m²である。

調査の結果、堅穴住居跡28軒（縄文時代16・弥生時代8・古墳時代4）、炉穴11基（縄文時代）、炉跡3基（縄文時代）、土坑114基（縄文時代56・弥生時代3・時期不明55）、集石遺構1か所（縄文時代）、溝跡5条（時期不明）、ピット群1か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に29箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、弥生土器（壺）、土師器（壺・椀・高壺・堆・壺・甌）、土製品（块状耳飾り・土玉・管状土錘・土器片錘・紡錘車）、石器・石製品（石核・剥片・石礫・打製石斧・磨製石斧・磨石・砥石・白玉・劍形ヶ）、金属製品（刀子・釘・錢貨）、自然遺物（貝）などである。

第2節 基本層序

調査区西部（A-3i1区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

第1層は、暗褐色を呈する現耕作土である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は10～30cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は23～40cmである。

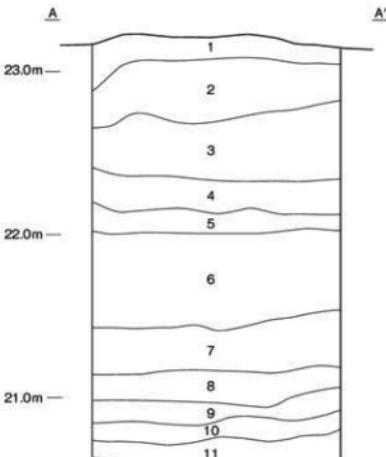
第3層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は27～48cmである。

第4層は、明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は15～23cmである。

第5層は、明褐色を呈するハードローム層である。鹿沼バミスブロックを少量含み、粘性・締まりとともに普通で、層厚は10～18cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は50～60cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は26～35cmである。



第3図 基本土層図

第8層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。粘土粒子を中量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は14～22cmである。

第9層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は6～16cmである。

第10層は、黄褐色を呈する粘土層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は10～14cmである。

第11層は、にぶい黄橙色を呈する砂層である。粘土粒子を微量に含み、粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は10～20cmである。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡16軒、炉穴11基、炉跡3基、土坑56基、集石遺構1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

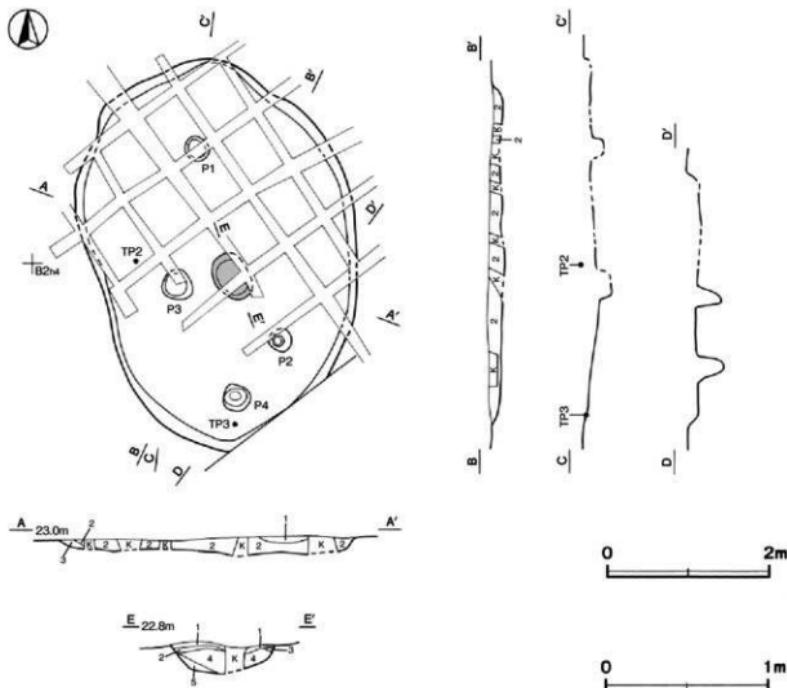
(1) 竪穴住居跡

第3号住居跡（第4・5図）

位置 調査区南西部のB 2g4 区。標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南東壁の一部が調査区域外へ延びているため、短径 3.38 m で、長径は 4.86 m しか確認できなかった。平面形は橢円形と推定でき、主軸方向は N - 4° - W である。壁高は 4 ~ 15 cm で外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。



第4図 第3号住居跡実測図

炉 ほぼ中央部に付設されている。搅乱を受けているため遺存状況は悪く、長径は60cmで、短径は推定で45cmの楕円形であり、深さ18cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 帽 赤褐色 燃土ブロック中量、ローム粒子微量、炭化粒子微量 | 4 帽 色 ローム粒子中量、燃土粒子少量、炭化粒子無微量 |
| 2 帽 赤褐色 燃土粒子中量 | 5 明褐色 ローム粒子中量、燃土粒子微量 |
| 3 帽 暗褐色 ロームブロック中量、燃土粒子微量 | |

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ14～32cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 4は深さ34cmで、位置から出入り口施設に伴うピットの可能性が考えられる。

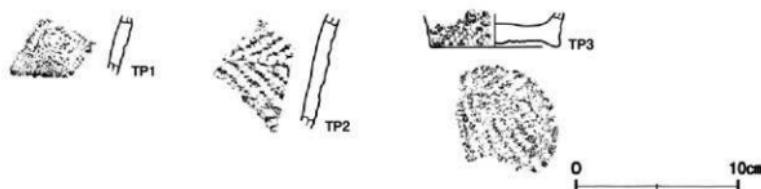
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 帽 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、燃土粒子極微量 |
| 2 帽 褐色 ローム粒子微量、炭化粒子極微量 | |

遺物出土状況 繩文土器片15点(深鉢)が出土している。TP 3は南部の覆土下層から、TP 2は西部の覆土上層から、TP 1は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第5図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表(第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	RLの單節縄文	覆土中	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	LR・RLの單節縄文を羽状構成	覆土上層	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	LRの單節縄文	覆土下層	

第5号住居跡(第6図)

位置 調査区南西部のB 26区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径420m、短径3.73mの楕円形で、長径方向はN-16°-Eである。壁高は4～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。

炉 やや南東寄りに付設されている。形状は長径57cm、短径37cmの楕円形で、深さ13cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 帽 赤褐色 ローム粒子・燃土粒子少量、炭化粒子微量 |
|--------------------------------|-----------------------------|

ピット 11か所。P1～P4は深さ18～26cmで、主柱穴と考えられる。P5～P11は性格不明である。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | 4 明褐色 ローム粒子中量 |

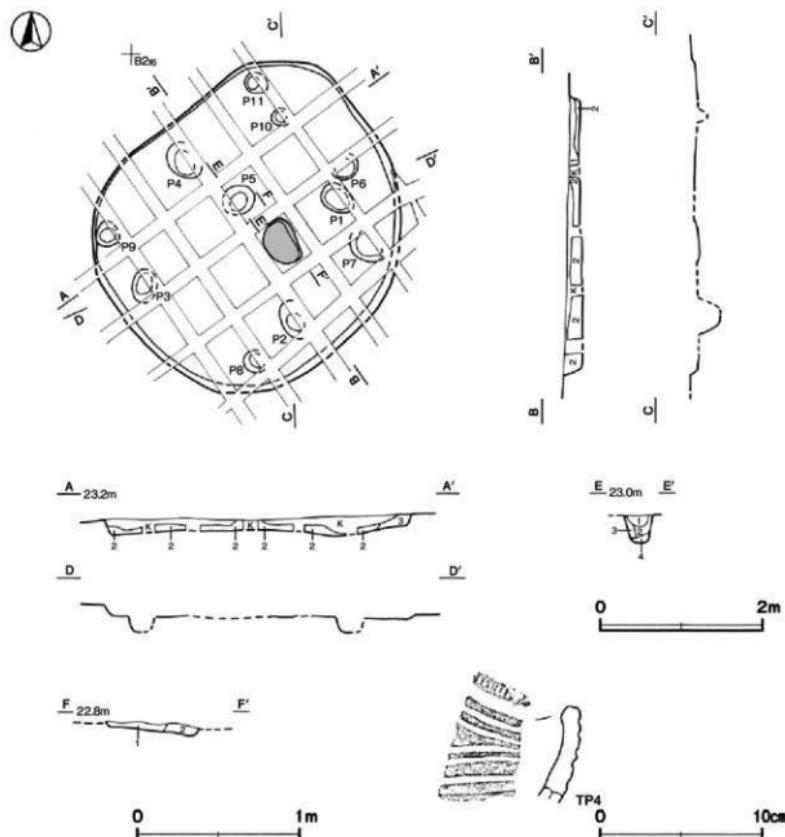
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 繩文土器片42点(深鉢)が出土している。TP4は覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため図示できないが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第6図 第5号住居跡・出土遺物実測図

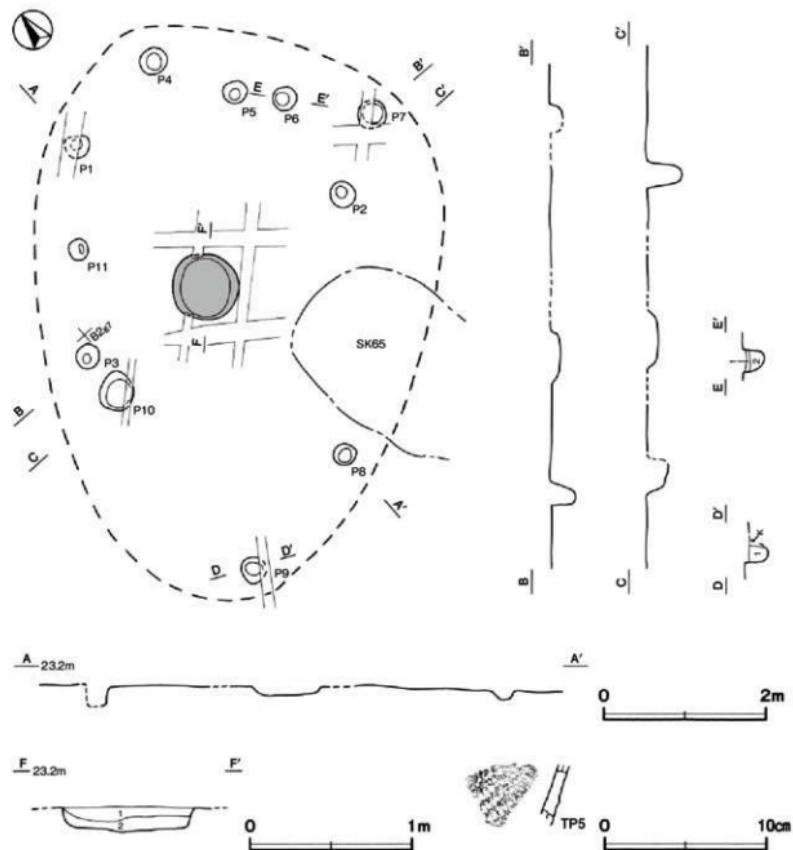
第5号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	波状口縁 口縁部半截竹管状工具による結縫沈綻文・沈縫	覆土中	PL20

第6号住居跡（第7図）

位置 調査区南西部のB 2 g7 区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作によって床面まで削平されており、炉床が露出した状態で確認した。



第7図 第6号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第66号土坑を掘り込んでいる。第65号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 炉と柱穴の配置から、長径7.0m、短径5.0mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-43°-Eである。

炉 中央部に付設されている。形状は長径84cm、短径82cmの円形で、深さ15cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1 暗赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 2 橙褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 11か所。P1-P3は深さ29~42cmで、主柱穴と考えられる。P4~P11は深さ13~36cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1 黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。TP5はP6の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	L.Rの單面繩文	P6覆土中	

第7号住居跡（第8・9図）

位置 調査区南西部のB2丘区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作によって床面まで削平されており、炉床が露出した状態で確認した。

重複関係 第1号炉跡を掘り込み、第2号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 炉と柱穴の配置から、径7.0mほどの円形と推定される。

炉 やや南寄りに付設されている。第2号土坑に掘り込まれているため、確認できた長径は128cm、短径は112cmの楕円形で、深さ26cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 烧土粒子中量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

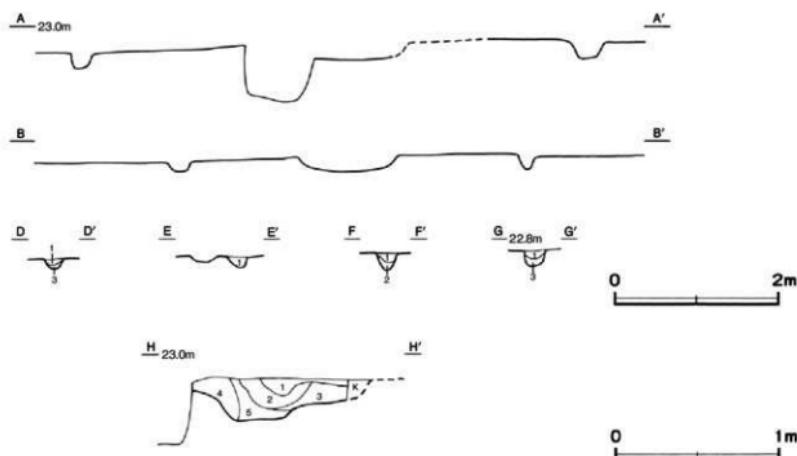
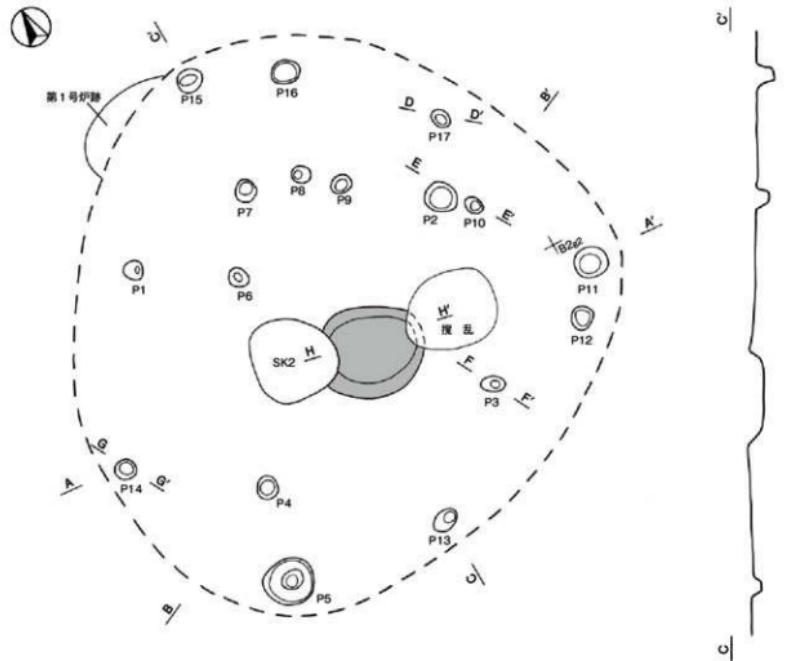
ピット 17か所。P1-P4は深さ13~55cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ27cmで、位置から出入り口施設に伴うピットの可能性が考えられる。P11~P17は深さ9~24cmで、壁柱穴と考えられる。P6~P10は深さ11~31cmで、性格不明である。

ピット土層解説

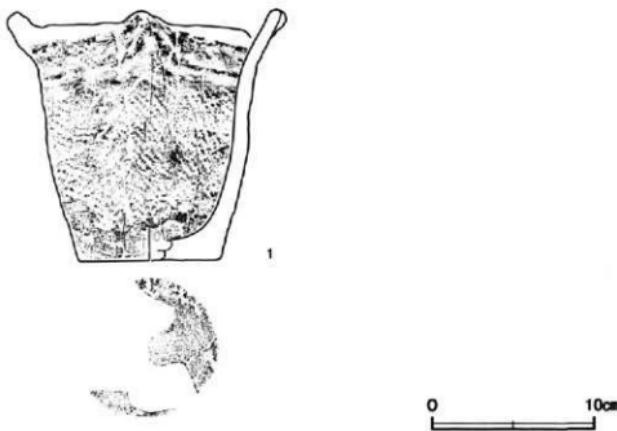
1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片8点（深鉢）が出土している。1は南東部の確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第8図 第7号住居跡実測図



第9図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	唇高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	160	154	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通 品らず	口縁部は4稜状の小液状 R.L.の單節繩文	口縁部直下に陳帯を	確認面 50% PL16

第8号住居跡(第10図)

位置 調査区南西部のB 2 h9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作によって床面や炉床が削平された状態で確認した。

重複関係 第5・6・54号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 炉と柱穴の配置から、長径 6.0 m、短径 5.0 m ほどの楕円形と推定でき、長径方向は N - 38° - W である。

炉 やや南寄りに付設された土器埋設炉で、深鉢の口縁部が埋設されている。長径は 140cm、短径は 128cm の円形で、深さ 14cm である。

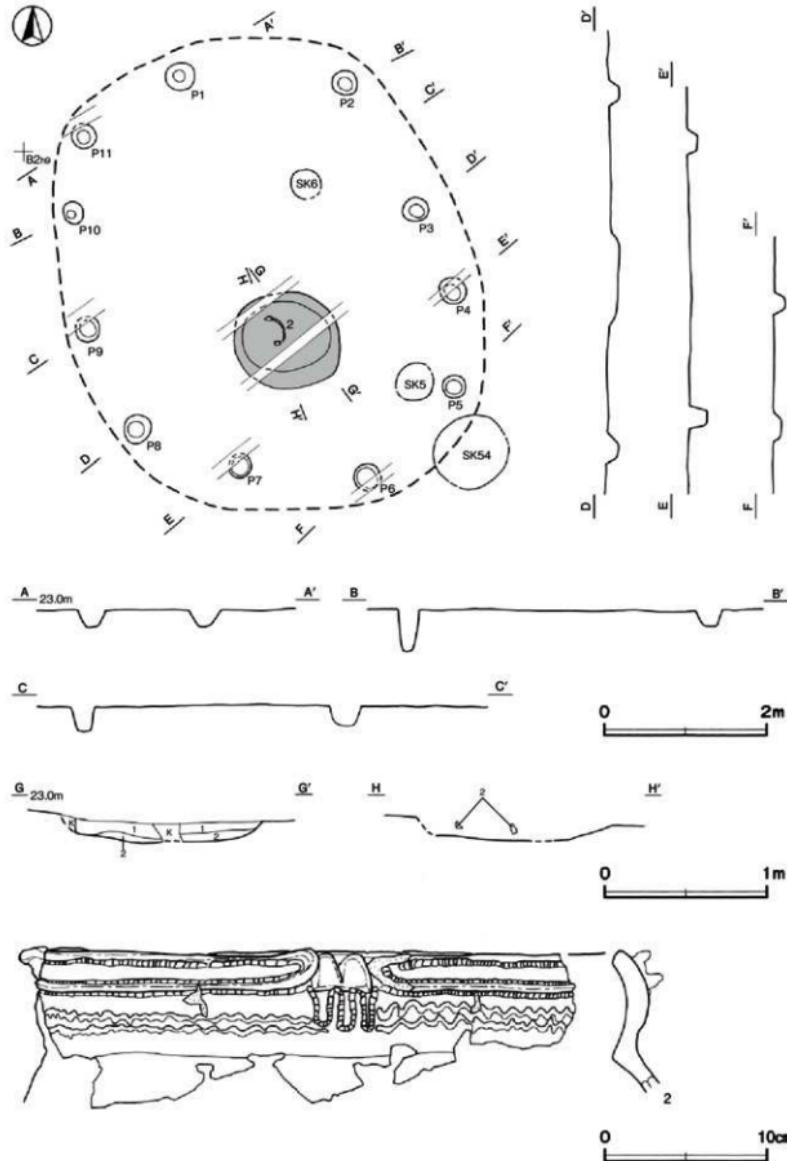
炉土層解説
1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

2 黄褐色 ローム粒子多量、炭化物微量

ピット 11か所。P 1 ~ P 11 は深さ 12 ~ 52cm で、壁柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 2点（深鉢）が出土している。2は土器埋設炉を構成している縄文土器である。

所見 時期は、出土土器から中期前半と考えられる。



第10図 第8号住居跡・出土遺物実測図

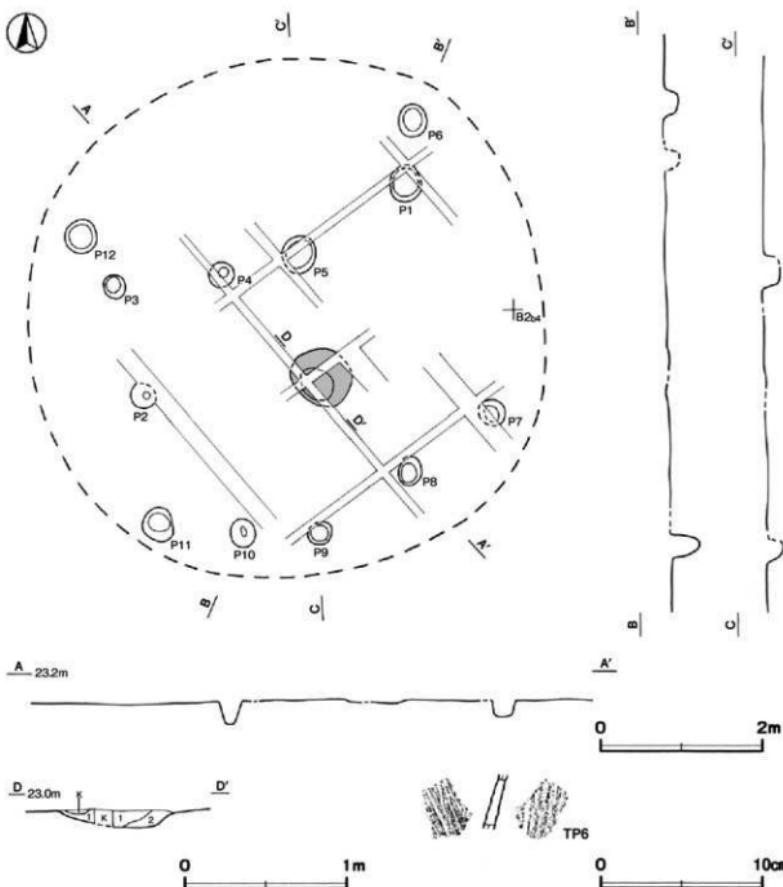
第8号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	[360]	(100)	-	灰石・石英・霰石 細繩	赤褐色	普通	口唇部粘土充填 口縁部粘土充填が沿う隆帯・ 浅打付繩文	東側方部	10% PL15

第9号住居跡(第11図)

位置 調査区南西部のB-2a3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作によって床面まで削平されており、炉床が露出した状態で確認した。



第11図 第9号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 炉と柱穴の配置から、径 6.5 m ほどの円形と推定される。

炉 やや南寄りに付設されている。攪乱を受けているため遺存状況は悪く、径 70cm ほどの円形と推定される。深さ 11cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 塗赤褐色 燃土ブロック中量

2 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 12か所。P 1～P 3 は深さ 11～25cm で、主柱穴と考えられる。P 6～P 12 は深さ 16～43cm で、壁柱穴と考えられる。P 4・P 5 は深さ 28cm・22cm で、性格不明である。

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP 6 は炉の覆土中から出土している。

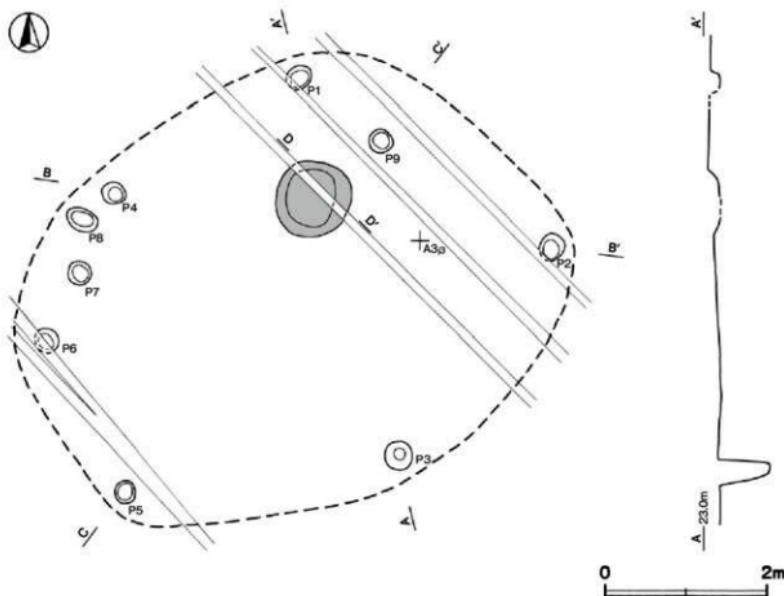
所見 時期は、出土土器から、早期以降と考えられる。

第 9 号住居跡出土遺物観察表（第 11 図）

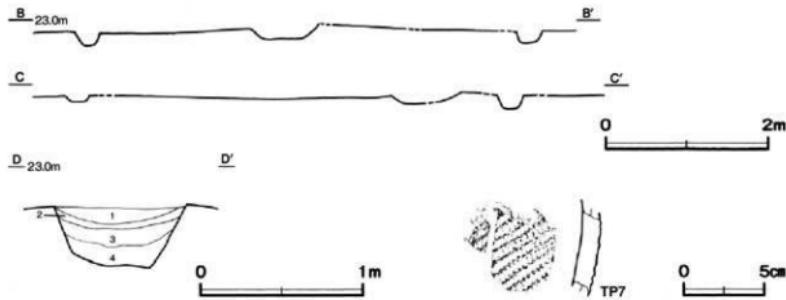
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 6	縄文土器	深鉢	貝石・石英・碧玉・赤色粒子	にぶい緑	外・内面柔痕文	炉覆土中	

第 10 号住居跡（第 12・13 図）

位置 調査区南西部の A 3 i2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 12 図 第 10 号住居跡実測図



第13図 第10号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 炉と柱穴の配置から、長径6.5m、短径5.3mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-53°-Eである。

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

炉 やや北寄りに付設されている。形状は長径100cm、短径94cmの円形で、深さ36cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1 にごい褐色	ローム粒子、燒土粒子少量	3 にごい赤褐色	ローム粒子、燒土粒子少量、炭化粒子極微量
2 赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子極微量	4 褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量

ピット 9か所。P1-P4は深さ12-63cmで、主柱穴と考えられる。P5は深さ8cmで、位置から出入り口施設に伴うピットの可能性が考えられる。P6-P9は深さ6-31cmで、性格不明である。

遺物出土状況 繩文土器片10点(深鉢)が出土している。TP7は炉の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の配置から、中期後葉と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にごい橙	L Rの單詰繩文 半截竹管による沈綱文を垂下	炉覆土中	

第11号住居跡(第14図)

位置 調査区南西部のB2e7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作によって床面まで削平されており、炉床が露出した状態で確認した。

規模と形状 炉と柱穴の配置から、長径7.0m、短径6.0mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-80°-Wである。

炉 やや西寄りに付設されている。搅乱を受けているため遺存状況は悪く、径100cmほどの円形と推定される。深さ10cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

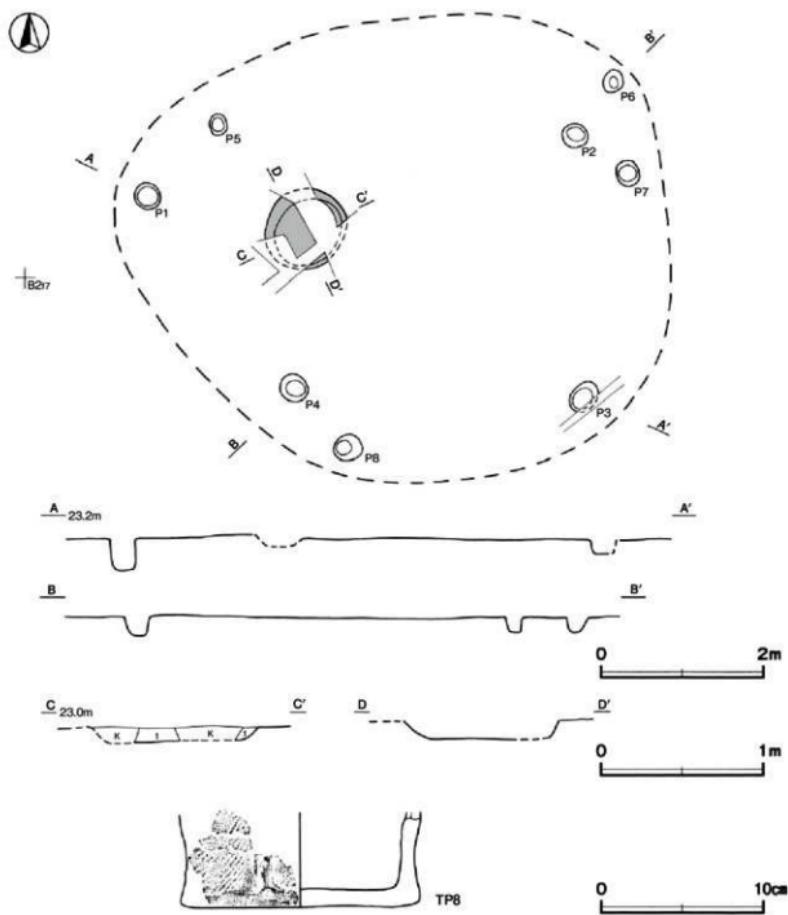
炉土層解説

1 褐 色	燒土粒子中量、炭化粒子微量
-------	---------------

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ16～40cmで、主柱穴と考えられる。P 5～P 8は性格不明である。

遺物出土状況 繩文土器片1点(深鉢)が出土している。TP 8は炉床から出土している。

所見 時期は、出土土器から、中期と考えられる。



第14図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	か	出土位置	備考
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぼい赤褐色	陸带を下端まで貼付	LRの単面繩文	炉床	

第12号住居跡（第15～17図）

位置 調査区北東部のZ69区、標高22mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 南西部が削平されている。確認できた形状から、平面形は楕円形と推定される。北西・南東径は4.85mで、北東・南西径は4.66mしか確認できなかった。長径方向はN-32°Eで、壁高は13～35cmで外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

炉 やや南西寄りに付設されている。長径56cm、短径26cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1 帽赤褐色 燃土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量

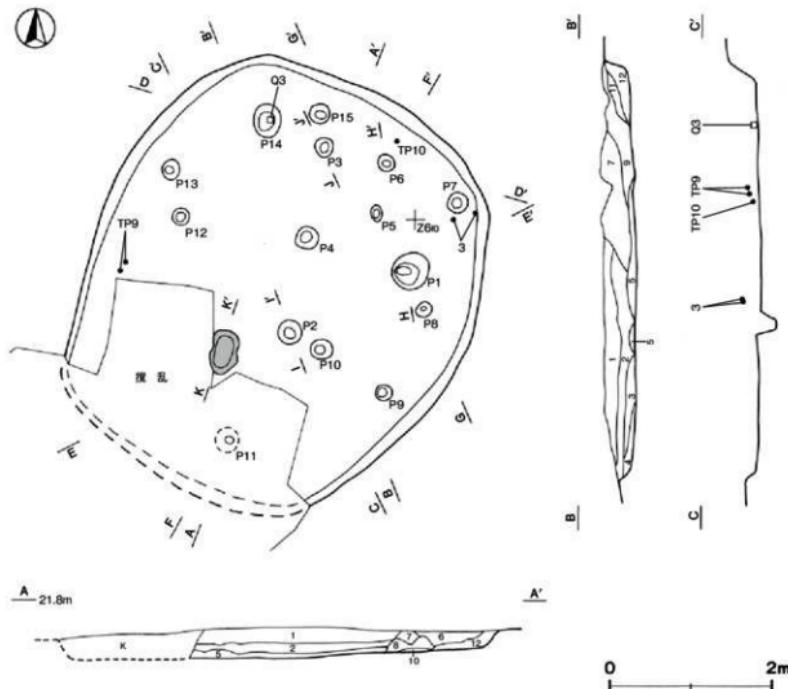
2 にぶい赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 15か所。P1～P3は深さ21～48cmで、主柱穴と考えられる。P4～P15は深さ7～25cmで、性格不明である。

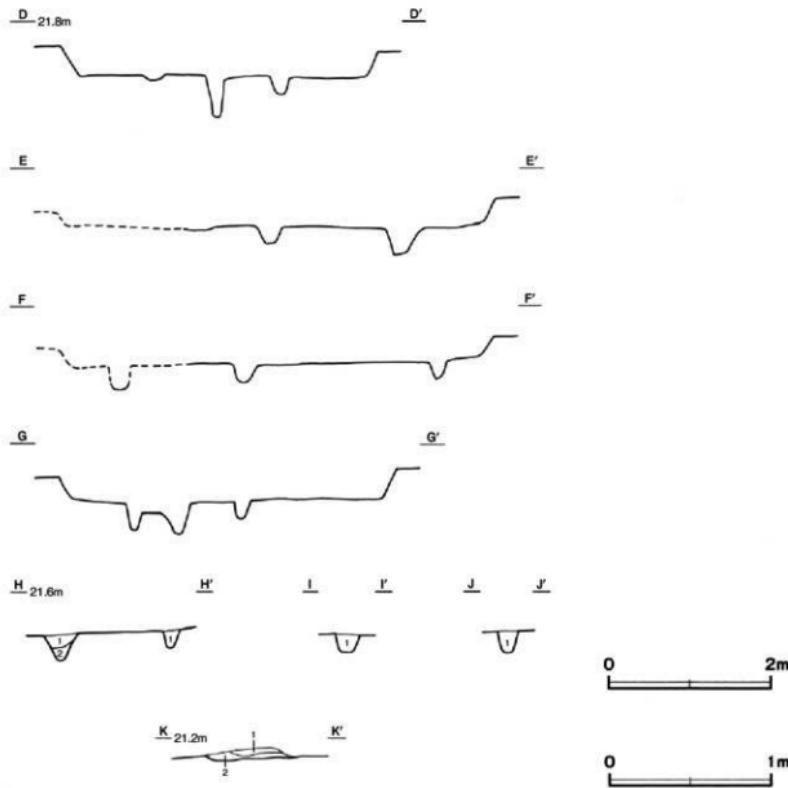
ピット土層解説

1 開 色 ローム粒子多量

2 閉 色 ローム粒子少量



第15図 第12号住居跡実測図(1)



第16図 第12号住居跡実測図(2)

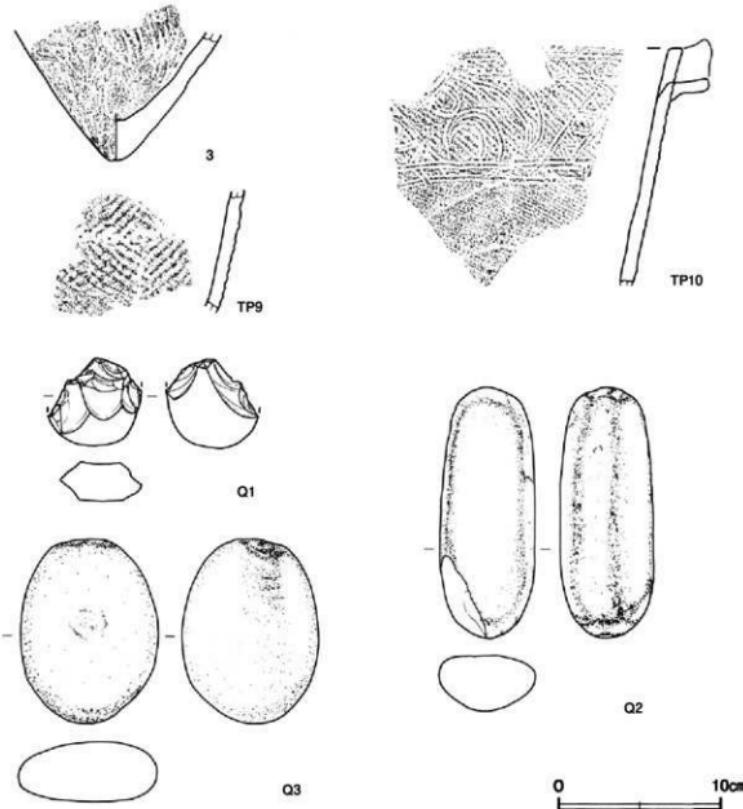
覆土 12層に分層できる。第1～5層はレンズ状の堆積状況から自然堆積である。第6～12層は不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量	10	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子多量	11	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量	12	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片149点(深鉢)、石器3点(磨石2、石核1)、貝400点(ハイガイ308、サルボウ70、ハマグリ22)が出土している。TP10・Q3は北部の覆土下層から、TP9は西部の覆土中層から貝に混じって、3は北東部の覆土中層から、Q1・Q2は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第17図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	縄文土器	尖底土器	-	(7.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	斜位の太沈線 外・内面条痕文	覆土中層	5% PL15

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐色	L.R.・R.L.の单筋縦文を羽状構成	覆土中層	PL19
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗褐色	口縁部下半截竹管工具による幾何学・ループ文を施文 地文はR.L.の单筋縦文	覆土下層	PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石核	(5.3)	(5.7)	2.7	(92.1)	流紋岩	扁平な指円錐を素材 小形の不整形削片を調達	覆土中	PL23
Q2	磨石	15.5	5.9	3.5	(496)	ホキンフェルス	研磨痕(片面)	覆土中	PL24
Q3	磨石	11.4	8.5	3.7	548	砂岩	研磨痕(片面)	覆土下層	PL24

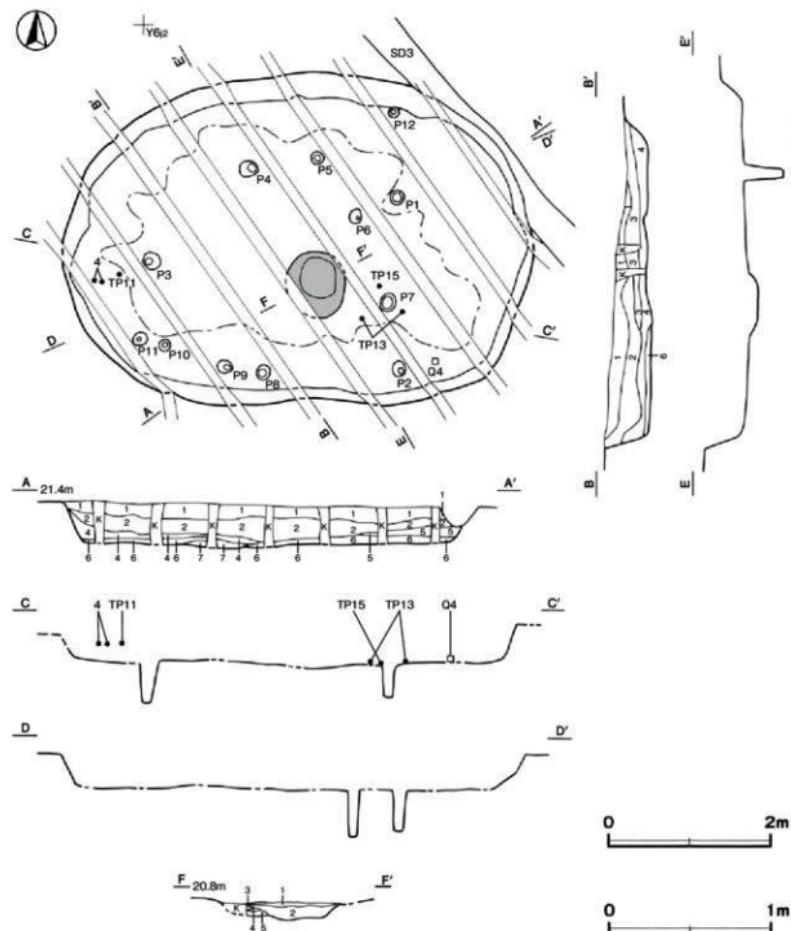
第15号住居跡（第18～20図）

位置 調査区北東部のY62区、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.84m、短径4.02mの橢円形である。長径方向はN-89°-Eである。壁高は25～49cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。



第18図 第15号住居跡実測図

炉 やや南寄りに付設されている。長径 92cm、短径 76cm の楕円形で、深さ 8cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 燒土プロック少量、ローム粒子微量 | | |

ピット 12か所。P 1～P 4 は深さ 5～51cm で、主柱穴と考えられる。P 8～P 12 は深さ 4～18cm で、壁柱穴と考えられる。P 5～P 7 は深さ 4～55cm で、性格不明である。

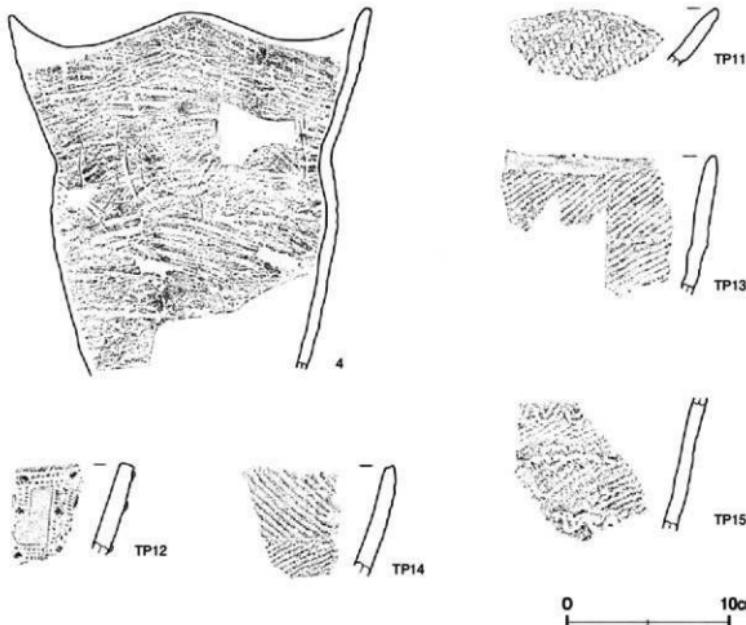
覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

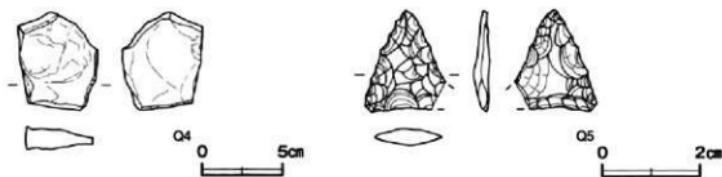
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 桂暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 6 桂褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子極微量 |
| 3 桂褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 桂褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 繩文土器片 176 点（深鉢 175、浅鉢 1）、石器 2 点（剥片、石鏃）が出土している。TP13・TP15・Q 4 は南東部の覆土下層から、4・TP11 は西部の覆土中層から、TP12・TP14・Q 5 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第 19 図 第 15 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第20図 第15号住居跡出土遺物実測図(2)

第15号住居跡出土遺物観察表(第19・20図)

番号	種別	器種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	[220]	[222]	-	長石・石英	に赤い赤鉄	普通	熱糸文・棒状工具による沈綱文	覆土中層	30% PL16

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	に赤い赤鉄	R.L.の半綱縄文	覆土中層	
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	半載竹管状工具による粘筋沈綱文 要所に瘤状貼付文	覆土中	PL20
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	L.R.の半綱縄文	覆土下層	PL20
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	に赤い赤鉄	R.L.・L.R.の半綱縄文を棒状構成	覆土中	PL19
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半載竹管状工具による液波文を横位施文	覆土下層	PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	調片	6.1	5.0	1.4	50	瑪瑙	天・地に縞片を残す	覆土下層	PL22
Q 5	石礫	2.1	(1.7)	0.3	(0.8)	チャート	凹凸 両面調整 緩かい連続する周辺調整を施す	覆土中	PL23

第20号住居跡(第21・22図)

位置 調査区北東部のA 5a7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径5.88m、短径3.22mの長楕円形である。長径方向はN-28°-Eである。壁高は12~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ14~34cmで、主柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さ16cm・26cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南西部の壁下に位置し、長径76cm、短径70cmの円形で、深さは110cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 線 極 色 ロームブロック少量 | 3 線 極 色 ローム粒子微量 |
| 2 線 極 色 ロームブロック中量 | 4 線 極 色 ロームブロック微量 |

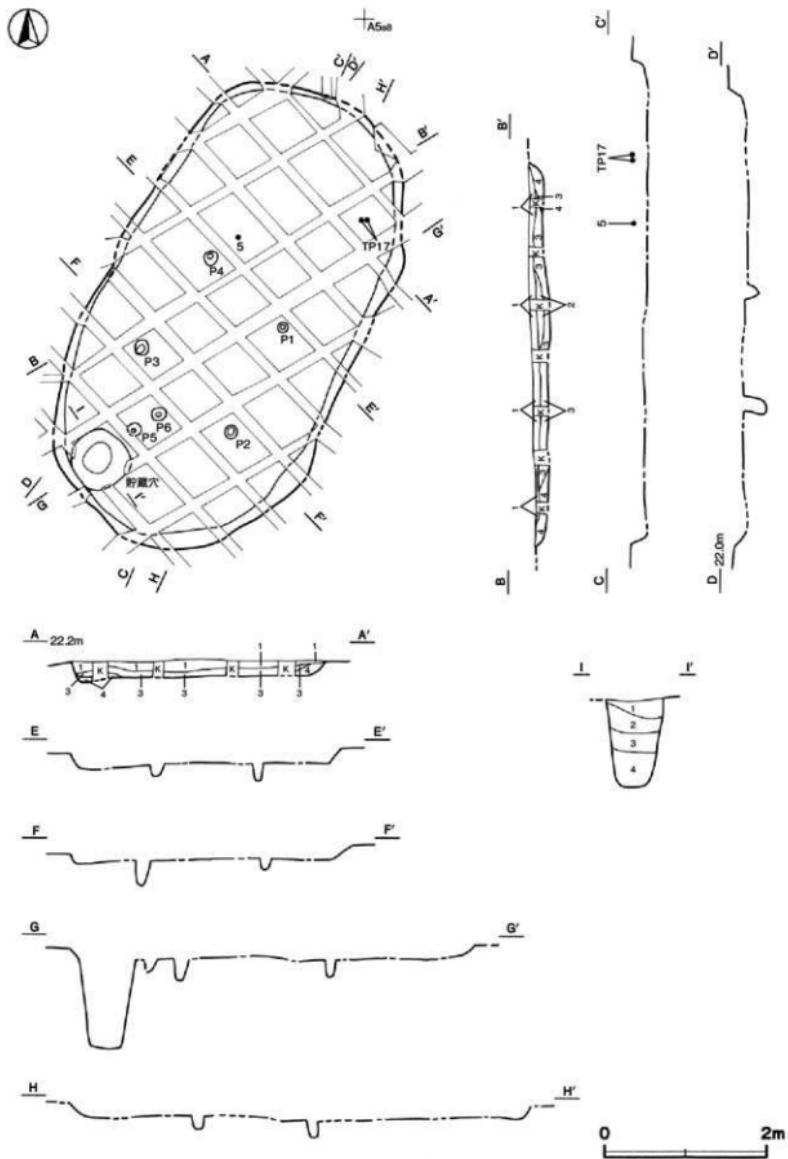
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

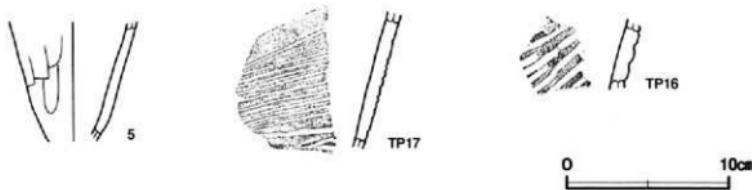
- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 線 極 色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 線 極 色 ローム粒子微量 |
| 2 線 極 色 ロームブロック少量 | 4 線 極 色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片61点(深鉢)が出土している。5は中央部の覆土中層から、TP17は北東部の覆土上層から、TP16は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第21図 第20号住居跡実測図



第22図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	晋高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
S	縄文土器	尖底土器	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通 弱火	大仰幕状鋸角な尖底部、外縁へラ状工具による	覆土中層	5%
<hr/>											
番号	種別	器種	胎土	色調					手法の特徴はか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色					斜位の太沈縦文を施文	覆土中	PL19
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐					4本単位の柳葉文を重層施文後貝殻痕縦文	覆土上層	PL19

第21号住居跡（第23・24図）

位置 調査区北東部のZ 5h7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第103・104号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.00m、短径4.12mの楕円形である。長径方向はN-51°-Eである。壁高は32~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、炉を中心踏み固められている。

炉 やや南東寄りに付設されている。擾乱を受けているため遺存状況は悪く、長径116cm、短径48cmの楕円形と推定でき、深さ24cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------|---------|-----------------------|
| 1 細赤褐色 | 燒土粒子中量 | 4 細赤褐色 | 燒土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 細赤褐色 | 燒土ブロック少量 | 5 細細赤褐色 | 燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 細赤褐色 | 燒土粒子多量、炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ローム粒子多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 15か所。P 1~P 4は深さ20~40cmで、主柱穴と考えられる。P 5~P 15は深さ6~20cmで、性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 2 黄 色 | ローム粒子多量 |
|-------|---------|-------|---------|

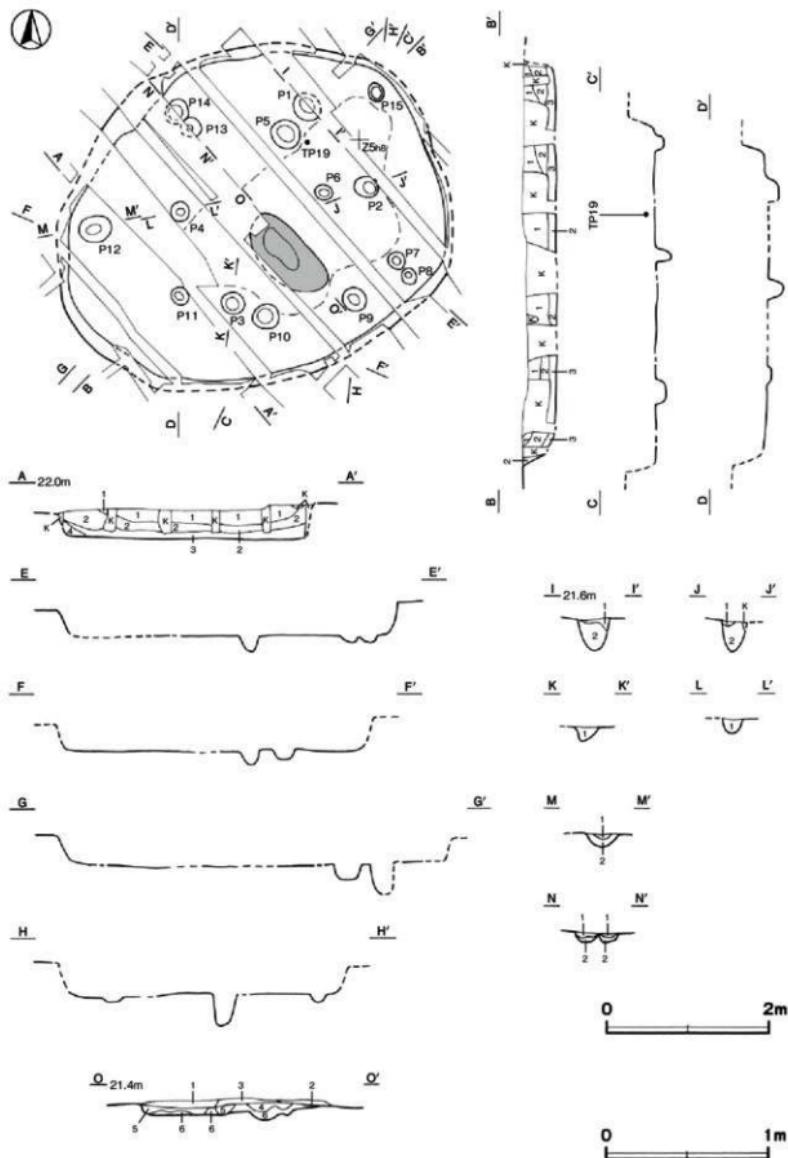
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 明 褐 色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 縄文土器111点（深鉢）が出土している。TP19は中央部の覆土下層から、TP18は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第23図 第21号住居跡実測図



第24図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第24図）

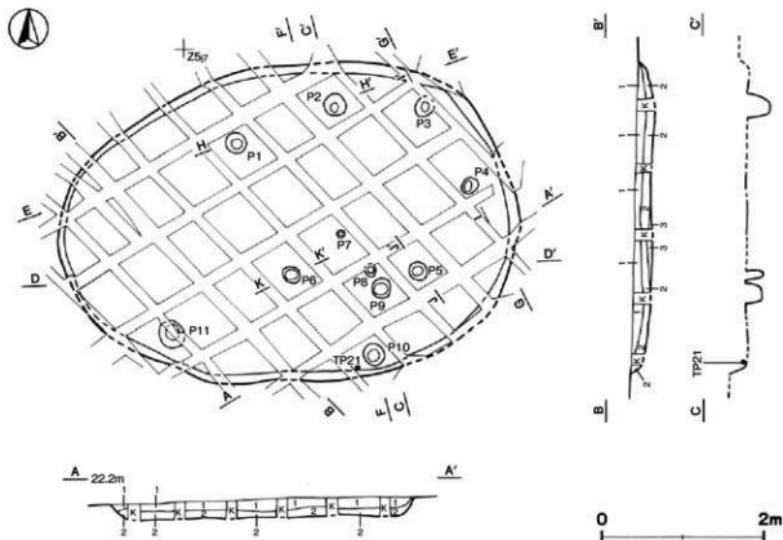
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP18	縹文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	微波状に横位施文	覆土中	PL20
TP19	縹文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	LR・RLの単範純文を羽状構成	覆土下層	PL20

第22号住居跡（第25～27図）

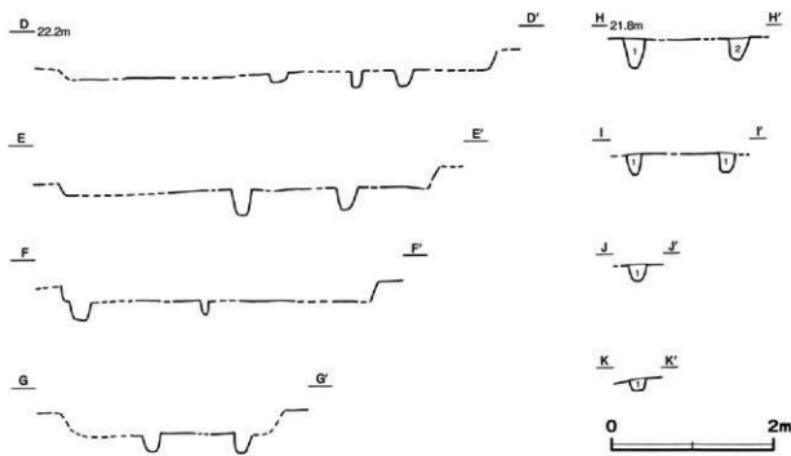
位置 調査区北東部のZ 5j7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径5.69m、短径3.88mの楕円形である。長径方向はN-83°-Eである。壁高は16~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。



第25図 第22号住居跡実測図（1）



第26図 第22号住居跡実測図（2）

ピット 11か所。P 1～P 6は深さ14～34cmで、主柱穴と考えられる。P 7～P 11は深さ14～34cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黄褐色 ローム粒子中量

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黑褐色 ローム粒子少量、桃土粒子微量

3 黑褐色 ロームブロック中量

2 黄褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片110点（深鉢）が出土している。TP21は南壁際の覆土下層から、TP20は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第27図 第22号住居跡出土遺物実測図

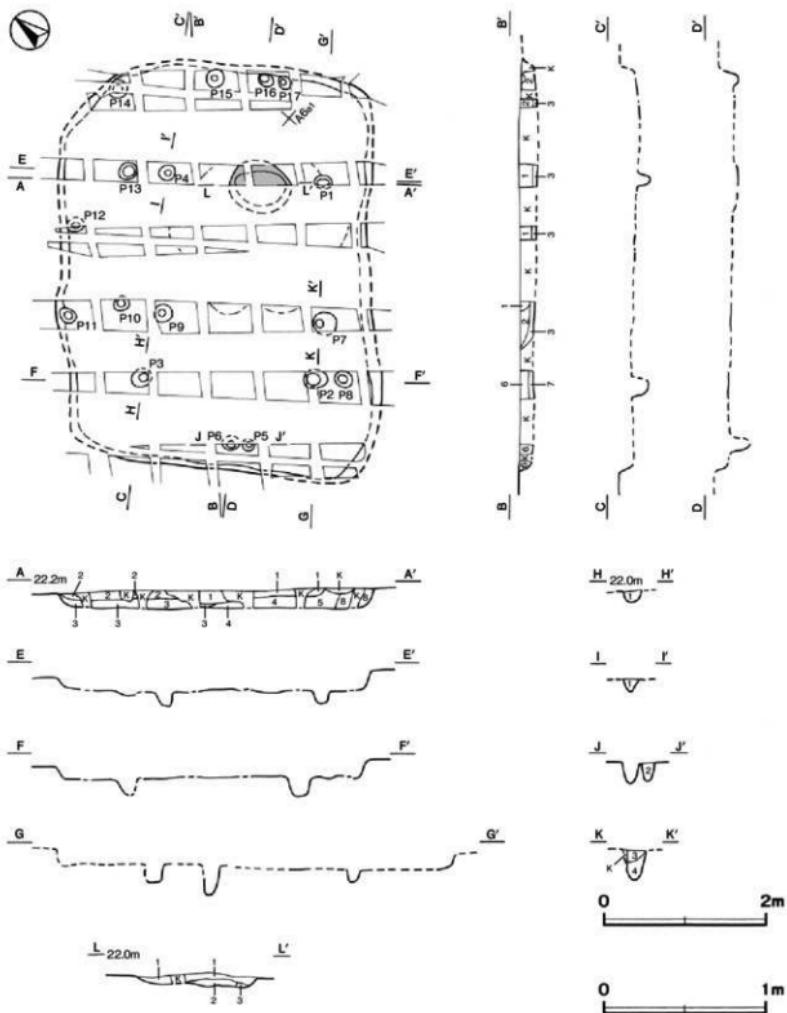
第22号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	習性	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	R.Lの单施縄文	覆土中	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	L.Rの单施縄文	覆土下層	PL.20

第25号住居跡（第28・29図）

位置 調査区北東部のA 5a0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 境界を受けていたため遺存状況は悪く、長軸50m、短軸38mほどの長方形と推定でき、主軸方向はN-48°-Eである。壁高は16~21cmで、外傾して立ち上がっている。



第28図 第25号住居跡実測図

床 平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

炉 やや北東寄りに付設されている。擾乱を受けているため遺存状況が悪く、長径76cm、短径64cmの楕円形と推定でき、深さ10cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 17か所。P1～P4は深さ13～24cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ21cm・26cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P11・P12・P14～P17は深さ3～10cmで、壁柱穴と考えられる。P7～P10・P13は深さ3～38cmで、性格不明である。

ピット土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |

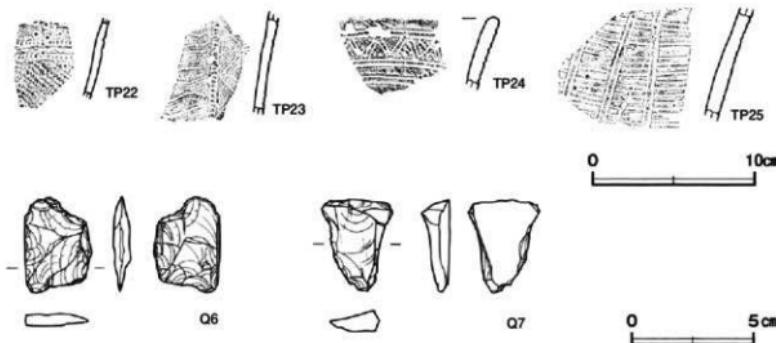
覆土 8層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 繩文土器片241点(深鉢)、石器2点(剥片)が出土している。TP22～TP25・Q6・Q7は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第29図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	円形斜文 半裁竹管工具による2段の結節丸繩文 RLの半面斜文	覆土中	PL.21
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に赤い褐	2本位の横斜文を横位施文、結節丸繩文面を縦面化して縦位施文	覆土中	PL.19
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に赤い黄褐	半裁竹管工具による平行丸繩文を直状・縦斜面に横位施文	覆土中	PL.19
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	に赤い褐	繩文面を格子状に施文	覆土中	PL.20

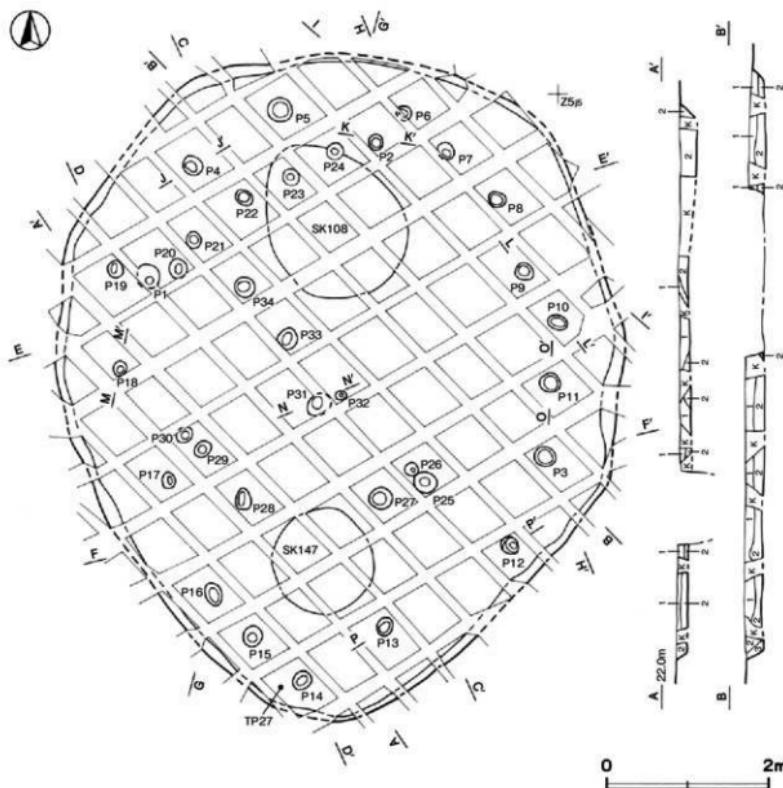
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	調片	39	27	0.7	7.40	チャート	両面に2次加工を有する	覆土中	
Q 7	調片	37	29	1.1	8.75	チャート	背面に縦片を残す	覆土中	

第27号住居跡（第30～32図）

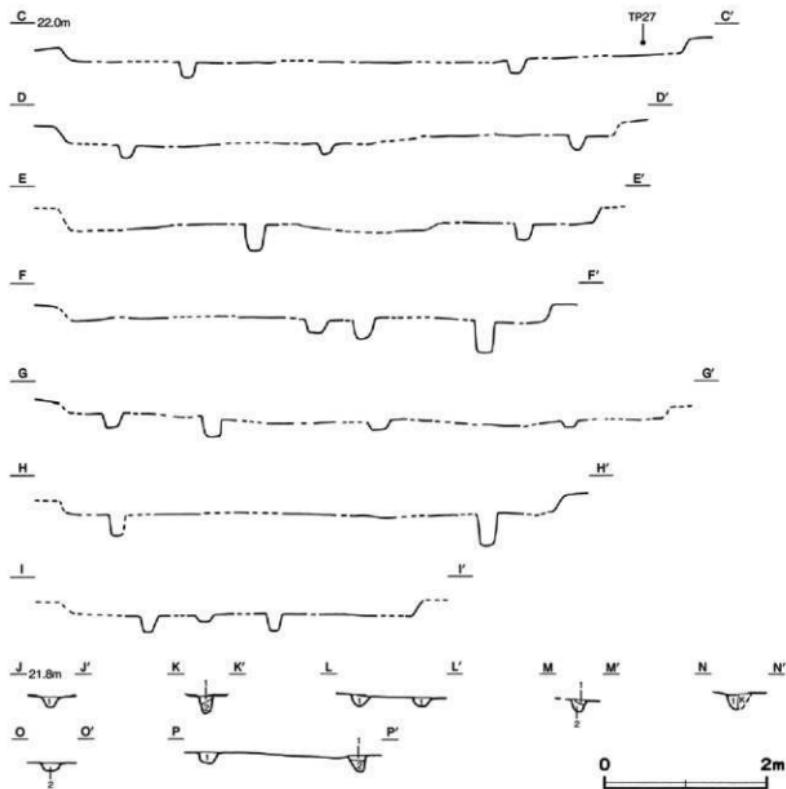
位置 調査区北東部のZ 5j4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108・147号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 撥乱を受けているため遺存状況は悪く、長径8.2m、短径7.0mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-1°-Eである。壁高は16～23cmで、外傾して立ち上がっている。



第30図 第27号住居跡実測図（1）



第31図 第27号住居跡実測図（2）

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

ピット 34か所。P 1～P 3は深さ24～43cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 4～P 34は深さ8～39cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1 級 色 ロームブロック少量

2 級 色 ローム粒子中量

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 級 土 色 ローム粒子少量

3 級 土 色 ロームブロック多量

2 級 土 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片72点（深鉢）が出土している。TP27は南壁際の覆土中層から、TP26は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第32図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第32図）

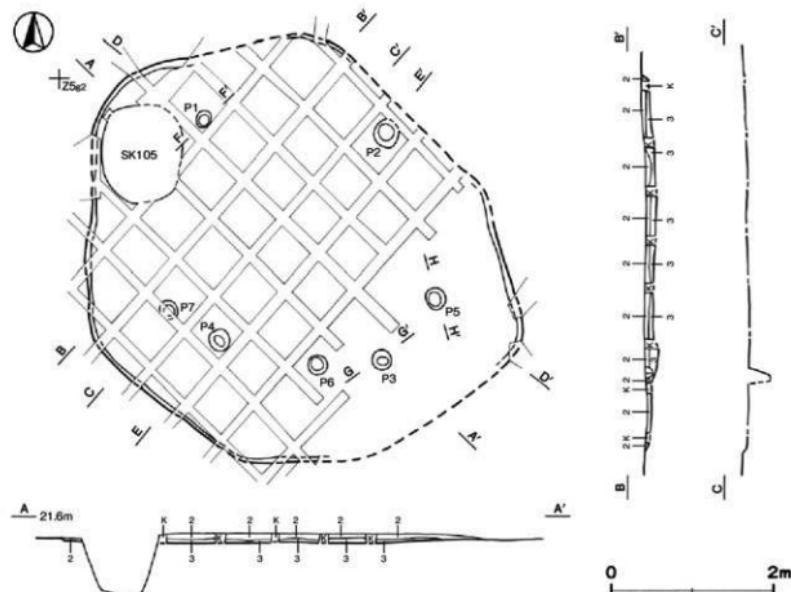
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP26	绳文土器	深鉢	長石・石英	褐	LRの單鋸縦文	覆土中	
TP27	绳文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	沈線文を格子状に施文	覆土中層	

第28号住居跡（第33・34図）

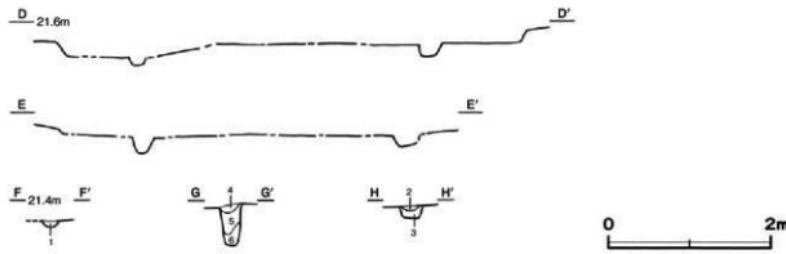
位置 調査区北東部のZ 5g2区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 混乱を受けているため遺存状況は悪く、長径5.7m、短径4.6mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN - 43° - Wである。壁高は6~18cmで、外傾して立ち上がっている。



第33図 第28号住居跡実測図（1）



第34図 第28号住居跡実測図(2)

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ8～50cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5～P 7は深さ15～22cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量	4	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
2	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量	5	暗	褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量
3	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量	6	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子極微量

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量	3	褐	色	ローム粒子極多量、炭化粒子極微量
2	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量				

遺物出土状況 繩文土器片11点(深鉢)が覆土中から出土している。これらは細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。

表2 繩文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	東 西	北 南	高 底	底面 長幅×短幅(m)	壁 厚	壁構 柱柱穴	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備考 重複関係(古→新)		
										柱柱穴	出入口	ピット	砂	若窓穴				
3	B2g4	[楕円形]	N - 4° - W	(4.86 × 3.38)	4 ~ 15	地山	-	3	1	-	1	-	-	-	自然	縄文土器	前期中葉	
5	B2f6	[楕円形]	N - 16° - E	(4.20 × 3.73)	4 ~ 15	地山	-	4	-	7	1	-	-	-	自然	縄文土器	前期中葉	
6	B2g7	[楕円形]	N - 43° - E	(7.00 × 5.00)	-	-	-	3	-	8	1	-	-	-	縄文土器	前期中葉	SK66 → 本跡 SK65 新旧不明	
7	B2f1	[円形]	-	(7.00 × 7.00)	-	-	-	4	1	12	1	-	-	-	縄文土器	後期前葉	SK2	
8	B2h9	[楕円形]	N - 38° - W	(6.00 × 5.00)	-	-	-	-	-	11	1	-	-	-	縄文土器	中期前葉	SK5・6・54 新出不明	
9	B2b3	[円形]	-	(6.50 × 6.50)	-	-	-	3	-	9	1	-	-	-	縄文土器	早期以降		
10	A3i2	[楕円形]	N - 53° - E	(6.50 × 5.30)	-	-	-	4	1	4	1	-	-	-	縄文土器	中期後葉		
11	B2e7	[楕円形]	N - 80° - W	(7.00 × 6.00)	-	-	-	4	-	4	1	-	-	-	縄文土器	中期		
12	Z6f9	[楕円形]	N - 32° - E	(4.85 × 4.66)	13 ~ 35	地山	-	3	-	12	1	-	-	-	自然	縄文土器、石器、人骨	前期中葉	
15	Y6j2	[楕円形]	N - 89° - E	5.84 × 4.66	25 ~ 49	地山	-	4	-	8	1	-	-	-	自然	縄文土器、石器	前期中葉	
20	A5a7	[長楕円形]	N - 28° - E	5.88 × 3.22	12 ~ 18	地山	-	4	-	2	-	1	-	-	縄文土器	前期中葉	本跡 → SD 3	
21	Z5h7	[楕円形]	N - 51° - E	5.00 × 4.12	32 ~ 45	地山	-	4	-	11	1	-	-	-	自然	縄文土器	前期中葉	本跡 → SK106・104
22	Z5j7	[楕円形]	N - 83° - E	5.69 × 3.88	16 ~ 26	地山	-	6	-	5	-	-	-	-	自然	縄文土器	前期中葉	
25	A5a0	[長方形]	N - 48° - E	(5.00 × 3.80)	16 ~ 21	地山	-	4	2	11	1	-	-	-	自然	縄文土器、石器	前期中葉	本跡 → SK106・147
27	Z5j4	[楕円形]	N - 1° - E	(8.20 × 7.00)	16 ~ 23	地山	-	3	-	31	-	-	-	-	自然	縄文土器	前期中葉	
28	Z5g2	[楕円形]	N - 43° - W	(5.70 × 4.60)	6 ~ 18	地山	-	4	-	3	-	-	-	-	自然	縄文土器	前期	本跡 → SK106

(2) 炉穴

第1号炉穴 (SK87) (第35図)

位置 調査区北東部のZ 6c2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径154m、短径120mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。南東部に火焚部、北西部に足場が付設されている。深さは火焚部が37cm、足場が26cmである。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

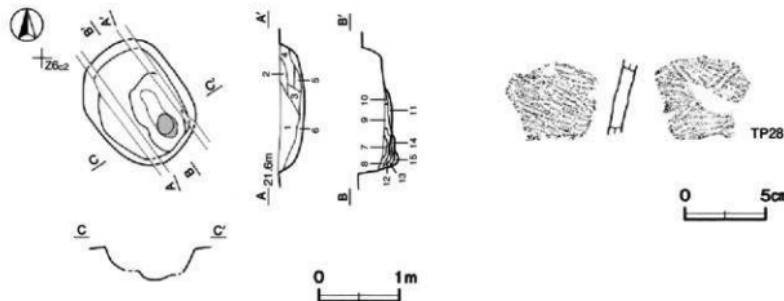
覆土 15層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第14層上面である。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	9	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック少量	10	黒	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗	褐色	ロームブロック少量	11	褐	色	燒土粒子少量
4	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12	暗	赤褐色	燒土粒子少量、ローム粒子微量
5	黒	褐色	ローム粒子微量	13	暗	赤褐色	燒土粒子中量、ロームブロック少量
6	褐	色	ロームブロック少量	14	暗	赤褐色	燒土粒子多量
7	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子微量	15	暗	赤褐色	燒土粒子中量
8	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 純土器片7点(深鉢)が出土している。TP28は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第35図 第1号炉穴・出土遺物実測図

第1号炉穴出土物観察表 (第35図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の等級ほか	出土位置	備考
TP28	純土器片	深鉢	長石・石英・岩母	にぶい橙	外・内面条痕文	覆土中	PL19

第2号炉穴 (SK89) (第36図)

位置 調査区北東部のZ 6a4区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径201m、短径153mの不整椭円形で、長径方向はN-42°-Eである。南東部に火焚部、北西部に足場が付設されている。深さは火焚部が58cm、足場が36cmである。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

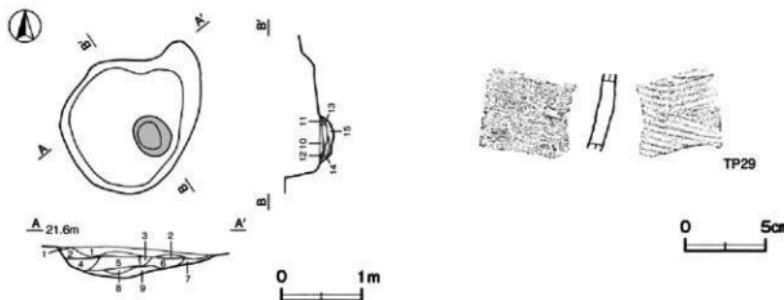
覆土 15層に分層できる。覆土上層から下層に貝が混入していることから、埋め戻されている。火床面は、第13層上面である。

土層解説

1 黒 色	貝少量、ローム粒子微量	9 暗 暗 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量、貝無微量
2 暗 色	ロームブロック中量	10 暗 赤 暗 色	燒土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 色	ロームブロック少量	11 暗 暗 色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗 色	ロームブロック中量、貝・炭化粒子微量	12 赤 暗 色	燒土粒子多量、ローム粒子微量
5 暗 暗 色	貝・ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	13 赤 暗 色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗 色	ローム粒子中量	14 暗 赤 暗 色	燒土粒子中量、ローム粒子微量
7 暗 色	ロームブロック多量	15 暗 色	ローム粒子多量
8 暗 暗 色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 繩文土器片 39点（深鉢）、貝 971点（ハイガイ 753、オキシジミ 162、ハマグリ 42、ウミニナ 14）が出土している。TP29は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第36図 第2号炉穴・出土遺物実測図

第2号炉穴出土遺物観察表（第36図）

番号	種 別	器 様	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出 土 位 置	備 考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	外・内面条痕文	覆土中	

第3号炉穴（SK113）（第37図）

位置 調査区北東部のZ 6丘区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 扰乱を受けていたため遺存状況は悪く、長径1.60m、短径1.20mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-50°-Eである。南西部に火焚部、北東部に足場が付設されている。深さは火焚部が30cm、足場が23cmである。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。足場は火焚部に向かってほぼ平坦である。

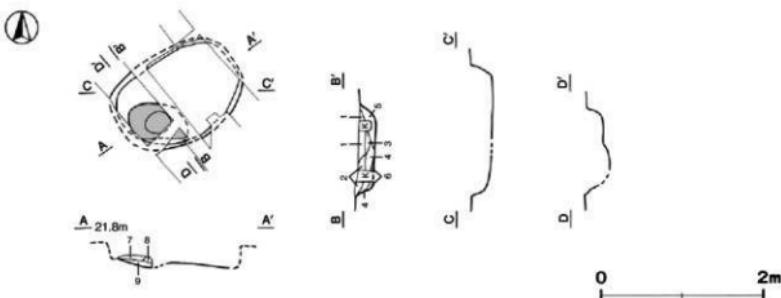
覆土 9層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第7・8層上面である。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------|-----------|----------------|
| 1 細 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 細 赤 褐 色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 細 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 細 赤 褐 色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 3 細 褐 色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 8 細 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量 |
| 4 細 赤 褐 色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 細 赤 褐 色 | 焼土ブロック少量 |
| 5 細 赤 褐 色 | 焼土粒子中量 | | |

遺物出土状況 繩文土器片 4 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

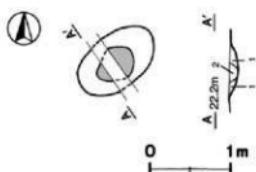


第37図 第3号炉穴実測図

第4号炉穴（第38図）

位置 調査区北東部のZ 6h7区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.10 m、短径 0.63 m の楕円形で、長径方向は N - 53° - E である。中心が火焚部で、火焚部の深さは 10cm である。足場の位置は不明である。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。



第38図 第4号炉穴実測図

覆土 2 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第 2 層上面である。

土層解説

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 黒 黑 色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 細 赤 褐 色 | 焼土粒子多量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 繩文土器片 5 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

第5号炉穴（第39図）

位置 調査区北東部のZ 6h7区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

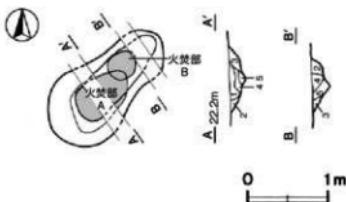
規模と形状 長径 1.74 m、短径 0.73 m の楕円形で、長径方向は N - 46° - E である。火焚部は、南西部（火焚部 A）と北東部（火焚部 B）の 2 か所で確認した。足場の位置は不明である。深さは火焚部 A が 20cm、火焚部 B が

22cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況である
ことから埋め戻されている。火床面は火焚部Aが第
1層上面、火焚部Bが第4層上面である。

土層解説

- 1 にじみ赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 4 にじみ赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焚土粒子中量、ロームブロック少量



所見 時期は、出土遺物はないが、他の炉穴と同様の形状であることから早期後半と考えられる。

第39図 第5号炉穴実測図

第6号炉穴（第40図）

位置 調査区北東部のZ62区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 撥乱を受けているため遺存状況は悪く、径1.0mほどの円形と推定される。中心が火焚部で、深さは16cmである。足場の位置は不明である。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第3層上面である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 細 色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 にじみ赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量 |
| 2 細 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP30は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第40図 第6号炉穴・出土遺物実測図

第6号炉穴出土遺物観察表（第40図）

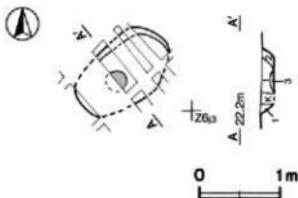
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじみ橙	外・内面条痕文	覆土中	PL.19

第7号炉穴（第41図）

位置 調査区北東部のZ 6i2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径124m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。南西部に火焚部、北東部に足場が付設されている。深さは火焚部が16cmである。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第3層上面である。



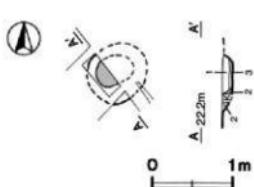
第41図 第7号炉穴実測図

第8号炉穴（第42図）

位置 調査区北東部のZ 6i2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 振乱を受けているため遺存状況は悪く、径0.7mほどの円形と推定される。中心が火焚部で、足場の位置は不明である。深さは14cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第3層上面である。



第42図 第8号炉穴実測図

第9号炉穴（第43図）

位置 調査区北東部のA 6a3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 振乱を受けているため遺存状況は悪く、長径1.0m、短径0.7mほどの楕円形と推定でき、長径方向はN-46°-Wである。南東部に火焚部、北西部に足場が付設されている。火焚部の深さは、14cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

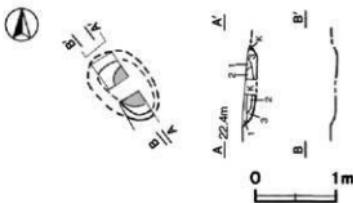
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第2層上面である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 燃土粒子多量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 燃土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第43図 第9号炉穴実測図

第10号炉穴 (第44図)

位置 調査区北東部のZ 6 b4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

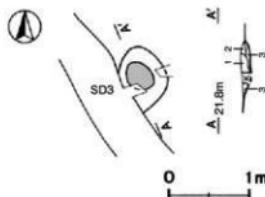
規模と形状 南西部が第3号溝に掘り込まれているため、北西・南東径は0.68mで、北東・南西径は0.57mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-32°-Wである。北東部に火焚部、南西部に足場が付設されていたと考えられる。火焚部の深さは11cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第1層上面である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・燃土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子極多量、燃土粒子微量

所見 時期は、出土遺物はないが、他の炉穴と同様の形状であることから早期後半と考えられる。



第44図 第10号炉穴実測図

第11号炉穴 (第45図)

位置 調査区北東部のA 6 c4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.36m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。北東部に火焚部、南西部に足場が付設されている。火焚部の深さは18cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

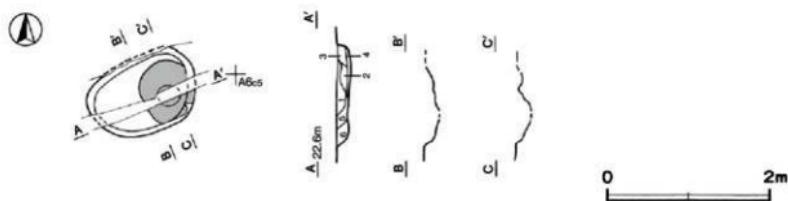
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。火床面は、第4層上面である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子・燃土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、燃土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量、燃土ブロック極微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・燃土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量、燃土ブロック極微量 |

遺物出土状況 繩文土器片 14 点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第45図 第11号炉穴実測図

表3 繩文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	側 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	Z6c2	N-35°-W	椭円形	1.54 × 1.20	37	皿状	外傾 外傾 傾斜	自然	縄文土器	
2	Z6a4	N-42°-E	不整椭円形	2.01 × 1.53	58	皿状	外傾 外傾 自然	人为	縄文土器、具	
3	Z6f1	N-50°-E	[椭円形]	[1.60 × 1.20]	30	皿状	外傾 自然	自然	縄文土器	
4	Z6h7	N-53°-E	椭円形	1.10 × 0.63	10	皿状	傾斜	自然	縄文土器	
5	Z6h7	N-46°-E	椭円形	1.74 × 0.73	20・22	皿状	傾斜	人为		
6	Z6j2	-	[円形]	[1.00 × 1.00]	16	皿状	外傾 外傾 傾斜	自然	縄文土器	
7	Z6i2	N-46°-E	椭円形	1.24 × 0.78	16	皿状	外傾	自然	縄文土器	
8	Z6i2	-	[円形]	[0.70 × 0.70]	14	皿状	傾斜	自然		
9	A6a3	N-46°-W	[椭円形]	[1.00 × 0.70]	14	皿状	傾斜	自然	縄文土器	
10	Z6b4	N-32°-W	[椭円形]	0.68 × (0.57)	11	皿状	傾斜	自然		本跡→SD3
11	A6c4	N-65°-E	椭円形	1.36 × 0.95	18	皿状	傾斜	人为	縄文土器	

(3) 炉跡

第1号炉跡（第46図）

位置 調査区南西部のB 2 f1 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.72 m、短径 1.38 m の椭円形で、底面は皿状に 24cm 堀り込まれ、壁は緩やかに立ち上がりっている。長径方向は N-82°-W である。

覆土 4 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。火床面は、第1層上面である。火床面は、火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

土層解説

1	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	3	褐 色	ローム粒子中量
2	赤褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	4	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP31 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第46図 第1号炉跡・出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・黄母	褐	Rの無鉢縄文	覆土中	PL.21

第2号炉跡（第47図）

位置 調査区南西部のB 2 d6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 振乱を受けているため遺存状況は悪く、北西・南東径

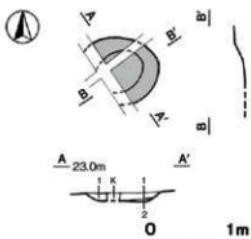
は 0.88 m で、北東・南北径は 0.56 m しか確認できなかった。平面形
は 楕円形と推定でき、底面は皿状に 10 cm 掘り込まれ、壁は緩やかに
立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示すことか
ら自然堆積である。火床面は、第1層上面である。火床面は、火熱
を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

土層解説

- 1 級 赤褐色 塗土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 級 赤褐色 塗土粒子中量

所見 時期は、出土遺物はないが、他の炉跡と同様の形状であるこ
とから前期と考えられる。



第47図 第2号炉跡実測図

第3号炉跡（第48図）

位置 調査区南西部のB 1 f9 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が削平されているため、南北径は 0.59 m で、東西径は 0.50 m しか確認できなかった。平面形
は 楕円形と推定でき、底面は皿状に 4 cm 掘り込まれ、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。火床面は、第1層上面である。火床面
は火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

土層解説

- 1 赤褐色 塗土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP32 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第48図 第3号炉跡・出土遺物実測図

第3号炉跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・輝	棕	RLの單鋸縄文	覆土下層	

表4 縄文時代炉跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	胎 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B2f1	N-82°-W	椭円形	172×138	24	皿状	縦斜	自然	縄文土器	本跡→SI 7
2	B2d6	-	[椭円形]	0.88×(0.56)	10	皿状	縦斜	自然	縄文土器	
3	B1f9	-	[椭円形]	0.59×(0.50)	4	皿状	縦斜	自然	縄文土器	

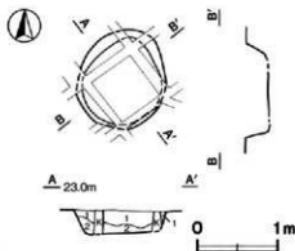
(4) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑56基を確認した。そのうち12基については文章で説明し、それ以外の44基については、規模・形状等について実測図（第65～68図）、土層解説と一覧表を掲載する。

第12号土坑（第49・50図）

位置 調査区南西部のB2c1区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.23m、短径1.04mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さは28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。



覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子が含まれていることから埋め戻されている。

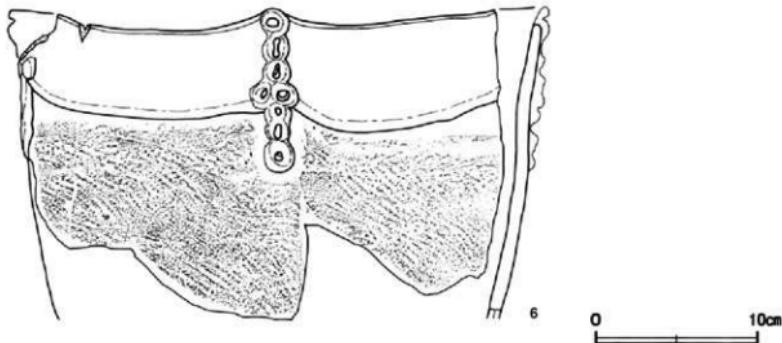
土層解説

- 1 帰 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 帰 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。6は覆土中から出土しており、第17号土坑の覆土中層から出土している破片と接合している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第49図 第12号土坑実測図



第50図 第12号土坑出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第50図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 殊 ほ か	出土位置	備 考
6	陶文土器	深鉢	[330]	(19.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部4単位の小波状、口縁部の無文面を区画する條帶を横径に流らす。波頂部から「8」字状の付文。裏面はR.Lの單脚純文。	覆土中	30% SK17 出土の破片と PL.16

第13号土坑（第51図）

位置 調査区南西部のB 2g2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

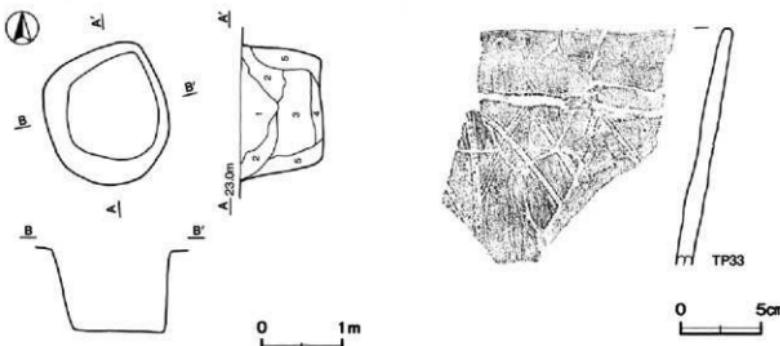
規模と形状 長径 1.66 m、短径 1.48 m の楕円形で、長径方向は N - 24° - W である。深さは 100cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 横 斜 間 色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 垂 暗 褐 色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 覆 色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 5 明 暗 褐 色 ローム粒子少量



第51図 第13号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片 96 点（深鉢）が出土している。TP33 は覆土中から出土している。

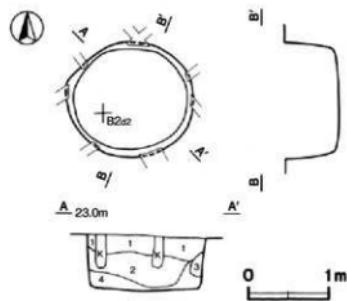
所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 13 号土坑出土遺物観察表（第 51 図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい性	脚部「X」字状に条綱文	覆土中	PL.21

第 17 号土坑（第 52 図）

位置 調査区南西部の B 2c2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 52 図 第 17 号土坑実測図

規模と形状 長径 1.58 m、短径 1.46 m の円形である。深さは 68cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 白褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 白褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒褐 色 ロームブロック微量
- 4 白褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片 19 点（深鉢）が出土している。

西部の覆土中層から出土した深鉢片は、第 12 号土坑出土の破片と接合していることから第 12 号土坑出土の 6 として掲載する。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 25 号土坑（第 53 図）

位置 調査区南西部の A 1j0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.77 m、短径 1.63 m の円形である。深さは 70cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

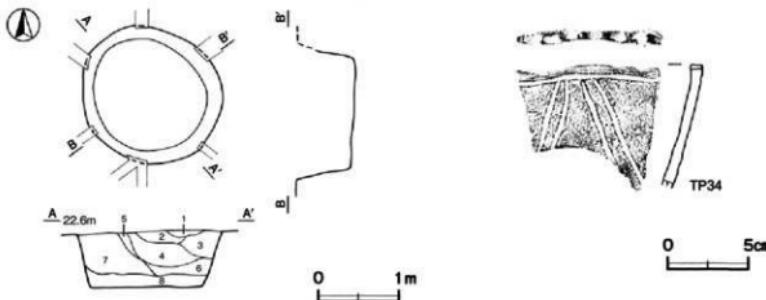
覆土 8 層に分層できる。貝は、第 2・4 層から出土しており、いずれも混貝土層である。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐 色 ローム粒子微量 | 5 黒褐 色 ローム粒子、炭化粒子微量 |
| 2 白褐 色 貝少量、ロームブロック微量 | 6 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐 色 ロームブロック少量 | 7 白褐 色 ロームブロック微量 |
| 4 黑褐 色 貝中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 にぶい褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 118 点（深鉢）、貝 4,887 点（オキシジミ 39、ハマグリ 651、ウミニナ 111、マガキ 4,086）が出土している。貝は、覆土上層・中層から、TP34 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第53図 第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP34	陶土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	半載骨管状工具による斜位の平行沈澱文	覆土中	PL.21

第57号土坑（第54・55図）

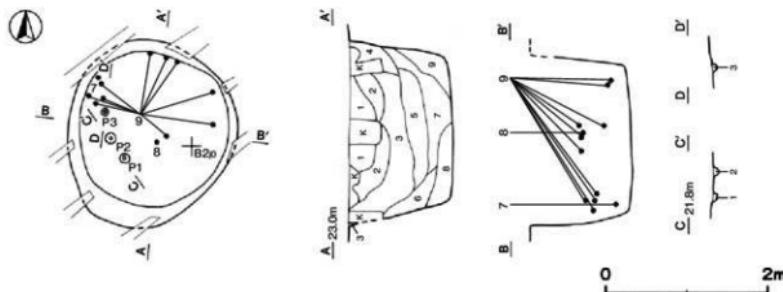
位置 調査区南西部のB-219区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.30m、短径2.07mの楕円形で、長径方向はN-21°-Eである。深さは123cmで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	6	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子極微量	7	明褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	8	褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ロームブロック少量	9	明褐色	ローム粒子中量
5	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			



第54図 第57号土坑実測図

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ6～8cmで、性格不明である。

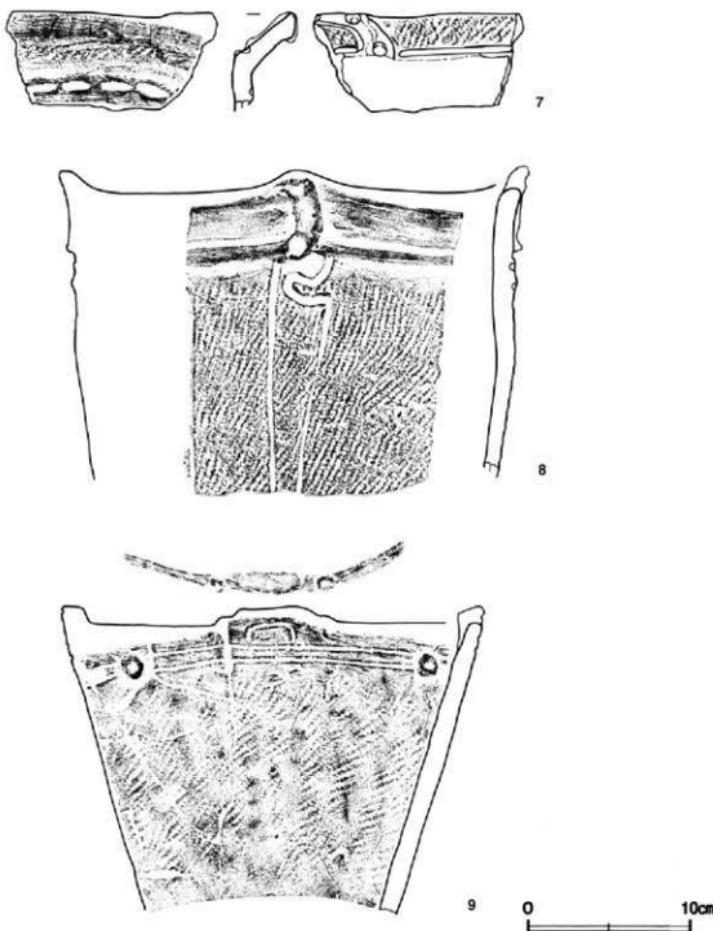
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片54点（深鉢）が出土している。7は北西部の覆土下層から、8は中央部の覆土中層から、9は中央部から北部の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第55図 第57号土坑出土遺物実測図

第 57 号土坑出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英	に赤い模	普通	口縁部外側手取竹管工具による押し引き文 内部内側に施された棒状工具による円形刻文	覆土下層	10%
8	縄文土器	深鉢	[28.6]	(19.0)	-	長石・石英・雲母 ローム粒子	に赤い模	普通	口縁部微痕状、口縁部と腹部を骨面と仕上げ 底部下斜面文を点として施す文を施す	覆土中層	10% PL16
9	縄文土器	深鉢	25.8	(18.7)	-	長石・石英・雲母	に赤い模	普通	口縁部微痕状、口縁部無文部を区別する 2 本の横筋文	覆土中層 -下層	60% PL16

第 66 号土坑（第 56 図）

位置 調査区南西部の B 2 g7 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 短径は 1.28 m で、長径は推定で 1.60 m の楕円形であり、長径方向は N - 9° - E である。深さは 123 cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

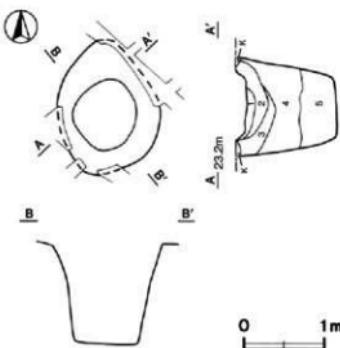
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 間褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 8 点（深鉢）が出土している。

いざれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から前期中葉以前と考えられる。



第 66 号土坑実測図

第 72 号土坑（第 57・58 図）

位置 調査区南西部の B 3 d1 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.22 m、短径 1.18 m の円形である。深さは 57 cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

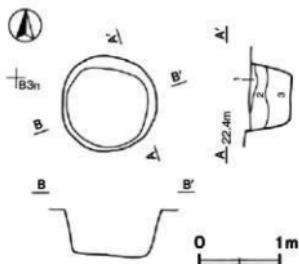
土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量

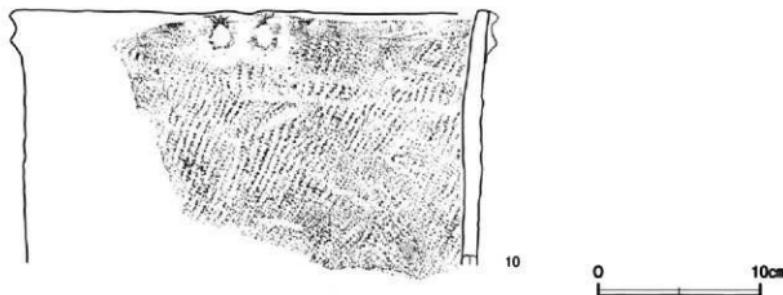
遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。10

は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 72 号土坑実測図



第58図 第72号土坑出土遺物実測図

第72号土坑出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	[30.2]	(15.7)	-	貝石・石英・黑母 赤色粒子	灰青 赤	普通	口縁部円形の側変文　胴部L型の單面繩文	覆土中	30% PL16

第90号土坑（第59図）

位置 調査区北東部のA 6b7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

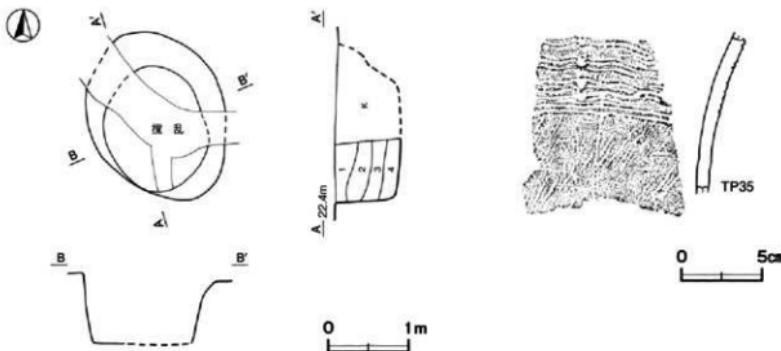
規模と形状 長径2.16m、短径1.68mの楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。深さは84cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 3 黄褐色　ロームブロック中量
4 黄褐色　ロームブロック多量



第59図 第90号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 39 点（深鉢）が出土している。TP35 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。

第 90 号土坑出土遺物観察表（第 59 図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	2 本単位の撫衛支を微波状に横位施支しの無筋縄文	覆土中	PL19

第 93 号土坑（第 60・61 図）

位置 調査区北東部の Z 6 d3 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.74 m、短径 2.46 m の楕円形で、長径方向は N - 35° - E である。深さは 10cm で、壁は緩やかに傾斜している。底面は、緩やかな凹凸を有している。

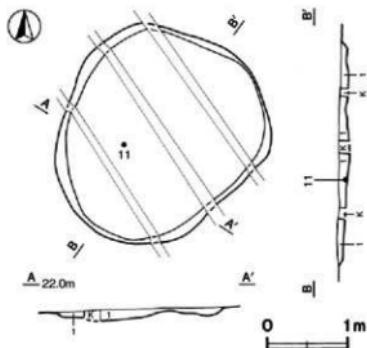
覆土 単一層である。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

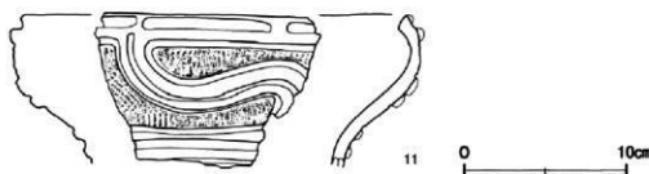
1 級 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物出土状況 縄文土器片 21 点（深鉢）が出土している。11 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 60 図 第 93 号土坑実測図



第 61 図 第 93 号土坑出土遺物実測図

第 93 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
11	縄文土器	深鉢	[238]	(9.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通 全形成 R 上の单筋縄文	漆滑と沈凝による(区画・ランク)状のモチーフ	覆土下層	10% PL15

第 103 号土坑（第 62 図）

位置 調査区北東部の Z 5 h7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.2 m ほどの円形と推定される。深さは 34 cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

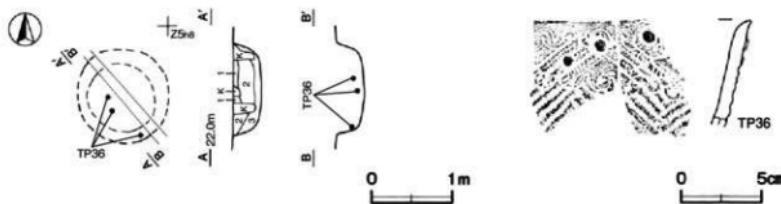
覆土 3 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|----|----------------------|------|----|---------------------|
| 1 基層 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化微量、焼土粒子極微量 | 3 植層 | 褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | | ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子極微量 | | | |

遺物出土状況 繩文土器片 7 点（深鉢）が出土している。TP36 は、中央部から南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第 62 図 第 103 号土坑・出土遺物実測図

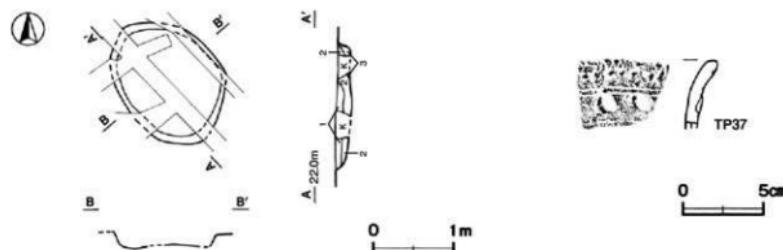
第 103 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英	にふい褐色	口縁部半乾竹箆状工具によるコンパス文 平行式縫内にキサギ目 離心型竪状平行文	覆土下層	PL21

第 140 号土坑（第 63 図）

位置 調査区北東部の Z 5 i6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 短径は 1.25 m で、長径は推定で 1.6 m ほどの楕円形であり、長径方向は N - 41° - W である。深さは 19 cm で、壁は緩やかに傾斜している。底面は平坦である。



第 63 図 第 140 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

3 黄褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片 10点（深鉢）が出土している。TP37は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。

第140号土坑出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半截竹管・棒状工具による刺突文を二重直線で区画	覆土中	PL19

第144号土坑（第64図）

位置 調査区北東部のZ5h6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.70m、短径2.24mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さは21cmで、壁は緩やかに傾斜している。底面は平坦である。

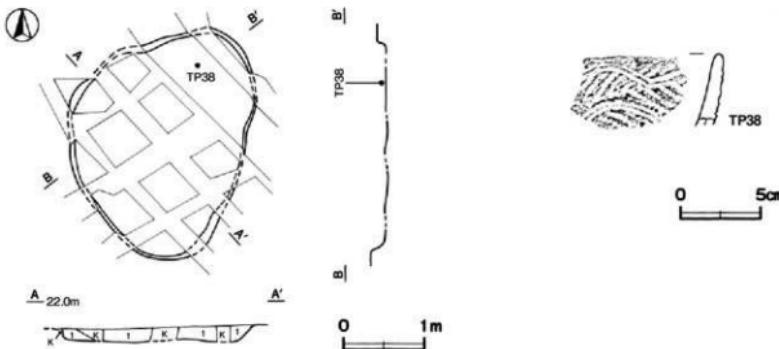
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 11点（深鉢）が出土している。TP38は、北部の覆土下層から出土している。

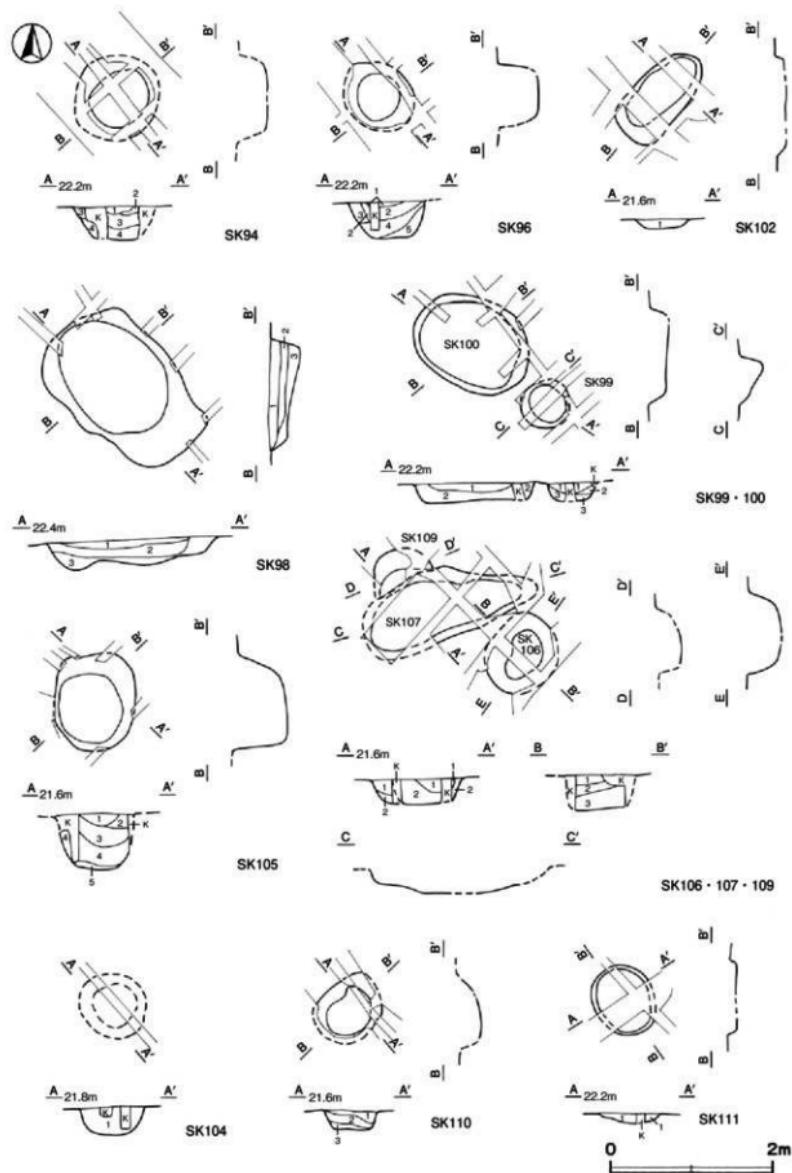
所見 時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



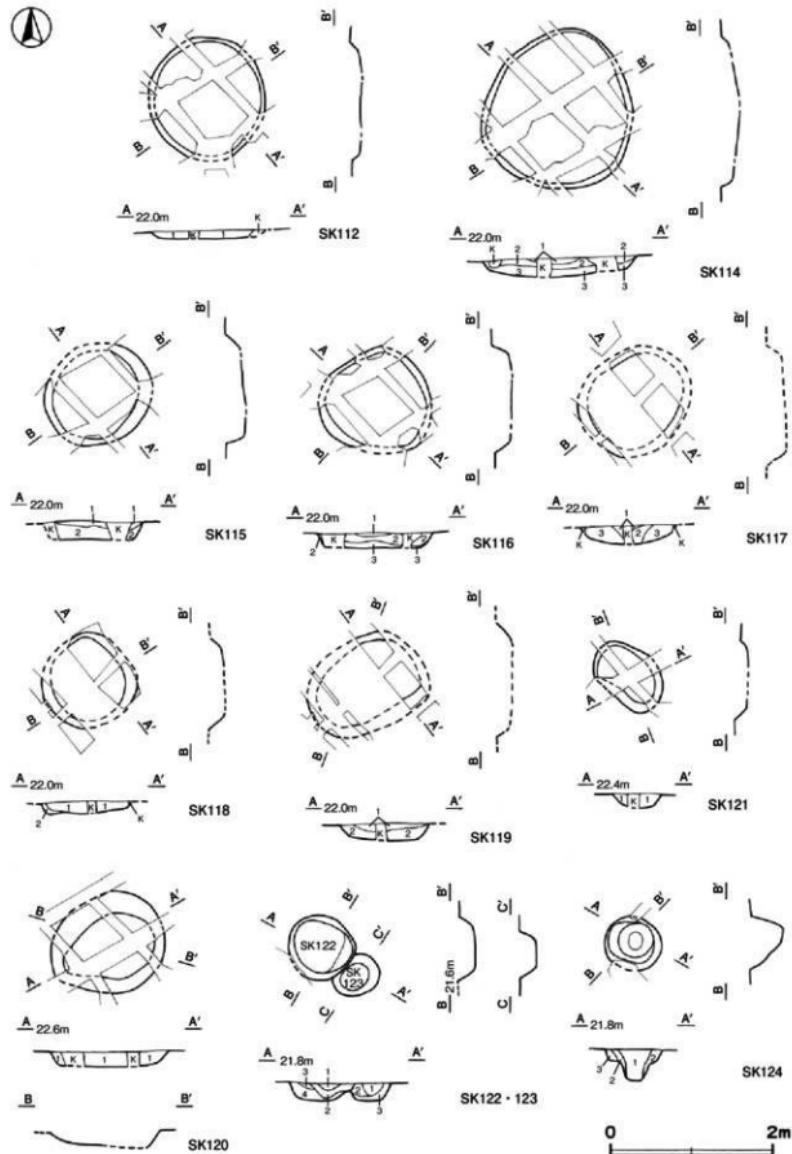
第64図 第144号土坑・出土遺物実測図

第144号土坑出土遺物観察表（第64図）

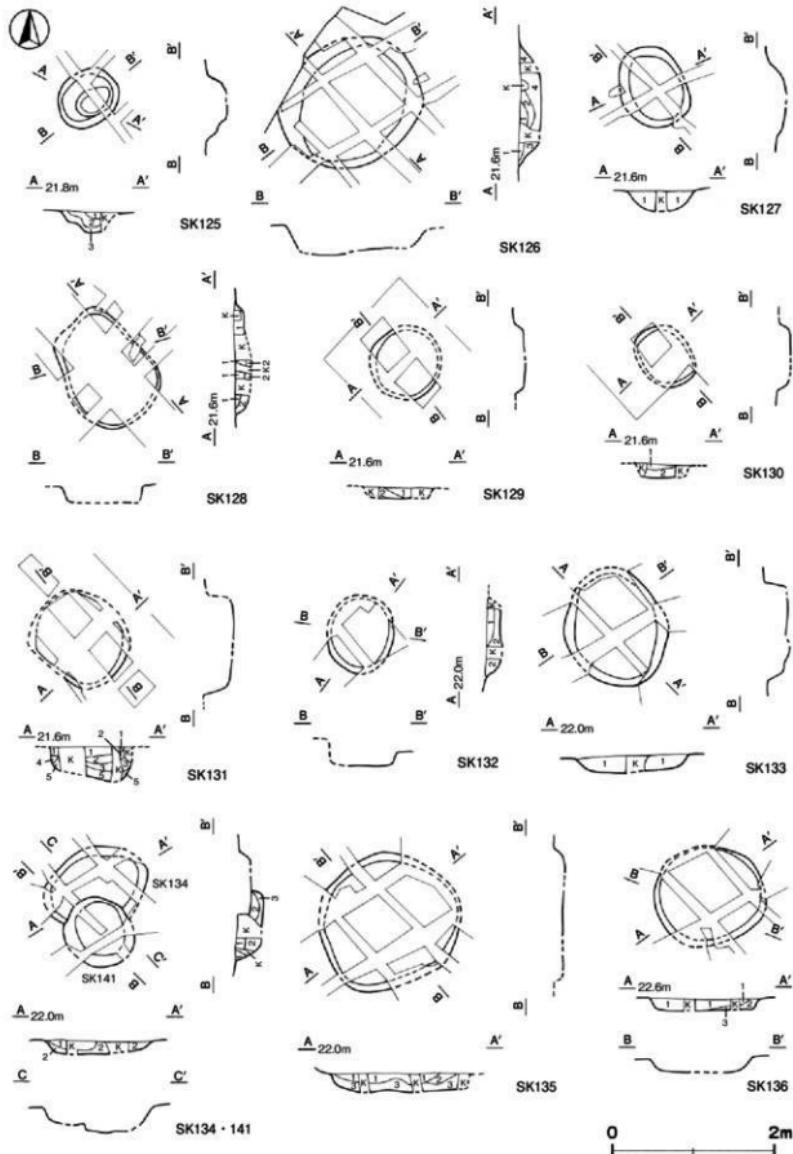
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	半截竹管状工具による沈縫を波状に盛る L.R・R.Lの単路 縄文を羽状施加	覆土下層	PL20



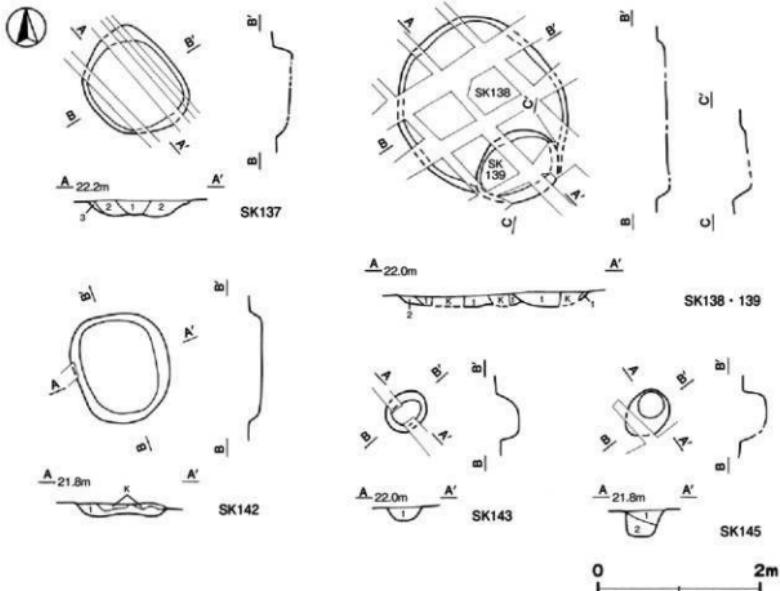
第65図 繩文時代土坑実測図（1）



第66図 繩文時代土坑実測図（2）



第67図 繩文時代土坑実測図（3）



第68図 繩文時代土坑実測図（4）

第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 極褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第98号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第99号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第100号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第102号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量

第104号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第110号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第 111 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

第 112 号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第 114 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

第 115 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量

第 116 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子多量

第 117 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子多量

第 118 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

第 119 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

第 120 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

第 121 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

第 122 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

3 褐色 ローム粒子中量

4 褐色 ロームブロック少量

第 123 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子多量

第 124 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ローム粒子中量

第 125 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ローム粒子中量

第 126 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック少量

4 褐色 ローム粒子中量

第 127 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

第 128 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

第 129 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ローム粒子多量

第 130 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ロームブロック中量

第 131 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子少量

4 暗褐色 ローム粒子中量

5 褐色 ロームブロック中量

第 132 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量

第 133 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 134 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量

第 135 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量

第 136 号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量

3 暗褐色 ローム粒子多量

第 137 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ローム粒子中量

第 138 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

第 139 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

第 141 号土坑土層解説

1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量

3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 142 号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量

第 143 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第 145 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ロームブロック中量

表5 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
12	B2c1	N-17°-E	楕円形	1.23×1.04	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	
13	B2g2	N-24°-W	楕円形	1.66×1.48	100	平坦	外傾	自然	縄文土器	
17	B2c2	-	円形	1.58×1.46	68	平坦	直立	人為	縄文土器	
25	A1j0	-	円形	1.77×1.63	70	平坦	外傾	人為	縄文土器、貝	
57	B2j9	N-21°-E	楕円形	2.30×2.07	123	平坦	外傾	人為	縄文土器	
66	B2g7	N-9°-E	楕円形	[1.60]×1.28	123	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→SI 6
72	B3f1	-	円形	1.22×1.18	57	平坦	外傾	自然	縄文土器	本跡→SI 1
90	A6b7	N-22°-W	楕円形	2.16×1.68	84	平坦	外傾	人為	縄文土器	
93	Z6d3	N-35°-E	楕円形	2.74×2.46	10	凹凸	傾斜	自然	縄文土器	
94	Z5i0	-	〔円形〕	[1.10]×1.02	37	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
96	Z6j2	N-44°-W	〔楕円形〕	0.96×[0.79]	49	平坦	外傾	自然	縄文土器	
98	A5b0	N-43°-W	長方形	2.10×1.35	30	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
99	A5a9	-	〔円形〕	[0.61]×[0.56]	26	平坦	外傾 傾斜	自然	縄文土器	
100	A5a9	N-57°-W	楕円形	1.52×1.12	30	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
102	Z5d3	N-42°-E	楕円形	1.26×0.65	12	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
103	Z5h7	-	〔円形〕	[1.20]×[1.20]	34	平坦	外傾	人為	縄文土器	SI 21→本跡
104	Z5g7	-	〔円形〕	0.86×[0.80]	17	平坦	外傾	自然	縄文土器	SI 21→本跡
105	Z5g2	N-28°-E	楕円形	1.22×1.05	68	平坦	外傾	人為	縄文土器	SI 28→本跡
106	Z5e2	N-40°-E	〔楕円形〕	0.98×[0.86]	43	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
107	Z5e2	N-77°-E	〔楕円形〕	[2.21]×[0.88]	35	平坦	傾斜	自然	縄文土器	SK109→本跡
109	Z5e2	-	〔楕円形〕	[0.48]×[0.41]	30	平坦	傾斜	自然	縄文土器	本跡→SK107
110	Z5d7	N-46°-E	〔楕円形〕	[0.90]×[0.70]	30	平坦	外傾	自然	縄文土器	
111	A5e5	N-36°-W	〔楕円形〕	0.89×[0.75]	9	平坦	外傾	自然	縄文土器	
112	A5b3	-	〔円形〕	[1.45]×[1.43]	11	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
114	A5b2	N-15°-E	〔楕円形〕	[2.00]×[1.78]	16	平坦	外傾 傾斜	自然	縄文土器	
115	A5b2	N-46°-E	〔楕円形〕	1.37×[1.24]	20	平坦	外傾 傾斜	自然	縄文土器	
116	A5c2	-	円形	1.35×1.32	22	平坦	外傾 傾斜	自然	縄文土器	
117	Z5g9	N-47°-E	〔楕円形〕	[1.43]×[1.22]	12	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
118	Z5h9	-	〔円形〕	[1.10]×[1.09]	10	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
119	Z5h9	N-51°-E	〔楕円形〕	[1.46]×[1.15]	10	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
120	A5e5	N-60°-E	〔楕円形〕	1.46×[1.20]	19	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
121	A5e5	N-42°-W	〔楕円形〕	0.97×[0.64]	16	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
122	Z5f5	N-47°-W	〔楕円形〕	[0.80]×0.76	20	平坦	外傾	自然	縄文土器	SK123→本跡
123	Z5f5	N-53°-E	〔楕円形〕	0.56×[0.44]	20	平坦	外傾	自然		本跡→SK122
124	Z5f5	-	〔円形〕	0.69×[0.63]	38	平坦	外傾 傾斜	自然	縄文土器	
125	Z5f5	N-50°-E	楕円形	0.79×0.66	26	平坦	傾斜	自然		
126	Z5g4	N-56°-E	楕円形	1.78×1.50	34	平坦	傾斜	自然	縄文土器	
127	Z5g4	N-21°-W	楕円形	1.02×0.80	24	難状	傾斜	自然		
128	Z5f5	N-34°-W	〔楕円形〕	[1.40]×[0.98]	21	平坦	外傾 傾斜	人為	縄文土器	
129	Z5f6	-	〔円形〕	0.82×[0.64]	17	平坦	傾斜	人為	縄文土器	
130	Z5e6	-	〔円形〕	0.80×[0.65]	17	平坦	傾斜	人為		
131	Z5e6	N-47°-W	〔楕円形〕	[1.23]×[1.05]	35	平坦	外傾	人為		
132	Z5j2	N-10°-E	〔楕円形〕	[0.95]×[0.82]	18	平坦	外傾	自然		
133	A5a3	N-15°-W	〔楕円形〕	[1.48]×[1.25]	27	平坦	外傾	自然		
134	A5a3	N-56°-E	〔楕円形〕	[1.27]×[1.02]	18	平坦	傾斜	自然		SK141→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
135	A5e2	-	[円形]	[1.70 × 1.65]	11	平坦	緩斜	自然		
136	A5e0	N - 66° - E	[椭円形]	1.34 × [1.20]	22	平坦	緩斜	自然		
137	A5a9	N - 39° - W	椭円形	1.35 × 1.10	19	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器	
138	Z5i5	N - 42° - W	[椭円形]	1.95 × [1.53]	14	平坦	緩斜	自然	縄文土器	本跡 → SK139
139	Z5i6	N - 62° - E	[椭円形]	[1.08] × 0.85	20	平坦	緩斜	自然	縄文土器	SK138 → 本跡
140	Z5i6	N - 41° - W	椭円形	[1.60] × 1.25	19	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
141	A5a3	N - 43° - W	椭円形	[0.91] × 0.82	30	平坦	緩斜	自然		本跡 → SK134
142	Z6e9	N - 13° - W	椭円形	1.33 × 1.16	15	平坦	外傾	自然		
143	A5c4	N - 48° - E	椭円形	0.56 × 0.43	25	平坦	外傾	自然	縄文土器	
144	Z5h6	N - 32° - E	椭円形	2.70 × 2.24	21	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
145	Z5h6	N - 43° - E	椭円形	0.59 × 0.48	34	平坦	直立	自然	縄文土器	

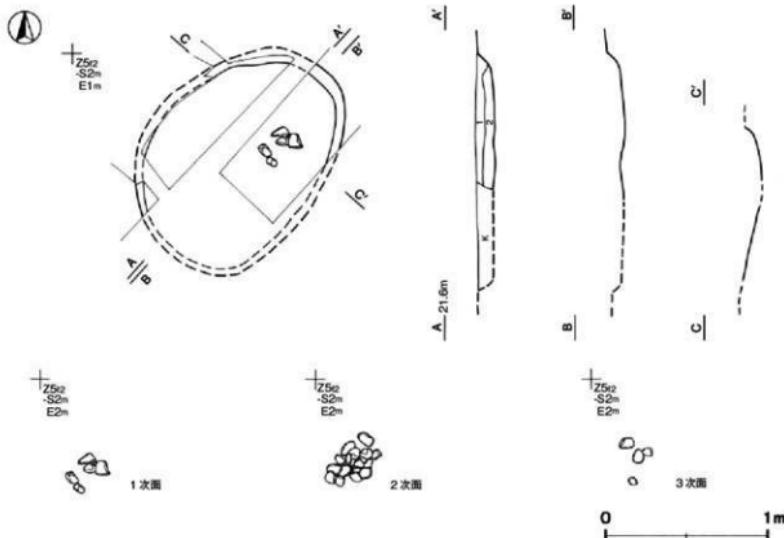
(5) 集石遺構

第1号集石遺構 (第69・70図)

位置 調査区北東部のZ 5f2区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 壊乱を受けているため遺存状況は悪いが、土坑状の掘り込みの中央部に礫が詰め込まれている。掘り込みの形状は、長径20m、短径1.0mほどの楕円形と推定される。長径方向はN - 40° - Eである。深さは12cmで、壁は緩やかに傾斜している。底面は緩やかな凹凸を有している。

覆土 2層に分層できる。確認面から深さ10cmまで礫が詰め込まれた状態で遺存しており、覆土は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。



第69図 第1号集石遺構実測図

土層解説

1 細 間 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 細 間 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）と礫66点（石英斑岩22、砂岩15、ホルンフェルス12、流紋岩9、チャート6、花崗岩2）が出土している。TP39は覆土中から出土している。礫の大きさは長さ15～10cm、幅1～7cmで、重さ1～470gである。総重量は8.108gで、出土した礫のはほとんどが全面に火を受けていた割離である。

所見 本跡の底面や壁には火を受けた痕跡が確認できなかったことから、他の場所で火を受けた後持ち込まれたか、廃棄された可能性がある。時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。

第1号集石遺構出土遺物観察表（第70図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP03	縄文土器	深鉢	黄土・石英	にじみ橙	貝殻陶文を横位施文	覆土中	

2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡8軒、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第2号住居跡（第71～74図）

位置 調査区南西部のB 2h2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.14m、短軸4.46mの隅丸長方形で、主軸方向はN-38°Wである。壁高は12～26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、櫻際を除いて踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径150cm、短径125cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1 暗赤褐色 燃土ブロック少量、炭化粒子微量

3 暗赤褐色 燃土粒子少量、炭化粒子微量

2 暗赤褐色 燃土ブロック中量

4 暗赤褐色 燃土ブロック少量

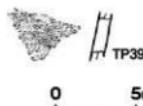
ピット 19か所。P 1～P 4は深さ62～68cmで、主柱穴と考えられる。P 5は深さ52cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 17は壁柱穴と考えられる。P 18・P 19は性格不明である。

ピット土層解説

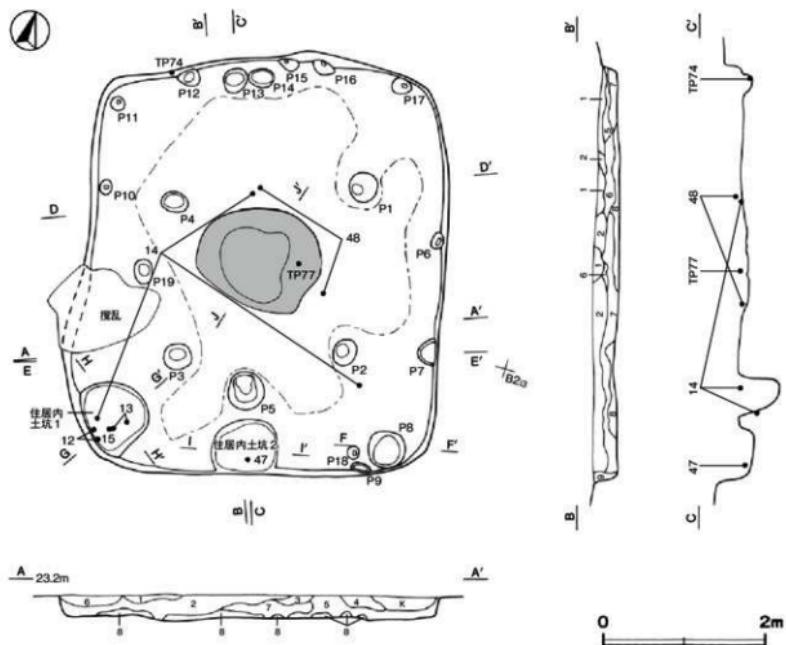
1 細 間 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 細 間 色 ロームブロック中量

住居内土坑 2か所。住居内土坑1は南西コーナー部に位置し、長径84cm、短径76cmの楕円形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。この土坑内に頭部から上位を切断された壺2点(14・15)と頭部のみ・口縁部から頭部にかけての壺2点(12・13)が底面から下層にかけて横位で出土している。壺の内部からは、流れ込んだ覆土以外に何も検出できなかった。住居内土坑1の性格は、食料の貯蔵穴と住居内埋葬の可能性が考えられるが、横位で埋設されていたことや同時期の他の例から後者の可能性が高い。住居内土坑2は南壁際の中央部に位置し、長径80cm、短径66cmの楕円形で、深さは10cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。住居内土坑2の性格は、不明である。



第70図 第1号集石
遺構出土遺物実測図



第71図 第2号住居跡実測図

住居内土坑 1 土层解剖

1 暗褐色 口一ム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

21 級 色 ロームブロック中量

住居内土坑 2 土层解剖

1. 暗褐色 口一ム粒子少量、壤土粒子・炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック少量

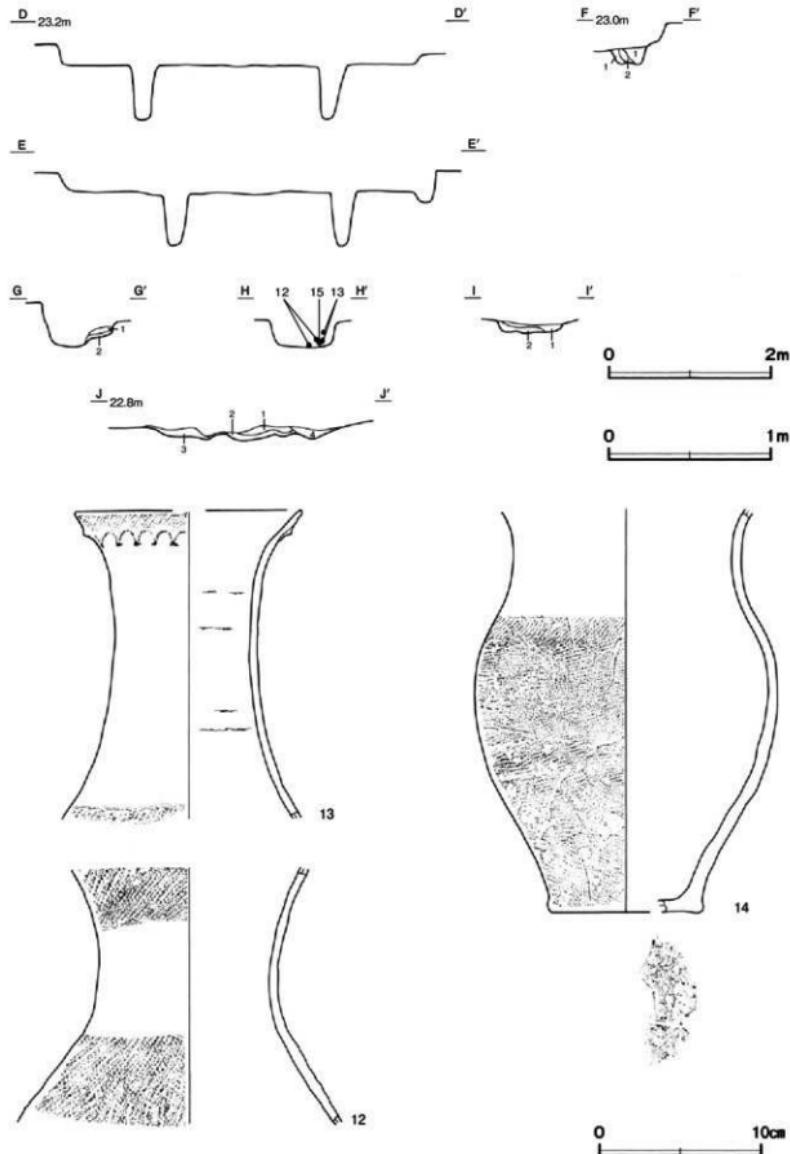
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土壤解說

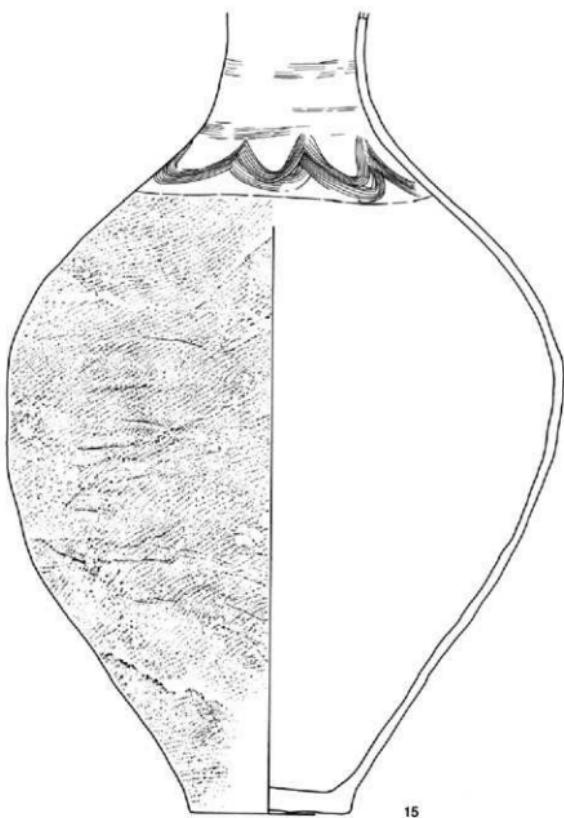
- | | | | | | |
|---|-------|---------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 褐 | 色 ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 黒褐色 | 色 ローム粒子微量・燒土粒子・炭化粒子極微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 | 明褐色 | 色 ローム粒子中量 |
| 4 | にぶい褐色 | ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 明褐色 | 色 ロームブロック少量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 弥生土器片 154 点（壺 152・細口壺 2）、土製品 1 点（紡錘車）が出土している。12～15 は、南西コーナー部の住居内土坑 1 の底面から覆土下層にかけて横位で出土している。47 は住居内土坑 2 の覆土下層から、TP74 は北壁際、48・TP77 は中央部の覆土下層から、DP 1 は覆土中層から、TP75・TP76 は覆土中からそれぞれ出土している。

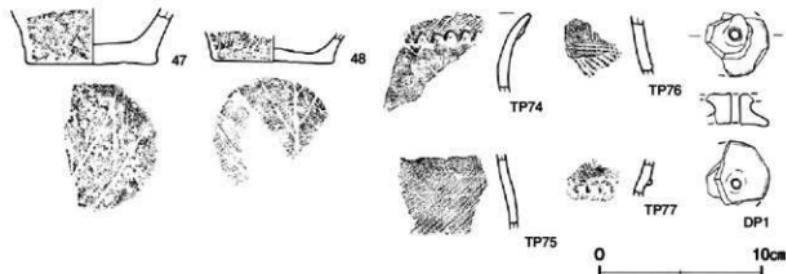
所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第72図 第2号住居跡・出土遺物実測図



第73図 第2号住居跡出土遺物実測図（1）



第74図 第2号住跡出土遺物実測図（2）

第2号住跡出土遺物観察表（第72～74図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	弦生土器	壺	-	(15.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にふい赤褐色	普通	口縁部附加条一種（附加2条）純文、頭部附加 条二種（附加2条）純文	住居内土坑1 覆土下層	PL17
13	弦生土器	壺	[138]	(18.9)	-	長石・石英・雲母	普通	普通	複合口縁部附加条一種（附加2条）純文、口縫 部附加条二種（附加2条）純文	住居内土坑1 覆土下層	30% PL17
14	弦生土器	壺	-	(24.7)	[9.2]	長石・石英	黒褐	普通	頭部無文、胴部LRの半面織文、底部木葉模	住居内土坑1 覆土下層	60% PL17
15	弦生土器	壺	-	(49.3)	9.4	長石・石英・雲母	普通	複合織柄表面状工具（5本）による横区溝・連弧文 頭部附加条一種（附加2条）純文、底部木葉模	住居内土坑1 覆土下層	60% PL17	
47	弦生土器	壺	-	(3.5)	7.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	複合織柄附加条一種純文、底部木葉模	住居内土坑2 覆土下層	10%
48	弦生土器	壺	-	(1.8)	7.5	長石・石英・雲母	にふい壊	普通	頭部附加条一種純文、底部木葉模	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP74	弦生土器	壺	長石・石英・雲母	にふい壊	複合口縁部附加条一種純文、口縫部下端棒状工具による押圧 頭部織文	覆土下層	
TP75	弦生土器	壺	長石・石英	灰褐色	頭部織柄原体による波状文、頭部附加条一種（附加2条）純文	覆土中	
TP76	弦生土器	壺	長石・石英・雲母	にふい壊	頭部織柄原体による横走文・縦区画スリット	覆土中	
TP77	弦生土器	壺	長石・石英・雲母	にふい壊	複合口縫部附加条一種純文、口縫部下端棒状工具による押圧	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	炉床	(39)	20	0.6	(19.4)	長石・石英	断面赤巻き形 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL22

第4号住跡（第75図）

位置 調査区南西部のB 2 g3 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.28 m、短軸 3.32 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 54° - E である。壁高は 14 ~ 30 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

炉 やや南寄りに付設されている。搅乱を受けているため遺存状況は悪いが、径 50 cm ほどの円形と推定される。

深さ 16 cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

- 1 純赤褐色 烧土ブロック少量、炭化粒子微量
2 純赤褐色 烧土粒子中量

- 3 にふい赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 50 cm で、主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 52 cm で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

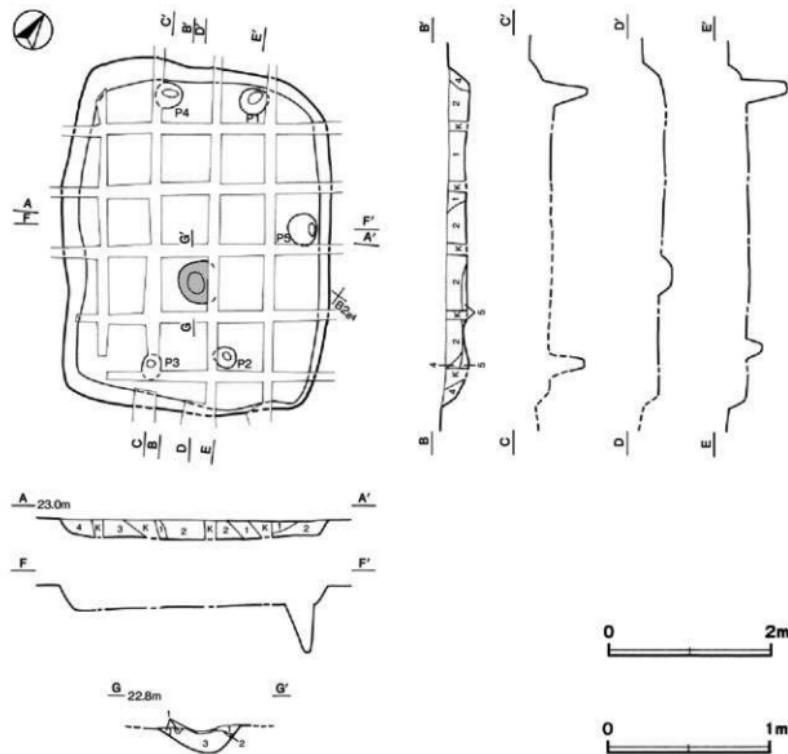
覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

4	明褐色	ローム粒子中量、焼土粒子極微量
5	にぼい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

所見 時期は、伴う遺物はないが、遺構の形状から後期と考えられる。



第75図 第4号住居跡実測図

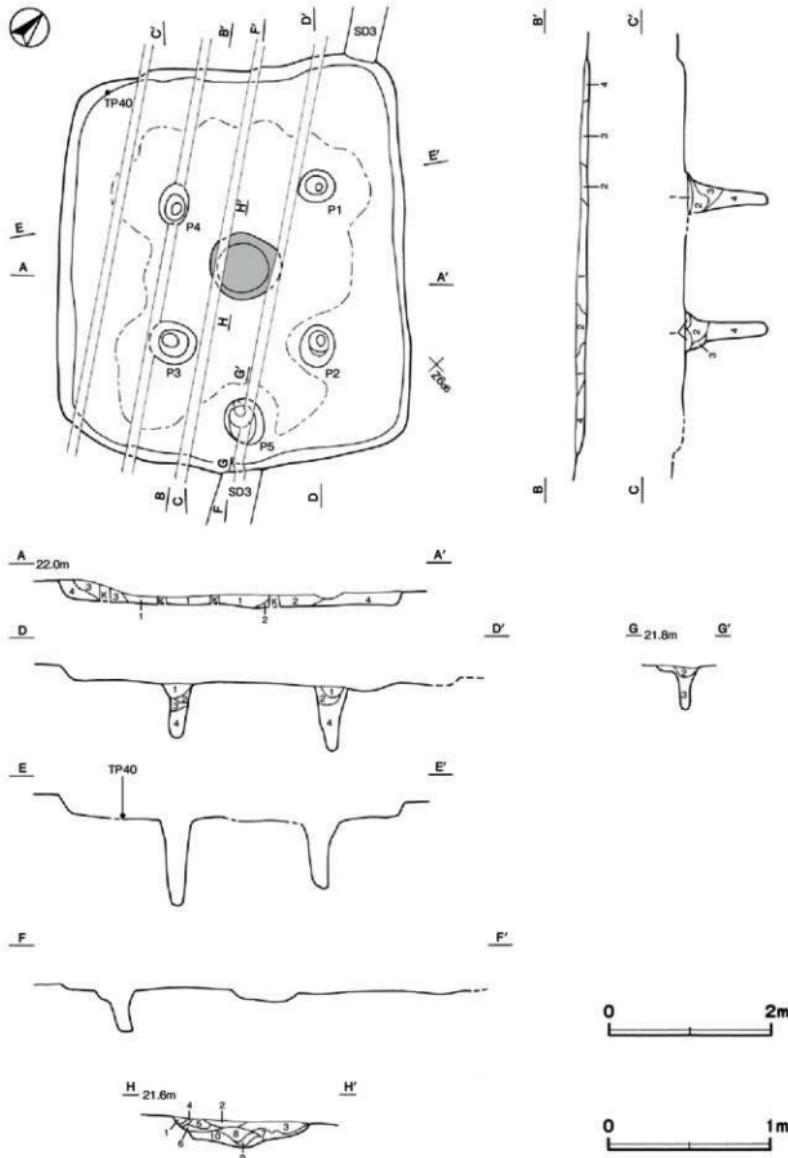
第13号住居跡（第76・77図）

位置 調査区北東部のZ 6d5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸495m、短軸426mの隅丸長方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は3~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、縁際を除いて踏み固められている。



第76図 第13号住居跡実測図

炉 中央部に付設されている。径 80cm ほどの円形と推定でき、深さ 21cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	6	暗赤褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量	7	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子極微量
3	暗赤褐色	ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
4	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 70～108cmで、主柱穴と考えられる。P 5は深さ 50cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	4	褐色	ローム粒子中量

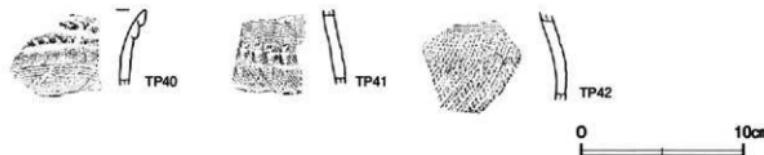
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子極微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	4	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 弥生土器片 172 点（壺）が出土している。TP40 は西部の覆土下層から、TP41 は P 1 の覆土中から、TP42 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第 77 図 第 13 号住居跡出土遺物実測図

第 13 号住居跡出土遺物観察表（第 77 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP40	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐色	複合口縁 鶴嘴原体による波状文	覆土下層	
TP41	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰黄褐色	頭部鶴嘴原体による波状文・縦区画スリット 頭部附加条一種 （附加二条）縦文	P 1 覆土中	PL21
TP42	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	頭部鶴嘴原体による横波文・縦区画スリット 頭部附加条一種 （附加二条）縦文	覆土中	

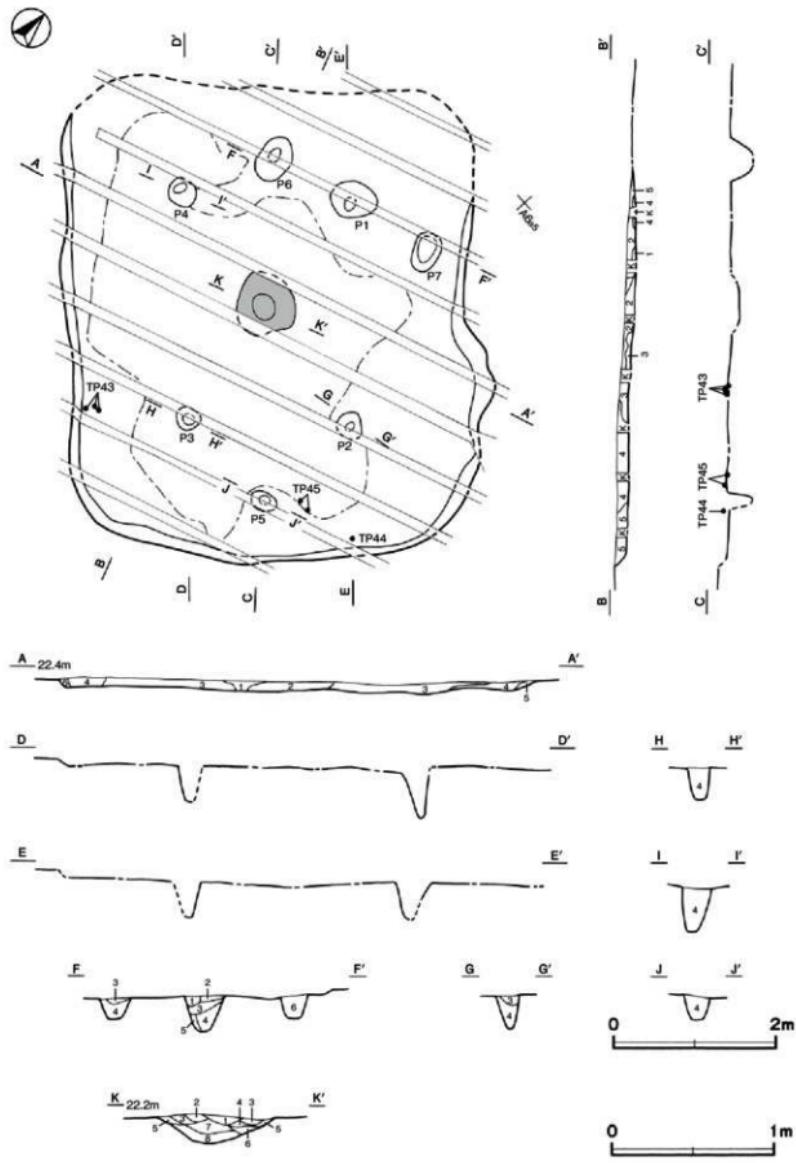
第 14 号住居跡（第 78・79 図）

位置 調査区北東部の A 6a4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北西壁が削平を受けているため、短軸は 5.12 m で、長軸は 5.52 m しか確認できなかった。平面形は隅丸長方形と推定でき、主軸方向は N - 43° - E である。壁高は 10 ~ 12cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から南西・南東壁際にかけて踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。径 80cm ほどの円形と推定でき、深さ 18cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。



第78図 第14号住居跡実測図

炉土層解説

1 短赤褐色	燒土粒子中量、炭化粒子少量	5 黒褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 楊褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量	6 短赤褐色	燒土粒子中量、炭化粒子微量
3 楊褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量	7 短赤褐色	燒土ブロック多量、ローム粒子微量
4 短赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 短赤褐色	ローム粒子・燒土粒子中量

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ42～64cmで、主柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さ32cm・24cmで、棟持柱と考えられる。P 7は深さ26cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 短褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、燒土粒子極微量	5 黒褐色	ローム粒子多量、燒土粒子極微量
3 短褐色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量	6 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量

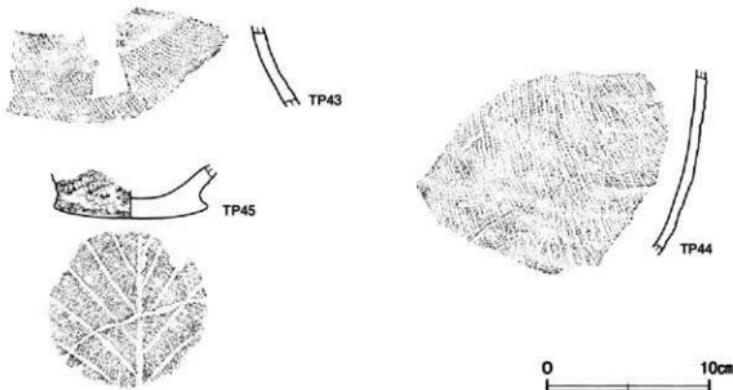
覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子微量、炭化粒子極微量	4 黒褐色	ロームブロック少量、
2 楊褐色	ローム粒子微量、燒土粒子極微量	5 黒褐色	ローム粒子中量
3 短褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 弥生土器片121点(壺)が出土している。TP43は南西部、TP45は南東部の覆土下層から、TP44は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第79図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表(第79図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい緑	胴部附加彫一種(附加2条) 繩文	覆土下層	
TP44	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰黄緑	胴部附加彫一種(附加2条) 繩文	覆土中層	
TP45	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	胴部下端附加彫一種(附加2条) 繩文 底部本彫痕	覆土下層	

第 16 号住居跡（第 80・81 図）

位置 調査区北東部の A 6 a2 区。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 95 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 扰乱を受けていたため遺存状況は悪く、長軸は 5.63 m で、短軸は 4.12 m しか確認できなかった。

平面形は長方形と推定でき、長軸方向は N - 43° - W である。壁高は 6 ~ 22 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

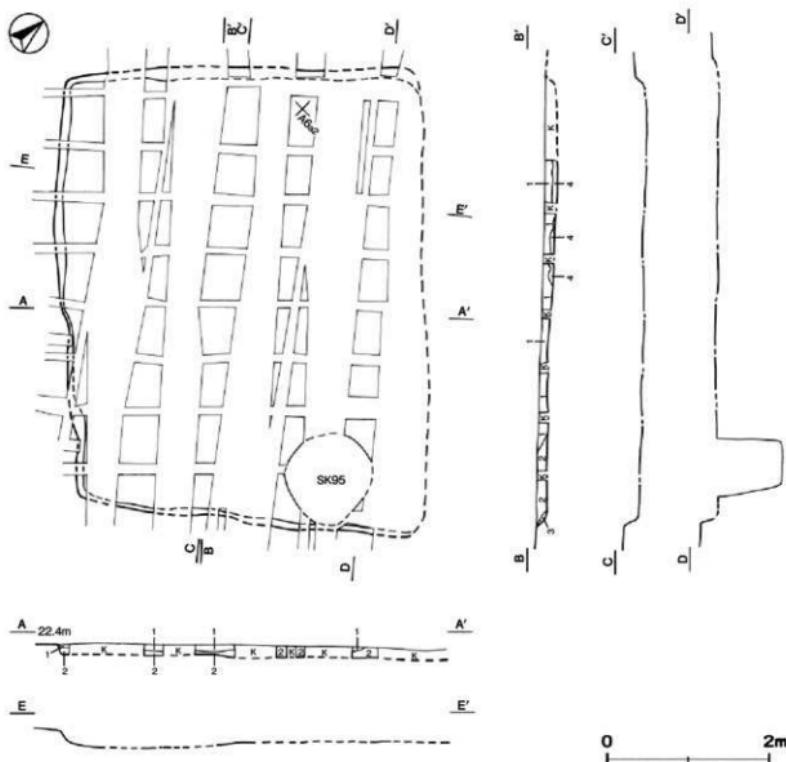
覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

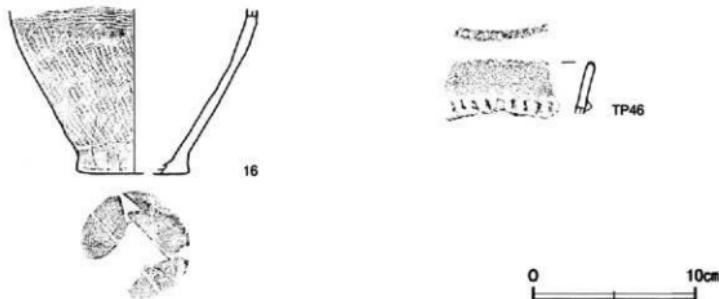
1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	4 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 弥生土器片 2 点（壺）が出土している。16・TP46 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第 80 図 第 16 号住居跡実測図



第 81 図 第 16 号住居跡出土遺物実測図

第 16 号住居跡出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	弥生土器	壺	-	(10.2)	(6.8)	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部附加条一種(附加 2 条) 裏文 底部木葉痕	覆土中	20%
TP46	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	口縁部無文 口縁部下端貼痕					覆土中	PL21

第 17 号住居跡（第 82・83 図）

位置 調査区北東部の Z 5e8 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 扰乱を受けているため遺存状況は悪く、長軸は 5.81 m、短軸は 5.1 m ほどの隅丸長方形と推定でき、主軸方向は N - 21° - W である。壁高は 6 ~ 12 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。

炉 中央部に付設されている。擾乱を受けているため遺存状況は悪く、径 150 cm ほどの円形または楕円形と推定でき、深さ 20 cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子、燒土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子、燒土粒子少量、炭化粒子極微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子極微量 |

ピット 4か所。P 1 ~ P 3 は深さ 35 ~ 60 cm で、主柱穴と考えられる。P 4 は深さ 31 cm で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化物微量 | 3 黑色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子極微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

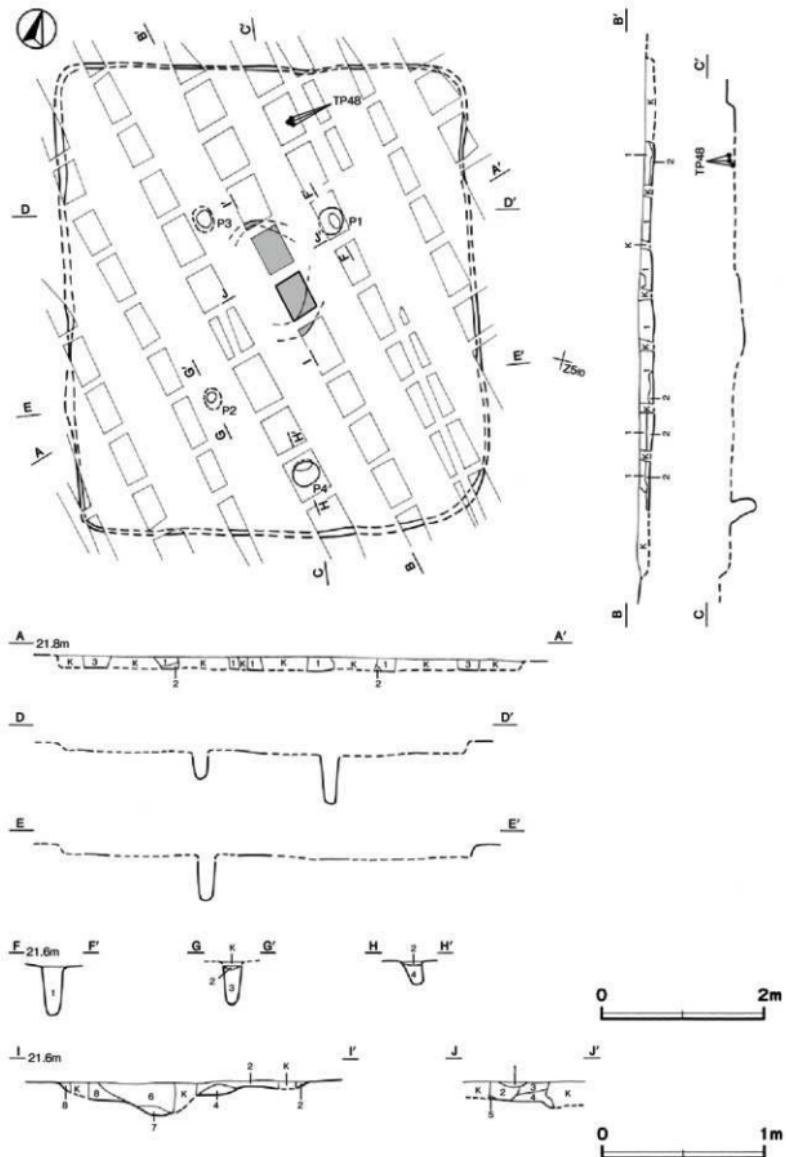
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子微量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黑褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片 27 点（壺）が出土している。TP48 は北部の覆土下層から、TP47 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第82図 第17号住居跡実測図



第83図 第17号住居跡出土遺物実測図

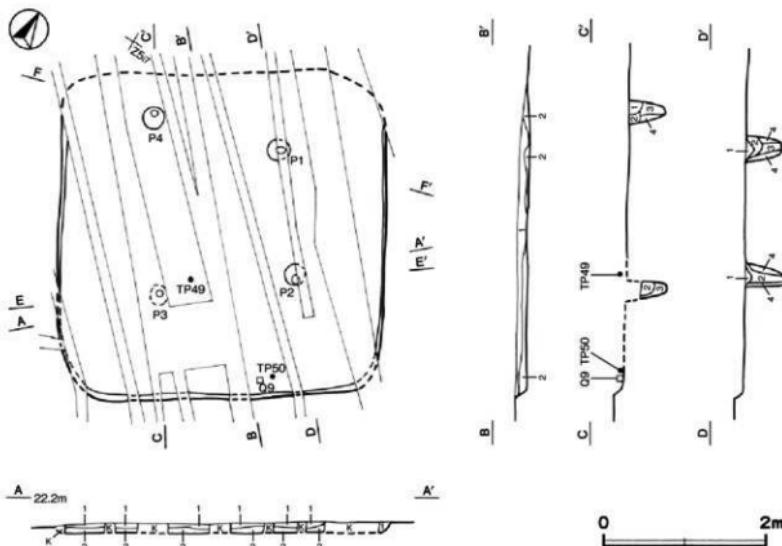
第17号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP47	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部附加条一種(附加2条)縦文	覆土中	
TP48	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部附加条一種(附加2条)縦文	覆土下層	

第18号住居跡（第84・85図）

位置 調査区北東部のZ 517区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 振乱を受けているため遺存状況は悪く、東西軸は4.05mで、南北軸は3.90mしか確認できなかった。平面形は隅丸長方形と推定でき、長軸方向はN-31°-Wである。壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がりっている。



第84図 第18号住居跡実測図

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ41～48cmで、主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |

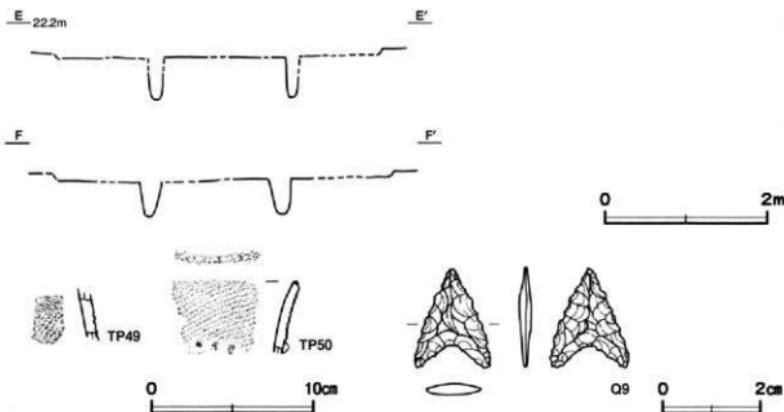
覆土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 灰褐色 ロームブロック微量 |
|-------------------------|-----------------|

遺物出土状況 弥生土器片11点（壺）、石器1点（石鎌）が出土している。TP49は中央部、TP50・Q 9は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第85図 第18号住居跡・出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP49	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部附加条一様（附加2条）縦文	覆土下層	
TP50	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口縁部附加条一様縦文 口縁部下端胎留	覆土下層	PL.21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	石鎌	20	15	0.25	0.48	チャート	凹基両面調整 細かい連続する周辺調整を施す	覆土下層	PL.23

第24号住居跡（第86図）

位置 調査区北東部のA 5e0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

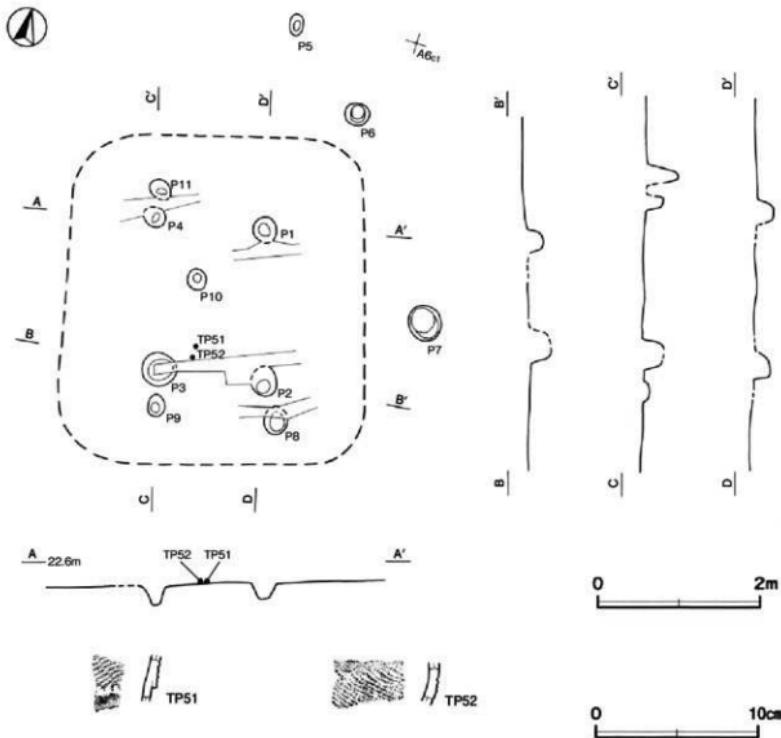
確認状況 耕作によって、床面まで削平されており、柱穴しか確認できなかった。

規模と形状 柱穴の配置から、長軸 4.0 m、短軸 3.5 m ほどの隅丸長方形と推定でき、長軸方向は N - 18° - W である。

ピット 11か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 24cm で、主柱穴と考えられる。P 5 ~ P 11 は性格不明である。

遺物出土状況 弥生土器片 5 点（壺）が出土している。TP51・TP52 は南西部の確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第 86 図 第 24 号住跡・出土遺物実測図

第 24 号住跡出土遺物観察表（第 86 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぼい模	複合口縁部付加条一種縦文・下端棒状工具で押圧	確認面	
TP52	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぼい模	側部附加条一種縦文	確認面	

表6 弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	裏 横 長軸×短軸(m)	壁 高 (cm)	床面	壁構 柱穴 通入口 ポット 井 畳置穴	内 部 施 設			覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
								柱穴	通入口	ポット				
2	B2h2	楕円形	N - 38° - W	5.14 × 4.66	12 ~ 26	地山	-	4	1	14	1	人為	弥生土器、土製品	後期前半
4	B2g3	長方形	N - 54° - E	4.28 × 3.35	14 ~ 30	地山	-	4	1	-	1	人為		後期
13	Z6d5	長方形	N - 46° - W	4.95 × 4.26	3 ~ 23	地山	-	4	1	-	1	人為	弥生土器	後期前半 本跡→SD・3
14	A6a4	[楕円形] 長方形	N - 43° - E (5.52) × 5.12	10 ~ 12	地山	-	4	1	2	1	-	人為	弥生土器	後期
16	A6a2	長方形	N - 43° - W	5.62 × 4.12	6 ~ 22	地山	-	-	-	-	-	人為	弥生土器	後期後半 本跡→SK95
17	Z5e8	[楕円形] 長方形	N - 21° - W	5.81 × [5.20]	6 ~ 12	地山	-	3	1	-	1	人為	弥生土器	後期
18	Z5i7	[楕円形] 長方形	N - 31° - W	4.05 × (3.90)	8 ~ 12	地山	-	4	-	-	-	自然	弥生土器、石器	後期前半
24	A5e0	[楕円形] 長方形	N - 18° - W	[4.00 × 3.50]	-	-	-	4	-	7	-	-	弥生土器	後期前半

(2) 土坑

第97号土坑（第87図）

位置 調査区北東部のZ-5h6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 撥乱を受けているため遺存状況は悪く、北西・南東径は1.01mで、北東・南西径は1.22mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN - 45° - Eである。深さは35cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

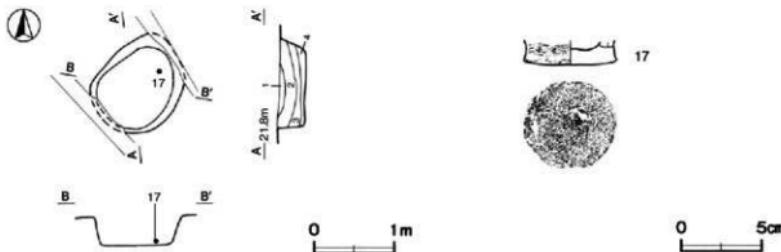
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量

- 3 植縫褐色 ローム粒子少量
4 植縫褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片1点(壺)が出土している。17は北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。性格は不明である。



第87図 第97号土坑・出土遺物実測図

第97号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	種 別	器種	口徑	器高	底径	胎 土	色 調	燒 成	手 法 の 特 徴 ほ か	出 土 位 置	備 考
17	弥生土器	壺	-	(1.5)	5.7	長石・石英・雲母	にぼい模	普通	側部付加条一種(附加2条) 純文	覆土下層	5%

第 108 号土坑 (第 88 図)

位置 調査区北東部の Z 5j4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 27 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 撥乱を受けているため遺存状況は悪く、北西・南東径は 228 m で、北東・南西径は 1.86 m しか確認できなかった。平面形は梢円形と推定でき。長径方向は N - 33° - W である。深さは 24 cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

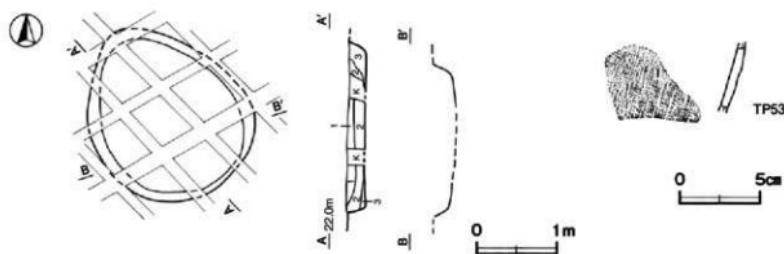
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量
2 桂褐色	ローム粒子少量

3 青褐色	ローム粒子少量
-------	---------

遺物出土状況 弥生土器片 4 点 (盞) が出土している。TP53 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。性格は不明である。



第 88 図 第 108 号土坑・出土遺物実測図

第 108 号土坑出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP53	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	側部付加条一種(附加1条) 織文	覆土中	

第 151 号土坑 (第 89 図)

位置 調査区北東部の Z 5h4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 撥乱を受けているため遺存状況は悪く、径 1.0 m ほどの円形と推定される。深さは 18 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量

第 89 図 第 151 号土坑実測図

遺物出土状況 弥生土器片1点（壺）が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。性格は不明である。

表7 弥生時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 格		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
97	Z 5 h 6	N - 45° - E	【楕円形】	(1.22) × 1.01	35	平坦	外傾	自然	弥生土器	
108	Z 5 j 4	N - 33° - W	【楕円形】	2.28 × (1.86)	24	平坦	外傾	自然	弥生土器	SI 27 → 本跡
151	Z 5 h 4	-	【円形】	(1.00) × (1.00)	18	平坦	緩傾	自然	弥生土器	

3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡4軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第90～92図）

位置 調査区南西部のB3丘区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第72号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.30m、短軸6.26mの方形で、主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は45～56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顯著な硬化面は認められない。南西コーナー部を除いて壁溝が巡っている。また、四方の壁に直交して、幅14～32cm、長さ64～120cm、深さ7～27cmほどの溝を13条確認した。柱穴間にほぼ等間隔で並んでいることから根太を置いた溝と考えられる。

炉 やや北寄りに付設されている。長径110cm、短径56cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変化している。

炉土層解説

1 噴褐色 燃土ブロック中量、炭化物少量

2 噴褐色 燃土ブロック中量

ピット 6か所。P1～P4は深さ50～53cmで、主柱穴と考えられる。P5は深さ15cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ30cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1 噴褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量

3 明褐色 ローム粒子中量

2 噴褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック少量

貯藏穴 南東コーナー部に位置している。長径70cm、短径64cmの楕円形で、深さは79cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯藏穴土層解説

1 噴褐色 燃土粒子少量、ロームブロック、炭化粒子微量

3 噴褐色 ロームブロック中量

2 噴褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

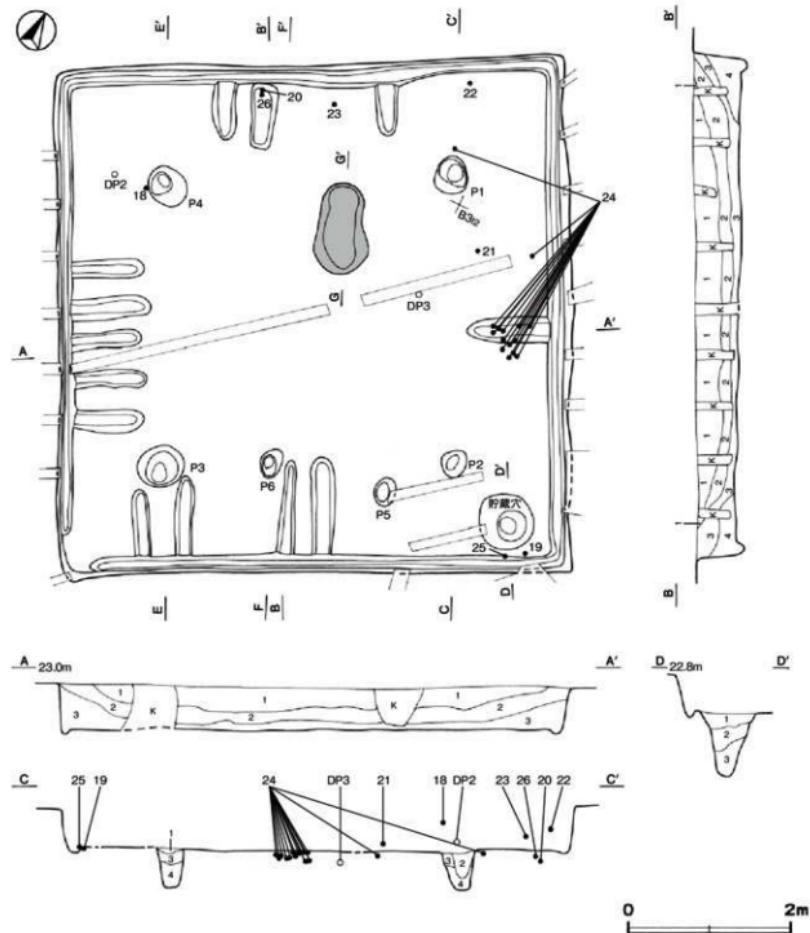
土層解説

1 黒褐色 燃土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量

3 噴褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子微量

2 黑褐色 燃土粒子少量、ロームブロック微量、炭化粒子極微量

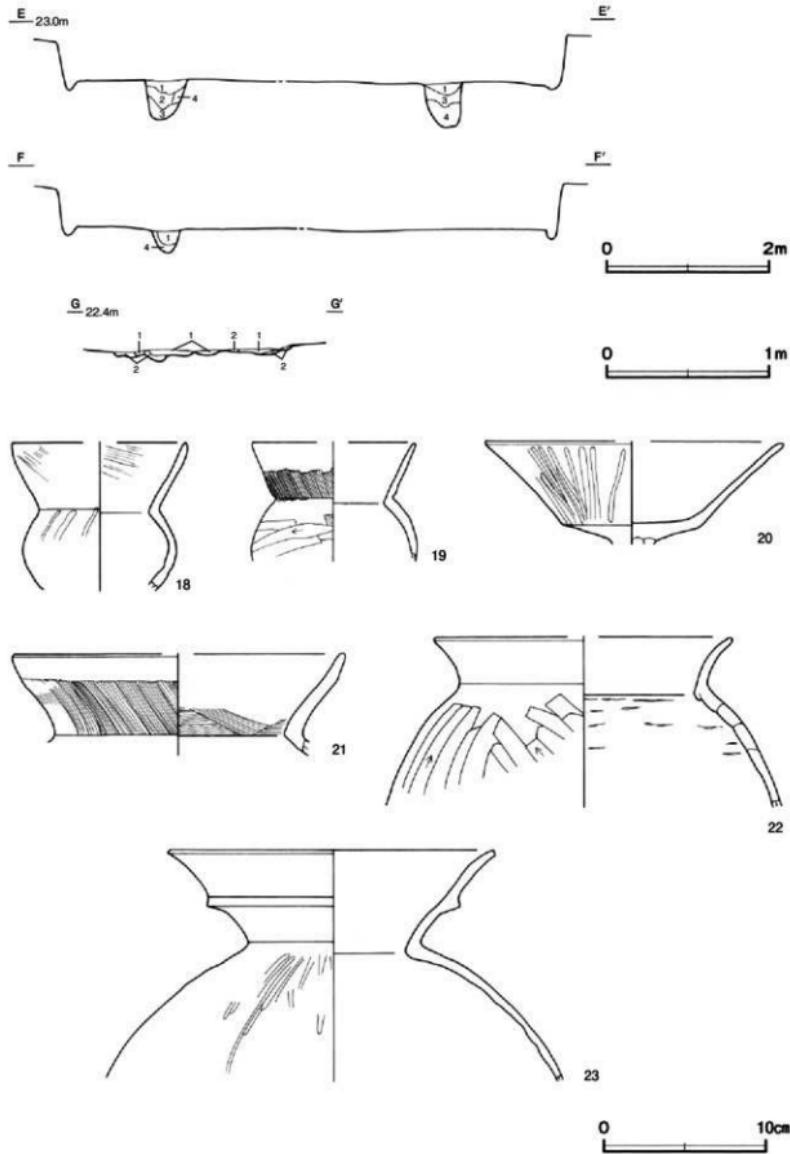
4 噴褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量



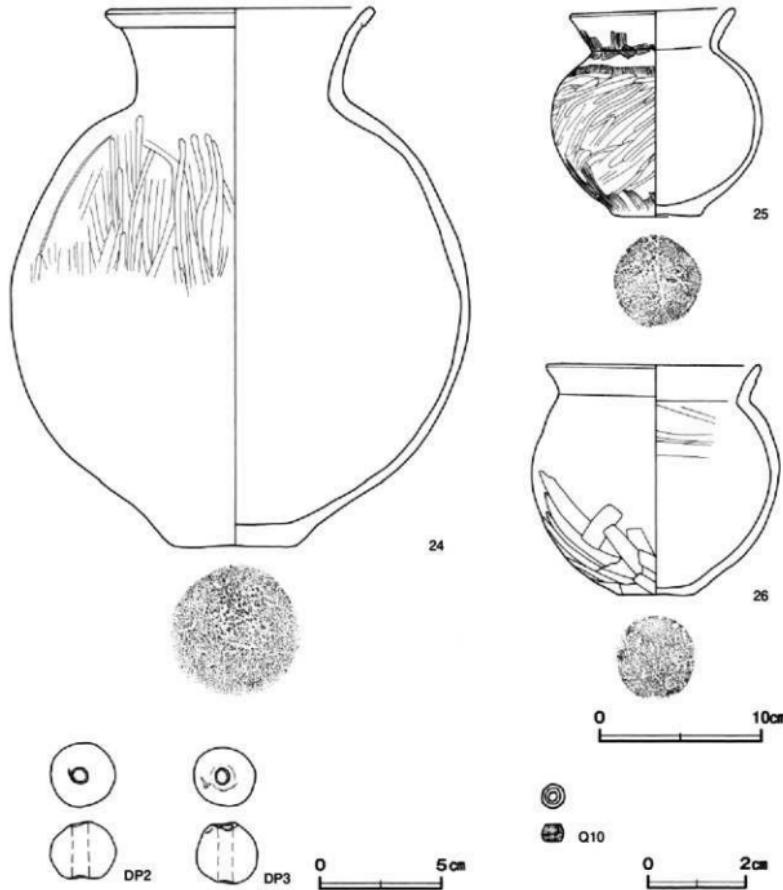
第90図 第1号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 426 点（碗 10・壺 55・高环 10・甕 349・小形甕 2）。土製品 2 点（土玉）。石製品 1 点（白玉）が北東部の覆土中層から集中して出土している。20・26 は北部、21・24・DP3 は東部、19・25 は南東コーナー部、DP2 は北西部の覆土下層から、22・23 は北部の覆土中層から、18 は北西部の覆土上層から。Q10 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀前葉と考えられる。



第91図 第1号住居跡・出土遺物実測図



第92図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第91・92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	の	脊	置	手	法	の	脊	置	手	法	の	脊	置	出	位	備	考	
18	土師器	壺	[10.7]	(9.1)	-	長石・石英・ 赤鉄粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部外表面のハケ目調整後ナデ	体部 内面斜位のハラ削り	覆土上層	30%															
19	土師器	壺	[10.0]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・ 金色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外表面のハケ目調整後ナデ	体部外表面 内面斜位のハラ削り	覆土下層	60%															
20	土師器	高坪	[18.3]	(6.1)	-	長石・石英・雲母 にぶい橙	普通	口縁部外表面のハラ削き	内面横ナデ	覆土下層	40%	PL18															
21	土師器	甕	[20.2]	(6.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外表面のハケ目調整後横ナデ	口縁部 内面横ナデ	覆土下層	10%															
22	土師器	甕	[18.2]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口縁部外表面のハラ削り	体部外表面斜位のハラ削り	覆土中層	10%															
23	土師器	甕	19.8	(14.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外表面ナデ	体部外表面斜位のハラ削り	覆土中層	30%	PL18														
24	土師器	甕	16.0	33.2	7.6	長石・石英・雲母・ 赤鉄粒子	にぶい橙	普通	口縁部外表面ナデ	体部外面上板位のハ ラ削り	覆土下層	90%	PL18														

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	土師器	小形甕	99	128	5.3	長石・石英・雲母	輕	普通	口縁部外側ハケ口両側面横ナデ 口縁部内面横ナデ 体部外表面窓状凹ハケ口両側後斜部分のヘラ削き	覆土下層	95% PL18
26	土師器	小形甕	129	143	4.6	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外側内面横ナデ 体部外表面半斜傾のヘラ削き	覆土下層	80% PL18

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
DP 2	土玉	27	2.6	0.6	147	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔		覆土下層	PL22
DP 3	土玉	25	2.3	0.5	136	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔		覆土下層	PL22

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q 10	臼玉	0.5	0.4	0.2	0.09	滑石	ソロバン珠状 両面研磨 一方向からの穿孔		覆土中	PL23

第 19 号住居跡（第 93 ~ 95 図）

位置 調査区北東部の A 5 d8 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 6.90 m、短軸 6.63 m の方形で、主軸方向は N - 34° - W である。壁高は 26 ~ 42 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈 1 は北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120 cm で、燃焼部幅は 76 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 16・17 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18 cm 掘り込んで、ローム粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第 14・15 層を埋土して構築されている。火床面は赤変、硬化ともに弱い。煙道部は壁外に掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっているが、搅乱を受けているため、36 cm しか確認できなかった。竈 2 は竈 1 の西側に付設されており、壁外に 30 cm ほど掘り込まれた煙道部しか確認できなかった。煙道部は壁外に外傾して立ち上がっている。竈 2 は壊された後に埋め戻され、竈 1 へ作り替えられている。

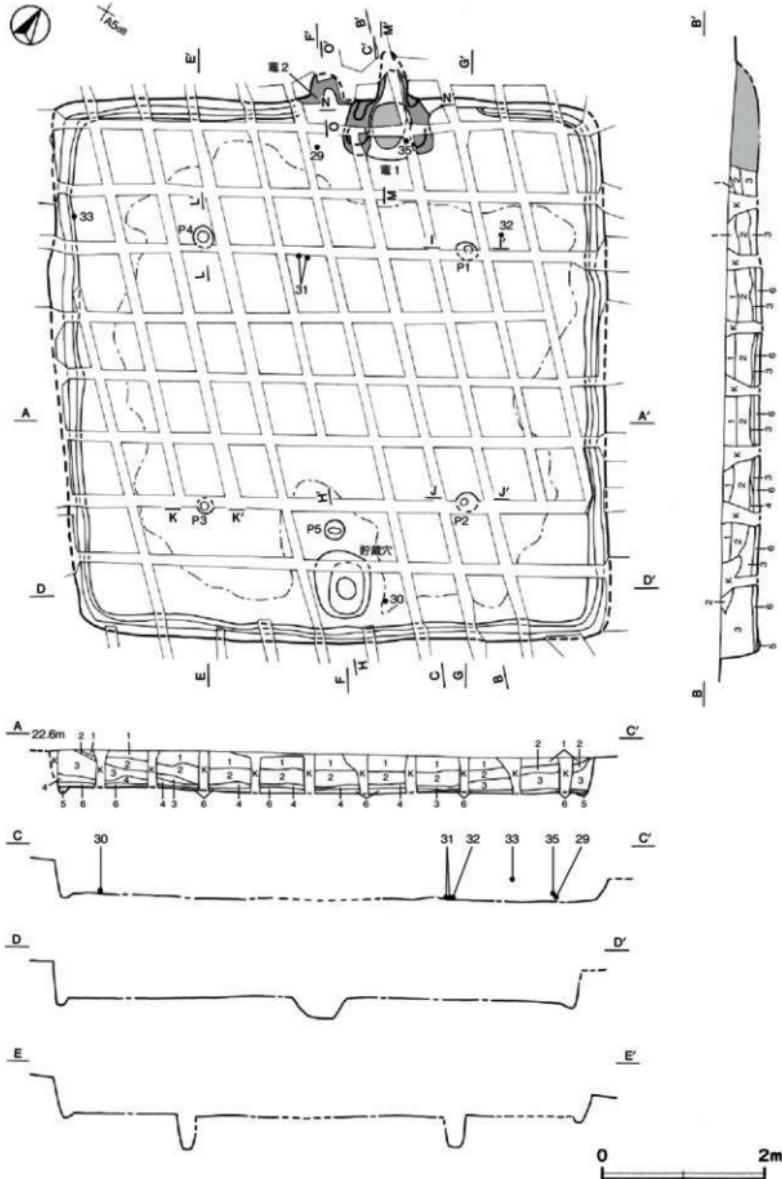
竈土層解説

1 黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子極微量	12 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量、砂質粘土粒子極微量
3 黄褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量、燒土粒子極微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	14 赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
6 黑褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	16 にぶい黃褐色	砂質粘土粒子多量
7 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子粒子少量	17 斑赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子多量
8 黑褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・燒土粒子少量	18 楊褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9 黑褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	19 にぶい黃褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量、燒土粒子極微量	20 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
		21 にぶい黃褐色	砂質粘土多量、ローム粒子少量、燒土粒子極微量
		22 黑褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・炭化物極微量

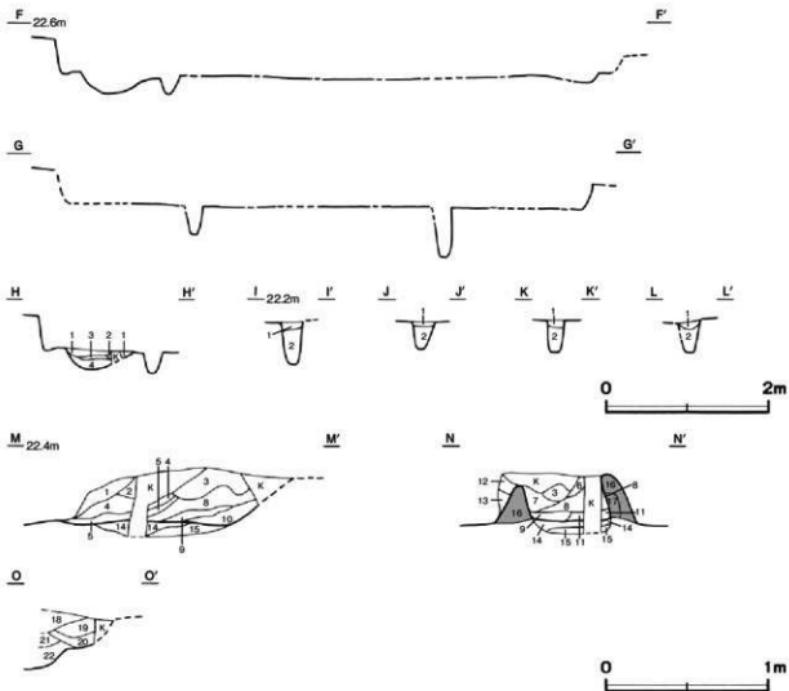
ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 34 ~ 60 cm で、主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 26 cm で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 黑褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量	2 黑褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
-------	---------------------	-------	----------------



第93図 第19号住居跡実測図(1)



第94図 第19号住居跡実測図（2）

貯藏穴 南東壁の中央部に位置している。長径84cm、短径76cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がってている。

貯藏穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量。焼土粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量。炭化粒子微量	4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。焼土粒子微量

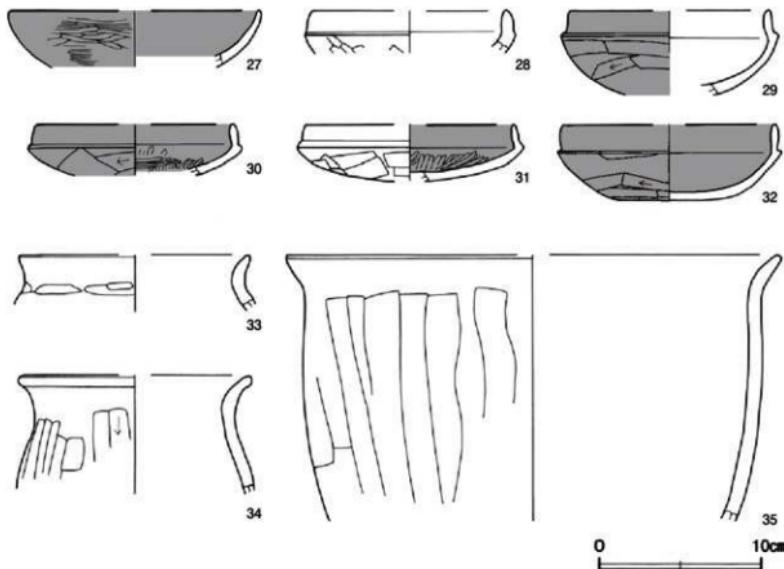
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量。炭化粒子少量。焼土粒子極微量	4 黒褐色 ロームブロック中量。炭化粒子少量。焼土粒子極微量
2 黒褐色 ロームブロック中量。炭化粒子少量。焼土粒子微量	5 暗褐色 ローム粒子中量。炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量。焼土粒子極微量	6 暗褐色 ローム粒子中量。炭化粒子少量。焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片671点（环95・甕575・瓶1）が、中央部から西部にかけての覆土下層から集中して出土している。29・31・32・35は北西部、30は南東部の覆土下層から、33は西部の覆土上層から、27・28・34は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第95図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	土師器	坪	[154]	(35)	-	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り	覆土中	5%
28	土師器	坪	[120]	(26)	-	石英・黒色粒子 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外斜位のハラ削り	覆土中	10%
29	土師器	坪	[122]	(52)	-	長石・石英 にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り 内面ナデ	覆土下層	20%
30	土師器	坪	[122]	(31)	-	長石・石英 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面多方向のハラ削り	体部外面横位のハラ削り	覆土下層	30%
31	土師器	坪	[128]	34	-	長石・石英・雲母 灰褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面放射状のハラ削り	体部外面横位のハラ削り	覆土下層	30% PL18
32	土師器	坪	[130]	46	-	長石・石英 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り	覆土下層	40% PL18
33	土師器	甕	[142]	(35)	-	長石・石英・雲母 黒色粒子 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り	覆土上層	5%
34	土師器	甕	[143]	(73)	-	長石・石英・雲母 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り	覆土中	5%
35	土師器	瓶	[302]	(164)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子 にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のハラ削り	覆土下層	10%

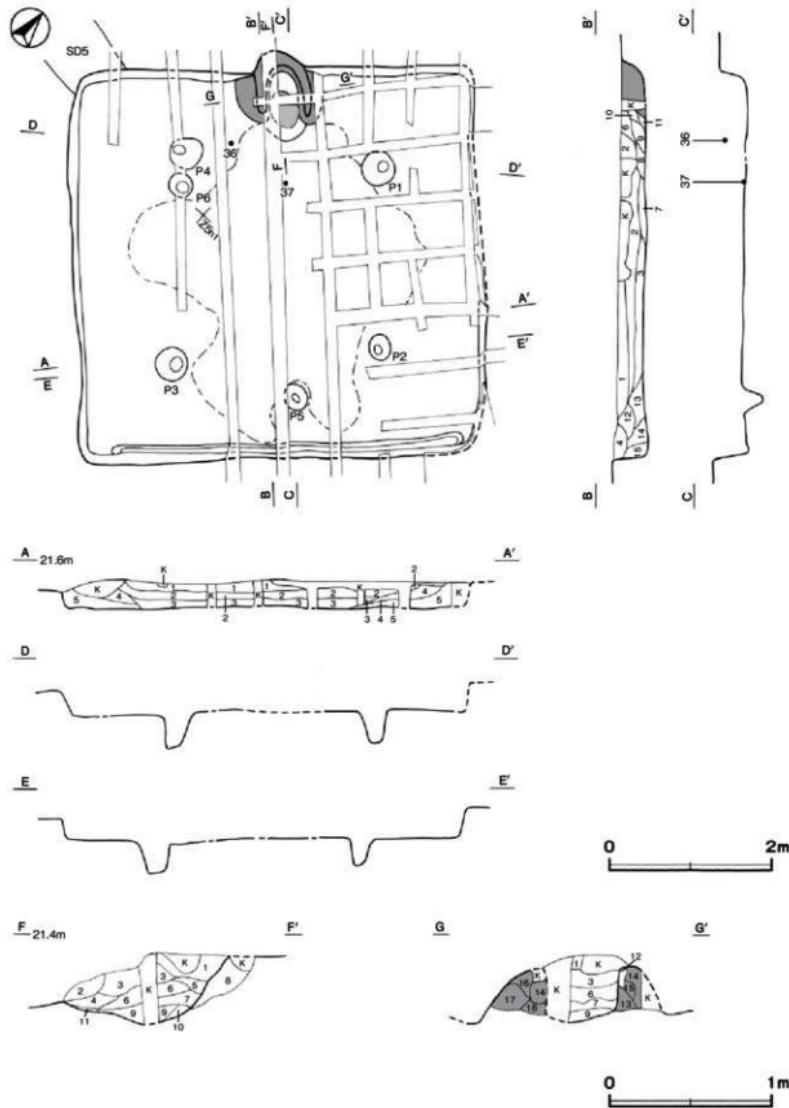
第23号住居跡（第96・97図）

位置 調査区北東部のZ 5g1区、標高21mはどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第5号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸5.08m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は23~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東壁下には塗溝が巡っている。



第96図 第23号住居跡実測図

竈 北西壁の中央部に付設されている。擾乱を受けているため遺存状況は悪く、規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は28cmしか確認できなかった。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に砂質粘土を主体とした第13～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面から14cmほどおり、火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第5・12層は、袖部及び天井部の崩落土である。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12	にふい青褐色	砂質粘土ブロック中量
4	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	13	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
5	灰黒褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量	14	にふい青褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
6	にふい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	15	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土ブロック中量
7	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量	16	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック少量・砂質粘土粒子微量
9	にふい赤褐色	焼土ブロック多量	18	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ37～45cmで、主柱穴と考えられる。P 5は深さ26cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ21cmで、P 4との新旧関係は不明であるが、立て替えまたは補助柱穴の可能性が考えられる。

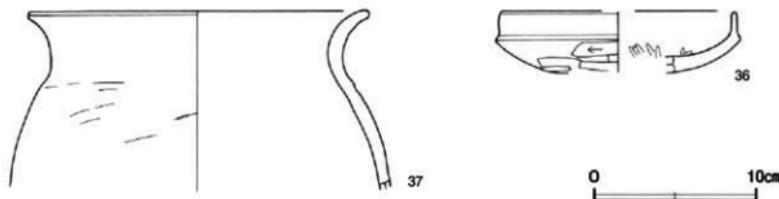
覆土 15層に分層できる。多くの層にロームブロックや砂質粘土粒子が含まれていることから埋め戻されていている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	10	にふい青褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
3	極暗褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	12	暗褐色	砂質粘土粒子微量、ローム粒子極微量
5	暗褐色	ロームブロック微量	13	にふい青褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	14	にふい青褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
7	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片49点(坏9・壺40)が出土している。37は中央部の覆土下層から、36は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第97図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表(第97図)

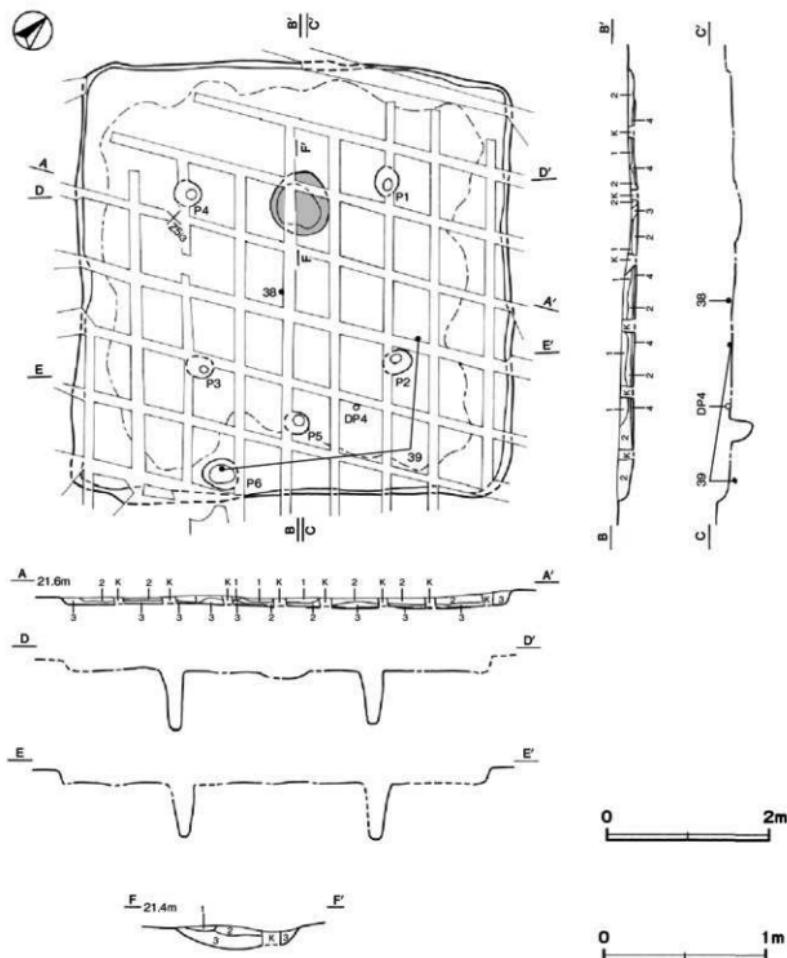
番号	種別	器種	口径	裏高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
36	土師器	壺	[144]	(37)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい青褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ刷り 口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ刷り	覆土中層	30%
37	土師器	壺	20.7	(11)	-	長石・石英・雲母	にふい青褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ・工具痕	覆土下層	30% PL18

第 26 号住居跡（第 98・99 図）

位置 調査区北東部の Z 5 h3 区。標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.34 m、短軸 5.28 m の方形で、主軸方向は N - 43° - W である。壁高は 8 ~ 18 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。



第 98 図 第 26 号住居跡実測図

炉 やや北西寄りに付設されている。長径 80cm、短径 70cm の楕円形で、深さ 14cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |

ピット 6か所。P 1～P 4 は深さ 67～72cm で、主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 29cm で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 10cm で、性格不明である。

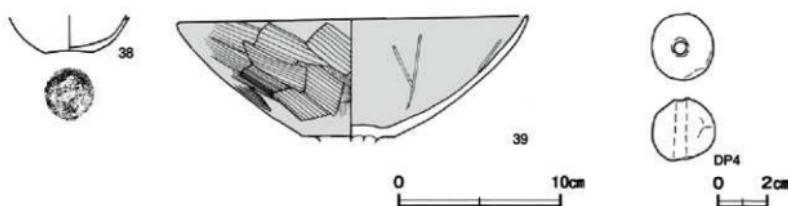
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物極微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物極微量 |

遺物出土状況 土師器片 52 件（壺 5・壺 1・高壺 1・甕 45）、土製品 1 件（玉）が出土している。38 は中央部、39・DP 4 は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀中葉と考えられる。



第 99 図 第 26 号住居跡出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 99 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師器	壺	-	(22)	31	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色	普通	体外部・内面横ナデ		覆土下層	25%
39	土師器	高壺	21.5	(7.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外表面ハケ目調整 内面ハラき 外・内面赤彩	覆土下層	60% PL18

番号	器種	径	厚さ	孔隙	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 4	玉	27	26	0.5	16.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	PL22	

表 8 古墳時代堅穴住居跡一覧表

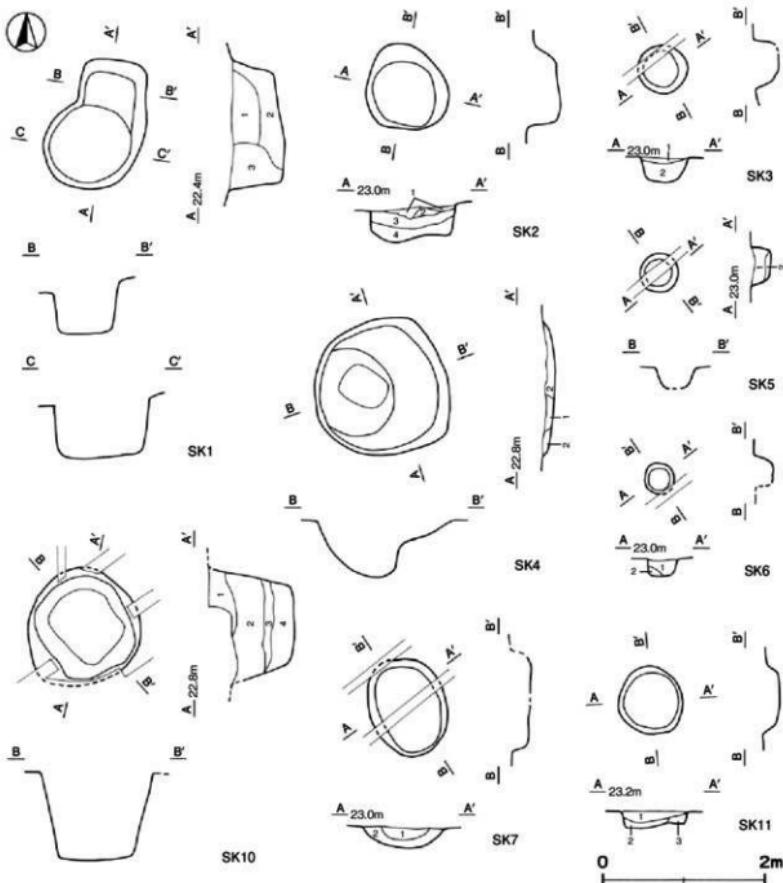
番号	位置	平面形	主軸方向	規 模		壁 高 (cm)	床面 標識	内 部 施 設				未な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)	面積(m ²)			主柱穴	出入口	ビット	炉・竈				
1	B3f1	方形	N-28°-W	6.30×6.26	45-56	地山	全周	4	1	1	炉1	1	自然	土師器、土製品、石製品	5世紀前葉 SK72→本跡
19	A5d8	方形	N-34°-W	6.90×6.63	26-42	地山	全周	4	1	-	窓2	1	自然	土師器	6世紀後葉
23	Z5g1	方形	N-45°-W	5.08×4.85	23-38	地山	一部	4	1	1	窓1	-	人為	土師器	6世紀中葉 SD 5 新旧不明
26	Z5h3	方形	N-43°-W	5.34×5.28	8-18	地山	-	4	1	1	炉1	-	自然	土師器、土製品	4世紀中葉

4 その他の遺構と遺物

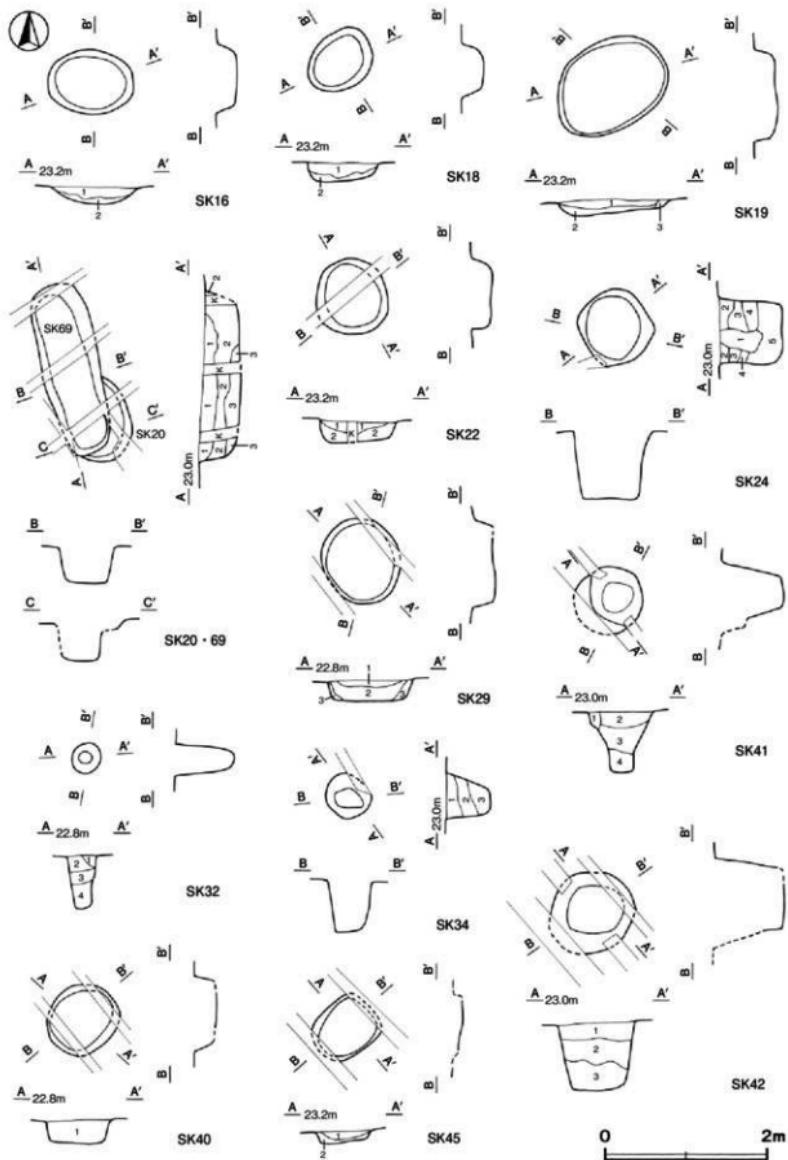
遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、土坑 55 基、溝跡 5 条、ピット群 1 か所が存在する。以下、これらの遺構のうち特徴的なものについては文章で記述し、それ以外の遺構については実測図と一覧表を掲載する。

(1) 土坑 (第 100 ~ 105 図)

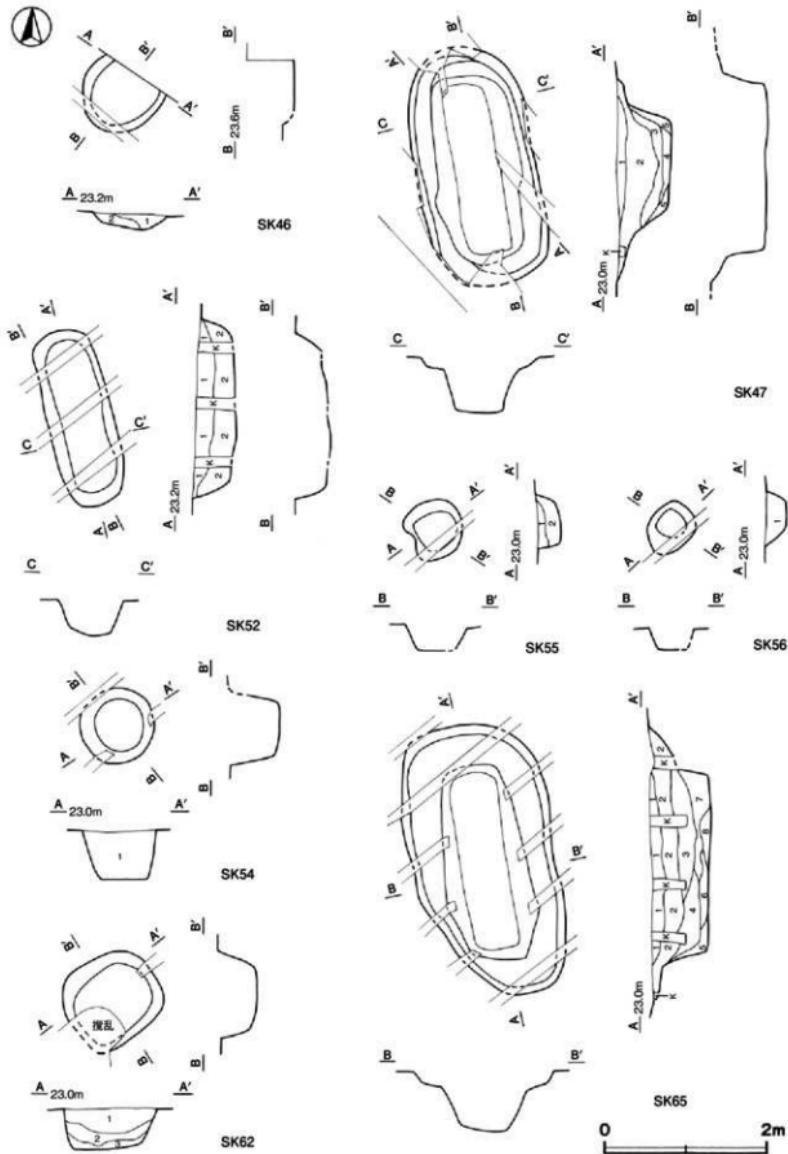
今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑 55 基を確認した。以下、これらの土坑について実測図と一覧表を掲載する。



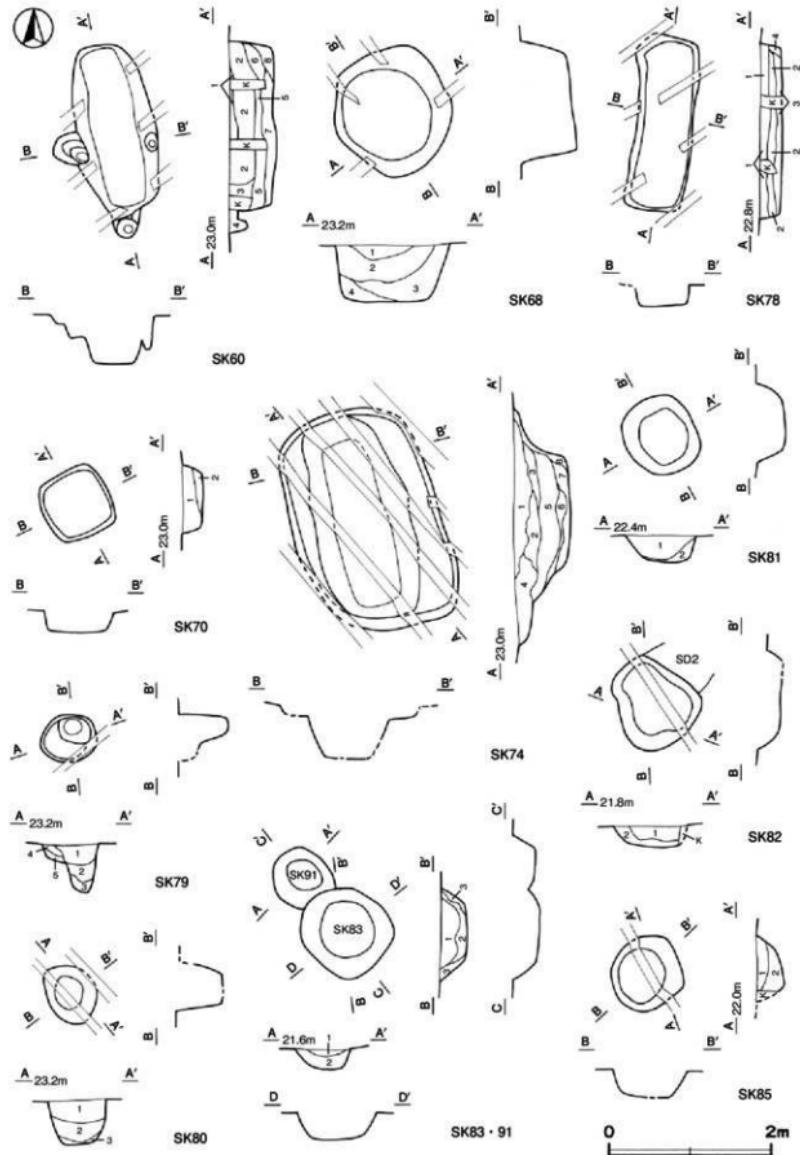
第 100 図 その他の土坑実測図 (1)



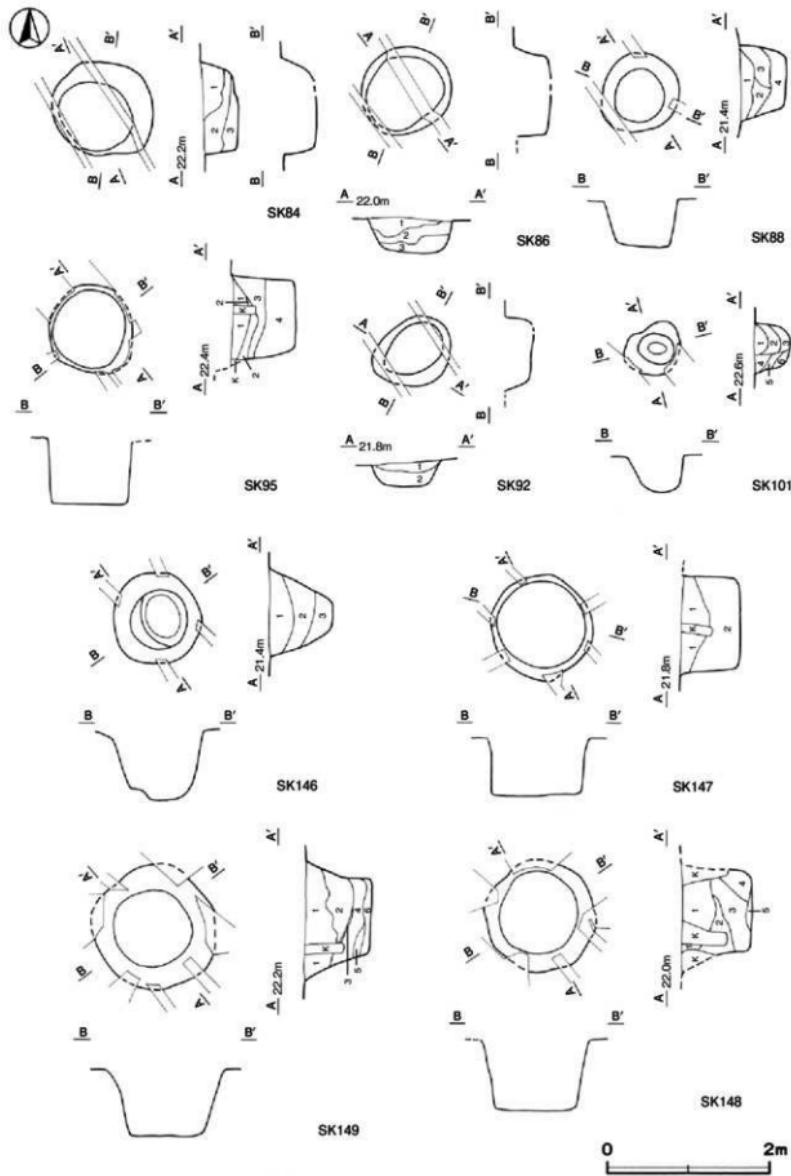
第101図 その他の土坑実測図（2）



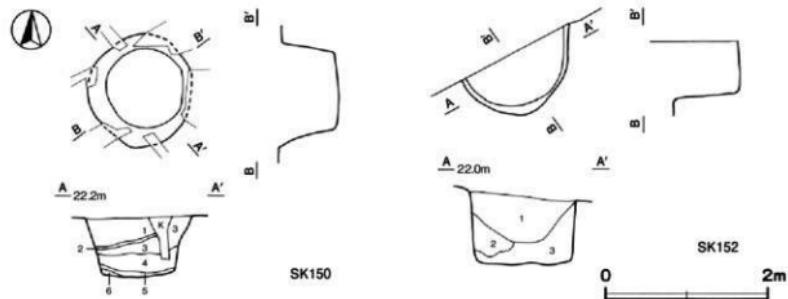
第102図 その他の土坑実測図（3）



第103図 その他の土坑実測図（4）



第104図 その他の土坑実測図（5）



第 105 図 その他の土坑実測図（6）

第 1 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 矮褐色 ロームブロック中量
- 3 矮褐色 ロームブロック少量

第 2 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 矮褐色 焼土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 矮褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 4 矮褐色 ローム粒子中量

第 3 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第 4 号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子極微量

第 5 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子極微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量

第 6 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ロームブロック中量

第 7 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 10 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 矮褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 矮褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 11 号土坑土層解説

- 1 矮褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 2 矮褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第 16 号土坑土層解説

- 1 矮褐色 ロームブロック中量・焼土粒子微量
- 2 矮褐色 ロームブロック中量

第 18 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子微量

第 22 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
 - 2 褐色 ロームブロック中量
- 第 24 号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
 - 2 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
 - 3 明褐色 ローム粒子中量
 - 4 にぶい褐色 ローム粒子中量
 - 5 褐色 ロームブロック微量

第 29 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量・炭化粒子微量

第 32 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第 34 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量・焼土粒子極微量
- 2 褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 40 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量

第 41 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 増 褐 色 ローム粒子微量
- 3 極 增 褐 色 ローム粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ロームブロック・燒土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

第47号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 増 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極 增 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量
- 5 明 褐 色 ローム粒子中量

第52号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 增 褐 色 ロームブロック中量

第55号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第56号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第60号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 極 增 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子極微量
- 3 增 褐 色 ローム粒子微量
- 4 增 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量
- 6 增 褐 色 ローム粒子少量
- 7 明 褐 色 ロームブロック中量
- 8 明 褐 色 ローム粒子中量

第62号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第65号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 増 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 增 褐 色 ロームブロック少量
- 5 增 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック中量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 8 増 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第68号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ロームブロック少量
- 2 増 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 增 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第69号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 増 褐 色 炭化物少量、ロームブロック微量

第70号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ロームブロック・燒土粒子微量
- 2 増 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 増 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 増 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 増 褐 色 ロームブロック少量
- 6 増 褐 色 ロームブロック中量
- 7 増 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 8 増 褐 色 ローム粒子中量

第78号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 增 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 明 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 増 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 増 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ローム粒子中量

第80号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ローム粒子中量
- 2 増 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第81号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第82号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 増 褐 色 ローム粒子少量

第83号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 増 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第84号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極 增 褐 色 ローム粒子少量
- 3 増 褐 色 ローム粒子少量

第85号土坑土層解説

- 1 増 褐 色 ローム粒子少量
- 2 極 增 褐 色 ロームブロック少量

第86号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量

第88号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黑 褐 色 ローム粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 極 增 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極 增 褐 色 ロームブロック少量

第 92 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 墓褐色 ローム粒子中量

第 95 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ローム粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 ローム粒子少量

第 101 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 墓褐色 ローム粒子中量
5 墓褐色 ロームブロック微量
6 黑褐色 ローム粒子中量

第 146 号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 墓褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 147 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
2 黑褐色 ロームブロック少量

第 148 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量
3 黑褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 墓褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量
5 墓褐色 ローム粒子中量

第 149 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 墓褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量
3 黑褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 墓褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 墓褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量
6 墓褐色 ローム粒子中量

第 150 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 墓褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量
4 墓褐色 ローム粒子中量、炭化物極微量
5 墓褐色 ローム粒子中量
6 墓褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量

第 152 号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量
2 黑褐色 ロームブロック中量
3 黑褐色 ロームブロック少量

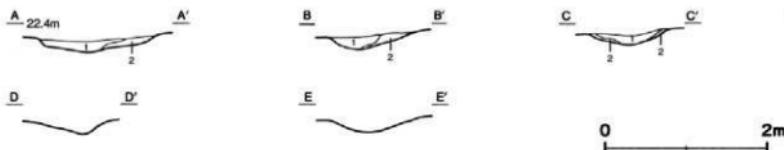
表 9 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B1 i 1	N-8°-E	不定形	1.62 × 1.18	66	平坦	外傾	人為		
2	B2 f 1	N-24°-W	椭円形	1.11 × 0.99	43	平坦	外傾 傾斜	人為	縄文土器、陶器	SI 7→本跡
3	B2 f 9	-	円形	0.59 × 0.59	30	平坦	外傾	自然		
4	B1 g 0	-	円形	1.62 × 1.62	72	盤状	傾斜	人為	縄文土器	
5	B2 h 0	-	円形	0.48 × 0.47	25	平坦	外傾	人為		SI 8 新旧不明
6	B2 h 9	-	円形	0.38 × 0.35	24	平坦	外傾	人為		SI 8 新旧不明
7	B2 f 0	N-23°-W	椭円形	1.24 × 0.96	26	平坦	外傾	自然	縄文土器	
10	B3 d 4	-	円形	1.44 × 1.39	106	平坦	外傾	自然	土師器、陶器	
11	B2 d 8	-	円形	0.82 × 0.78	18	平坦	外傾 傾斜	自然	土師器	
16	B2 d 8	N-88°-W	椭円形	1.06 × 0.82	27	平坦	外傾	自然	縄文土器、土師器	
18	B2 d 8	N-45°-E	椭円形	0.88 × 0.68	28	平坦	外傾	自然		
19	B2 d 8	N-53°-E	椭円形	1.48 × 1.08	29	平坦	外傾	自然	縄文土器、土師器	
20	B2 d 6	N-25°-W	【椭円形】	[1.04 × 0.86]	12	平坦	傾斜	-		本跡→SK69
22	B2 g 8	-	円形	0.94 × 0.88	26	平坦	外傾	自然	縄文土器	
24	B2 h 8	N-32°-W	椭円形	0.90 × 0.81	82	平坦	直立	人為		
29	A2 h 3	N-34°-W	椭円形	1.06 × [0.95]	25	平坦	外傾	自然	縄文土器	
32	A2 h 4	N-16°-E	椭円形	0.38 × 0.33	71	平坦	外傾	自然	縄文土器	
34	B2 b 8	N-51°-W	椭円形	0.57 × 0.50	64	平坦	外傾	自然	縄文土器	
40	A2 f 6	N-50°-E	椭円形	0.90 × 0.81	28	平坦	外傾	自然		
41	A2 g 7	N-36°-E	【椭円形】	[0.88] × 0.79	75	平坦	外傾	人為	縄文土器	
42	A2 f 6	N-48°-E	【椭円形】	[1.08] × 0.97	87	平坦	外傾	人為		
45	A2 h 9	N-48°-E	【椭円形】	[0.83] × 0.67	12	平坦	外傾	自然	縄文土器	
46	A2 g 9	N-51°-W	【椭円形】	0.97 × [0.81]	15	平坦	傾斜	自然		
47	B2 a 9	N-8°-W	【椭円形】	[2.98] × 1.47	68	平坦	外傾	自然	縄文土器、土師器	

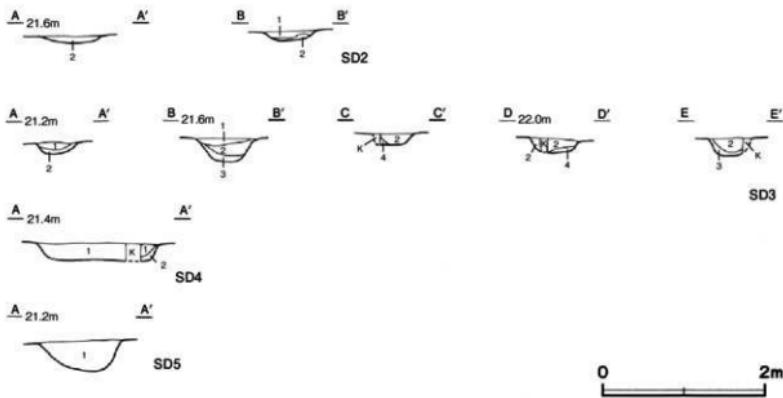
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複開発(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
52	B2 f 9	N - 15° - W	隅丸長方形	2.19 × 0.81	45	凹凸	外傾	自然	縄文土器、土師器	
54	B2 h 0	-	円形	0.93 × 0.89	64	平坦	外傾	自然	縄文土器	SI 8 新旧不明
55	B2 i 0	-	不整円形	0.75 × 0.74	33	平坦	外傾	人為	縄文土器、陶器	
56	B2 i 0	N - 40° - E	楕円形	0.65 × 0.53	27	平坦	外傾 被削	人為	縄文土器、土師器	
60	B2 i 9	N - 9° - W	隅丸長方形	2.08 × 0.94	58	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器、土師器	
62	B2 i 9	N - 57° - E	隅丸長方形	[1.18] × 1.06	49	平坦	外傾	自然		
65	B2 g 7	N - 9° - W	楕円形	3.36 × 1.83	72	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	SI 6 新旧不明
68	B2 g 5	-	隅丸方形	1.54 × 1.44	68	平坦	外傾	人為	縄文土器	
69	B2 d 6	N - 15° - W	長方形	2.12 × 0.72	46	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、磁器	SK20 → 本跡
70	B3 d 1	-	隅丸方形	0.85 × 0.84	27	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、磁器	
74	B3 a 2	N - 17° - W	隅丸長方形	2.78 × 1.82	66	平坦	外傾 被削	人為	縄文土器、土師器	
78	B3 e 3	N - 6° - E	長方形	2.15 × 0.66	24	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
79	B2 g 8	N - 22° - W	楕円形	0.72 × 0.59	62	皿状	直立 外傾	人為	縄文土器、土師器、陶器	
80	A2 j 5	N - 41° - W	〔楕円形〕	0.76 × [0.61]	54	平坦	外傾	人為	縄文土器	
81	Z6 j 6	N - 27° - W	楕円形	0.97 × 0.86	37	平坦	外傾	人為	土師器、陶器	
82	Z6 d 3	N - 42° - W	不定形	1.10 × 1.00	24	平坦	被削	人為	縄文土器	SD 2 新旧不明
83	Z6 c 7	N - 44° - W	楕円形	1.12 × 1.01	32	皿状	被削	人為	縄文土器、陶器	SK91 新旧不明
84	Z6 f 5	-	円形	1.30 × 1.20	44	平坦	外傾 被削	人為	縄文土器、土師器、陶器	
85	Z6 f 5	-	円形	0.88 × 0.84	32	平坦	外傾 被削	人為	縄文土器、土師器	
86	Z6 e 3	N - 53° - E	〔楕円形〕	[1.16] × 1.04	42	皿状	外傾	人為	縄文土器、土師器	
88	Z6 a 1	-	円形	1.02 × 0.93	56	平坦	外傾 被削	人為	土師器、磁器	
91	Z6 b 7	N - 46° - W	〔楕円形〕	(0.68) × 0.68	28	平坦	外傾 被削	人為		SK83 新旧不明
92	Z6 d 3	N - 38° - E	楕円形	1.02 × 0.82	32	平坦	外傾 被削	人為	土師器	
95	A6 a 2	-	〔円形〕	[1.16] × 1.10	80	平坦	直立	人為	縄文土器、土師器	SI 16 → 本跡
101	A5 e 0	N - 53° - E	不整楕円形	0.72 × 0.58	45	皿状	外傾 被削	自然		
146	Z6 a 2	-	円形	1.13 × 1.10	83	平坦	外傾	自然	縄文土器、陶器、磁器	
147	A5 a 4	-	円形	1.26 × 1.21	72	平坦	直立	人為	縄文土器、土師器、陶器	SI 27 → 本跡
148	A5 a 4	-	円形	1.35 × 1.32	88	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、陶器	
149	A5 b 5	-	円形	1.50 × 1.47	81	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、陶器	
150	A5 c 5	-	円形	1.30 × 1.28	72	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、陶器	
152	B4 c 2	-	円形	1.48 × (0.74)	90	平坦	直立	人為		

(2) 溝跡(第106・107図・付図)

今回の調査で、時期・性格ともに不明の溝跡5条を確認した。いずれも伴う遺物は出土していない。ここでは土壘断面図を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。



第106図 第1号溝跡実測図



第107図 第2～5号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第2号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第3号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第5号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

表10 その他の溝跡一覧表

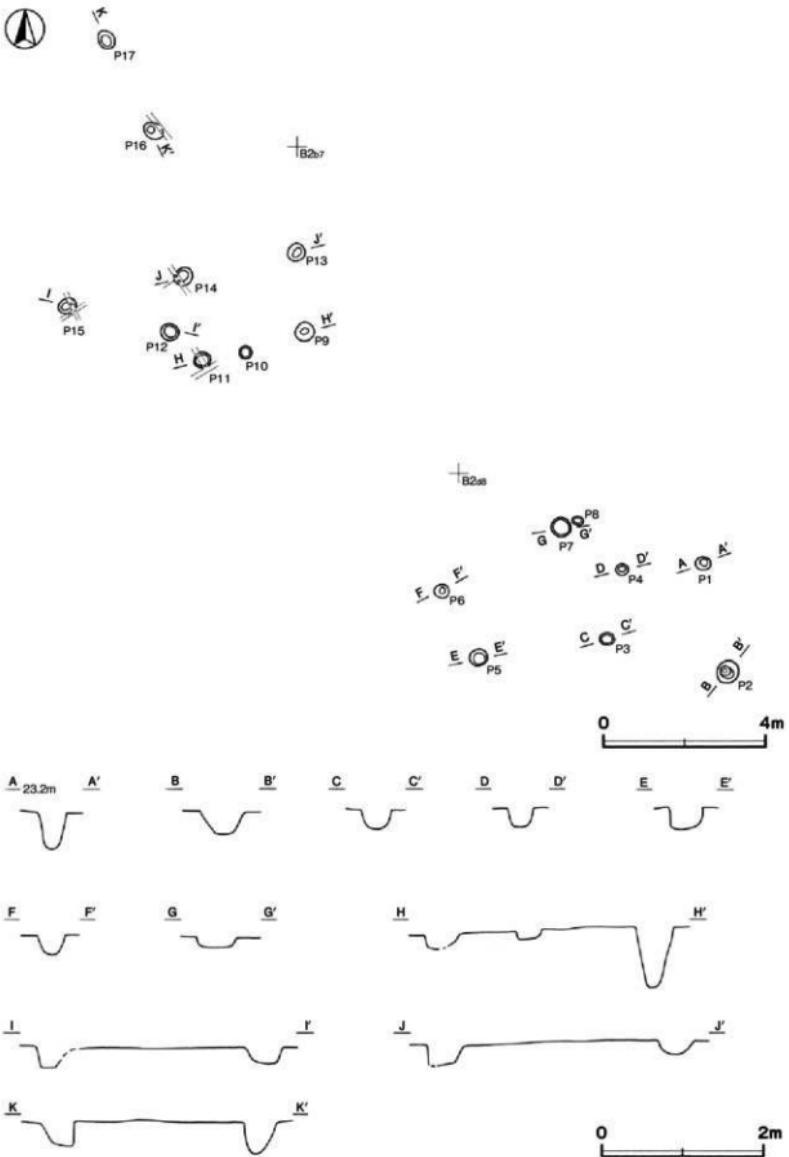
番号	位置	方向	形狀	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
1	Z64-A-Ac7	N=30°-W N=70°-E	L字状	17.0	0.72-1.58	0.12-0.34	16-28	U字状 直壁	砂質	自然 土師質器	
2	Z6b4-Z6d3	N=35°-E	直壁	(7.78)	0.52-0.92	0.12-0.36	8-14	U字状 直壁	砂質	自然 器物	SK82 新旧不明
3	Y6h1-Z6h7	N=31°-W [直壁]	(45.66)	0.38-0.78	0.11-0.49	12-29	逆台形状 砂質	砂質 外輪 内輪	人為 陶器	SI 13, 15, FP10 →本跡	
4	B4a5	N=16°-W [直壁]	(3.03)	0.74-1.31	0.30-0.70	20	逆台形状 砂質	砂質	人為		
5	Z4f8-Z4g0	N=48°-W	直壁	(10.14)	0.79-1.16	0.32-0.70	18-26	U字状 直壁	砂質	人為	SI 23 新旧不明

(3) ピット群

第1号ピット群 (第108図)

位置 調査区南西部の標高23m, B 2a5～B 2e9区にかけての東西20m, 南北20mの範囲から, 柱穴状のピット17か所を確認した。

規模 平面形は長径23～58cm, 短径21～54cmの円形または楕円形で, 深さが13～74cmである。



第108図 第1号ピット群実測図

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 9 点（甕）が P 1・P 14・P 16・P 17 から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

第 1 号ピット群計測表

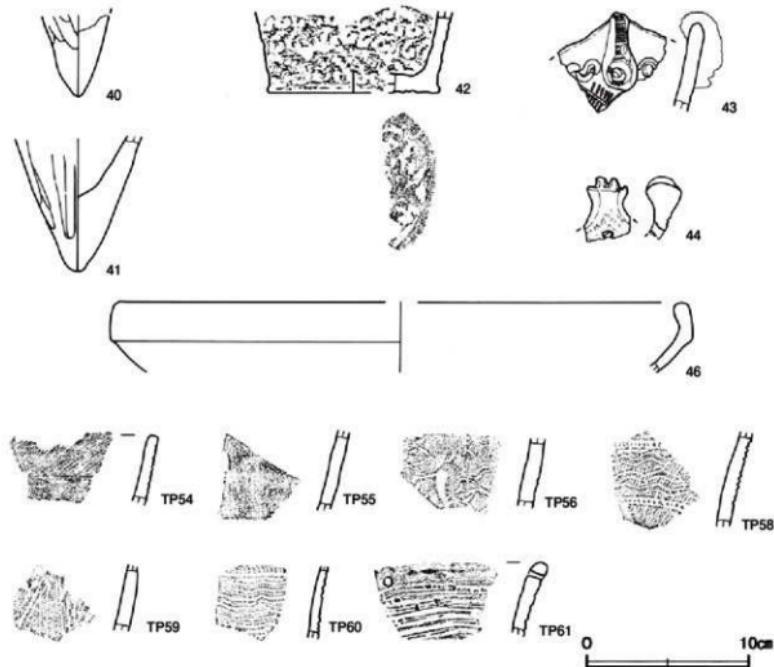
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 2 d9	楕円形	37	32	44
2	B 2 e9	円形	58	54	30
3	B 2 e8	楕円形	37	31	20
4	B 2 d9	円形	32	30	23
5	B 2 e8	楕円形	44	40	28
6	B 2 d7	円形	33	31	23

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
7	B 2 d8	円形	49	47	13
8	B 2 d8	円形	23	21	15
9	B 2 c7	円形	45	43	74
10	B 2 c6	円形	33	32	13
11	B 2 c6	円形	39	36	17
12	B 2 c6	円形	43	40	19

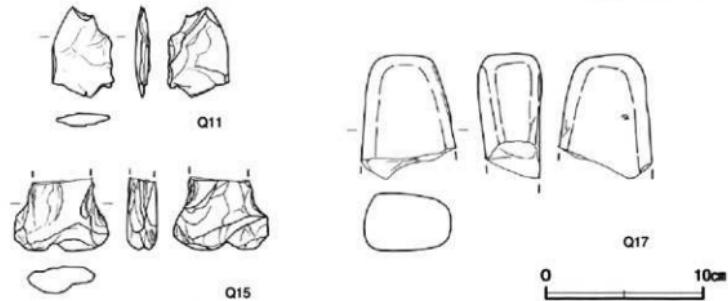
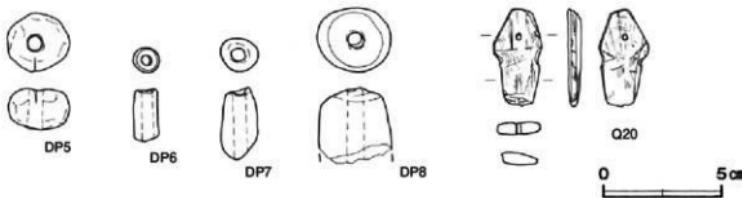
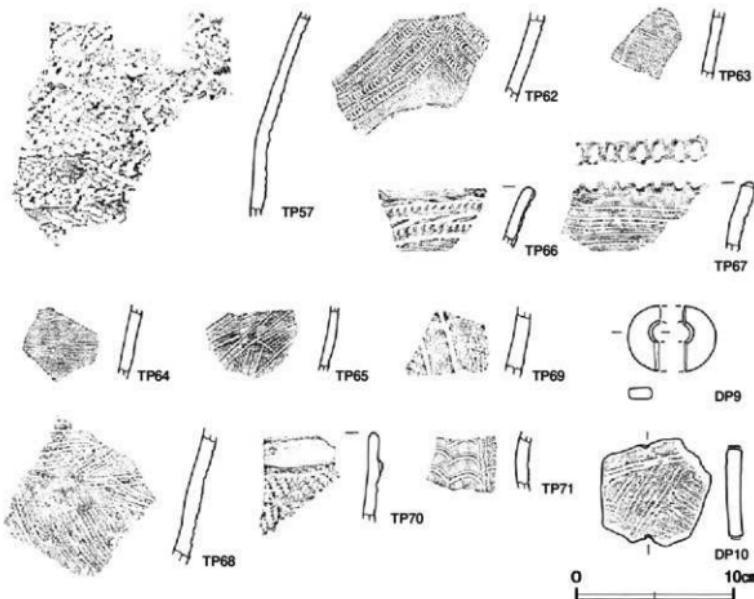
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
13	B 2 b7	円形	43	42	17
14	B 2 b6	楕円形	44	39	25
15	B 2 b5	〔楕円形〕	43	〔38〕	26
16	B 2 a6	〔楕円形〕	49	〔40〕	38
17	B 2 a5	楕円形	45	39	30

(4) 造構外出土遺物 (第 109 ~ 111 図)

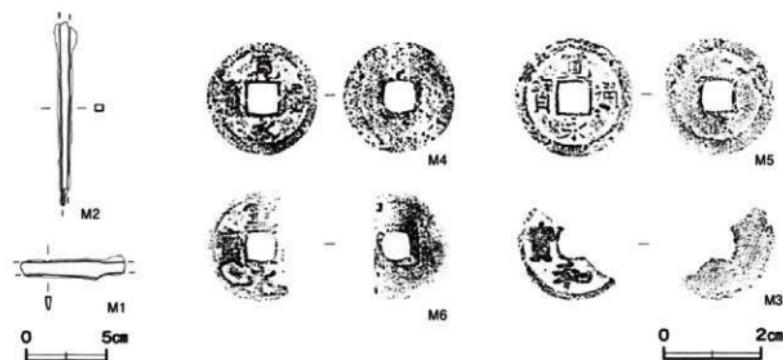
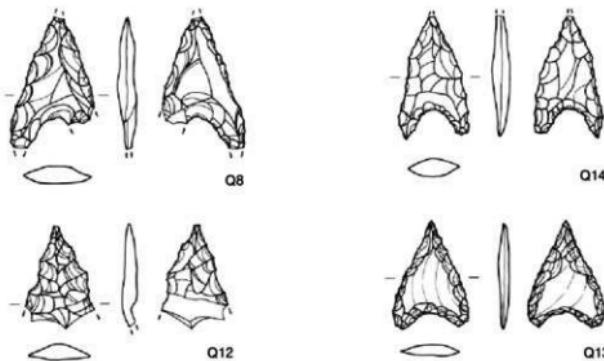
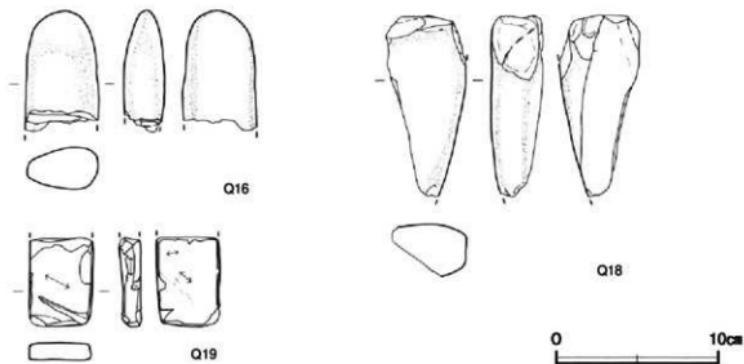
今回の調査で出土した造構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第 109 図 造構外出土遺物実測図 (1)



第110図 遺構外出土遺物実測図（2）



第 111 図 遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（第 109 ~ 111 図）

番号	種 別	器種	口径	厚さ	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
40	縄文土器	尖底土器	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	尖底 外観ヘラ状工具による削り	SI 22	5% PL15
41	縄文土器	尖底土器	-	(8.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	尖底 外観ヘラ状工具による削り	表土	5% PL15
42	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	[106]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	L R・R Lの単節縄文を羽状構成	SK80	5%
43	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英	灰褐色	普通	波紋状縄文 口縁部裏側部から縁帯を差下 口縁部 内面横ナデ	表土	5%
44	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	波紋状縄文 口縁部裏側部から縁帯を差下 口縁部 内面横ナデ	表土	5%
46	土師質 土器	始塔	[34.4]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	表土	5%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か			出土位置	備 考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口縁部櫛歯状工具による斜位の細沈縄文			表土	PL20
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	櫛歯状工具による削突文			表土	PL19
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	黒帯文を施文			SI 22	PL20
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	L R・R Lの単節縄文を羽状構成			表土	PL20
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	半載竹管状工具による細節化波文間に2本単位の櫛歯文を斜面 状に施文			表土	PL19
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	5本単位の櫛歬文を斜面に施文			表土	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半載竹管状工具による細節化波文 3本単位の櫛歬文を斜面状 に施文			表土	PL19
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	櫛歬文・円形削突文を施文			表土	PL19
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	半載竹管状工具による3段の結節沈縄文			表土	PL20
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	貝殻縫縫文を施文			SI 15	PL19
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	2本単位の櫛歬状工具による沈縄文・貝殻縫縫文を施文			表土	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	2本単位の櫛歬状工具による沈縄文・貝殻縫縫文を施文			表土	
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	爪形切を横模・重複施文			表土	PL19
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	口唇部押捺 3本単位の櫛歬状工具による沈縄文を施文			SI 26	
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	2本単位の櫛歬文 地文はR Lの半節縄文を施文			表土	PL20
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	2条の沈縄文を垂下 R Lの半節縄文を施文			表土	
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	口唇部無文・縁部を1条盛らす R Lの半節縄文を施文			表土	
TP71	泥生土器	甕	長石・石英・雲母	にぶい橙	縦スリット内に斜格子目文 漆黒光沢			表土	PL21

番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP 5	土玉	26	1.8	0.6	10.3	長石・石英	圓面横位のヘラ削り 一方方向からの穿孔	表土	PL22
DP 6	管状土錘	11	2.2	0.4	21	長石・石英	ナデ 振顛圧痕	表土	PL22
DP 7	管状土錘	16	3.1	0.6	5.5	長石・石英	ナデ	表土	PL22
DP 8	管状土錘	30	(3.2)	0.7	(22)	長石・石英・雲母	ナデ 振顛圧痕	表土	PL22

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP 9	焼成瓦錐	(41)	0.8	(1.0)	(7.8)	長石・石英	一部欠損	A5a9	PL21

番号	器 種	径	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP10	土器片錐	6.9	6.9	1.0	49.7	縄文土器	主に辺縁研磨調整 一方向の切り込み 切り込み間 5.4cm	SK131	PL21

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 8	石錐	(27)	(17)	0.4	(124)	安山岩	両面削磨調整 高部欠損	SK120	PL23
Q 11	剥片	5.8	3.9	0.9	19.7	安山岩	両面に二次加工を有する	表土	PL22
Q 12	石錐	(21)	(14)	0.3	(0.67)	チャート	両面削磨調整 高部欠損	表土	PL23
Q 13	石錐	2.2	1.6	0.2	0.54	チャート	両面削磨調整 高部	表土	PL23
Q 14	石錐	(25)	1.5	0.4	(0.9)	安山岩	両面削磨調整 高部	表土	PL23
Q 15	打製石錐	(46)	6.0	(1.9)	(57.1)	凝灰岩	両面調整 削緣中央部に弱い抉り調整	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	磨製石斧	(75)	45	25	(126.2)	ホルンフェルス	研磨調整 刃部欠損	表土	PL23
Q 17	磨製石斧	(78)	60	40	(271.0)	ホルンフェルス	研磨調整 刃部欠損	表土	PL24
Q 18	磨製石斧	(112)	(49)	(32)	(203.0)	輝石安山岩	研磨調整 刃部欠損	表土	PL24
Q 19	砥石	(55)	39	13	(468.0)	凝灰岩	砥面5面 他1面は研磨面	表土	PL23
Q 20	削形ヶ	41	21	06	6.25	滑石	一部欠損 両面研磨 0.2cmの穿孔	表土	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(62)	11	0.4	(13.1)	鉄	刃部欠損 刃部断面三角形	表土	
M 2	刃	(11.5)	07	0.4	(27.7)	鉄	端部欠損 断面方形	表土	

番号	銘種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋸年	特徴	出土位置	備考
M 3	□和□貫	-	0.12	-	(130)	鋼	-	無背 一部欠損	表土	PL24
M 4	寛永通貫	237	0.13	0.60	254	鋼	1636	無背	表土	PL24
M 5	寛永通貫	248	0.13	0.64	314	鋼	1636	無背	表土	PL24
M 6	寛永□貫	(231)	0.11	0.56	(172)	鋼	1636	無背 一部欠損	表土	PL24

5 埋没谷

調査区の南西部・中央部・北東部に1か所ずつ埋没谷が存在する。旧地形を把握するためにトレーナーを入れ土層の確認を行った。以下、これらの埋没谷3か所について記述する。

第1号埋没谷（第112図）

確認状況 北西に向かい緩やかに傾斜した面で、暗褐色土を確認した。本谷の上面では、第5号溝跡を確認した。

規模 北西部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸8.0m、南西・北東軸4.0mしか確認できなかった。南西・北東軸の断面形は浅いU字状で、深さは14cmである。

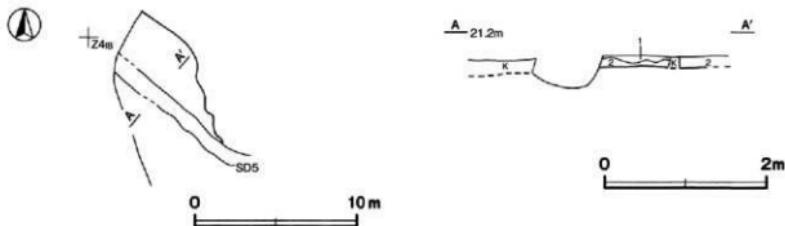
堆積土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示している。

土層解説

1 細褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

所見 遺物が検出できなかったため、埋没時期は不明である。



第112図 第1号埋没谷実測図

第2号埋没谷（第113図）

確認状況 北西に向かい緩やかに傾斜した面で、暗褐色土を確認した。本跡の上面では、第4号溝跡を確認した。

規模 北西部が調査区域外に延びているため、南西・北東軸 17.5 m、北西・南東軸 2.0 mしか確認できなかった。

北西・南東軸の断面形は浅いU字状で、深さは 10 ~ 26cm である。

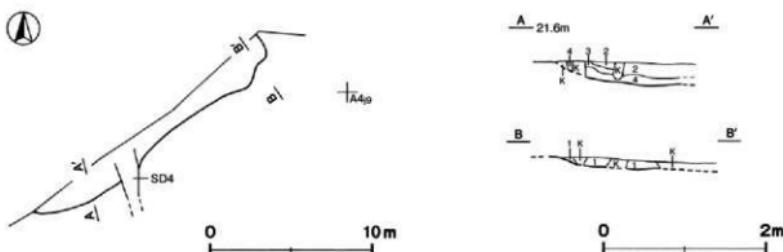
堆積土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示している。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	3	褐	ローム粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子極微量	4	褐	ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 2点（深鉢）、土師質土器片 1点（壺）、瓦質土器片 2点（火鉢）、磁器片 2点（皿、碗）が、覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 全容は明らかではないが、遺物の様相から、繩文時代前期にはすでに埋没を始めており、近世以降も埋没が続いたものと考えられる。



第113図 第2号埋没谷実測図

第3号埋没谷（第114図）

確認状況 西に傾斜した面で、暗褐色土を確認した。

規模 西部が調査区域外に延びているため、東西軸 8.0 m、南北軸 6.5 mしか確認できなかった。南北軸の断面形は U字状で、深さは 50cm である。

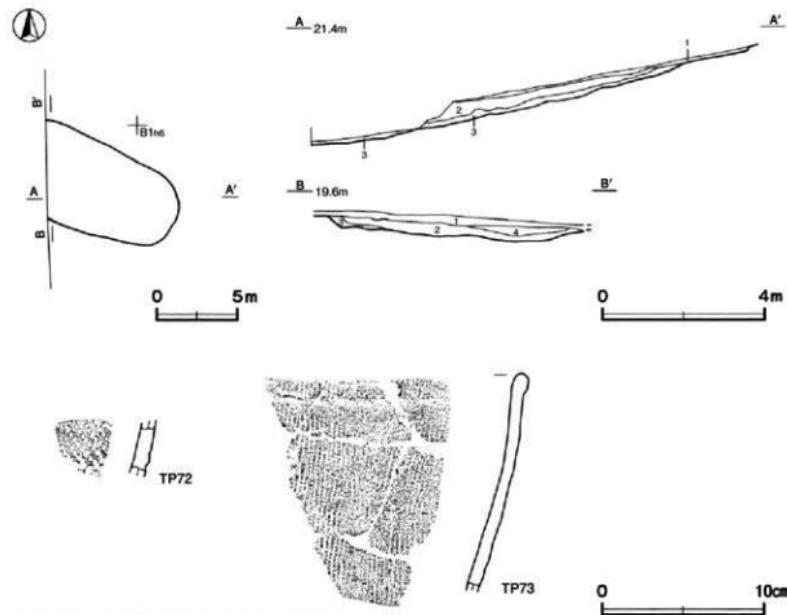
堆積土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示している。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	4	褐	ローム粒子中量、焼土粒子極微量

遺物出土状況 繩文土器片 20点（深鉢）、土師器片 3点（壺1、甕2）、磁器片 4点（碗）が、覆土中から出土している。TP72・TP73はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、遺物の様相から、繩文時代早期にはすでに埋没を始めており、近世以降も埋没が続いたものと考えられる。



第114図 第3号埋没谷・出土遺物実測図

第3号埋没谷出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP72	織文土器	深鉢	長石・石英	にじいろ	LRの單面織文	覆土中	
TP73	織文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの單面織文	覆土中	PL20

第4節 まとめ

1はじめに

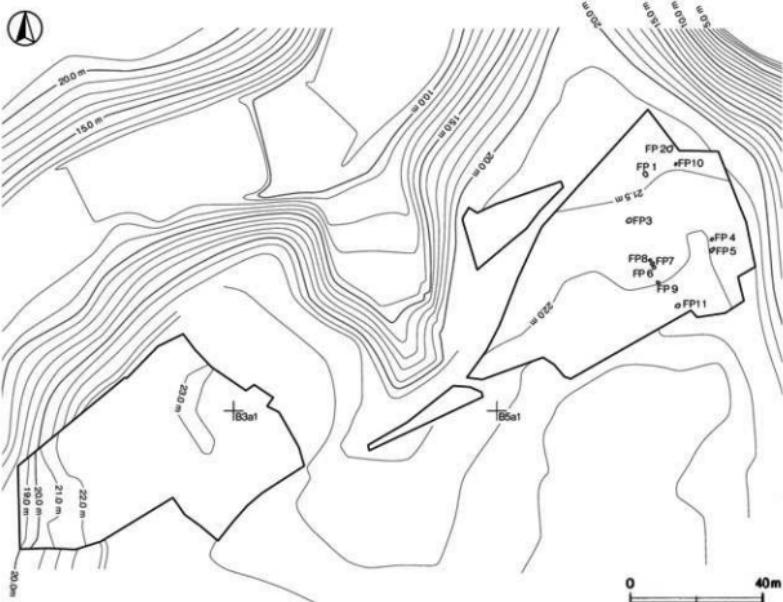
今回の調査で、当遺跡が縄文時代から古墳時代までの複合遺跡であることが確認できた。今回の調査区域は、山王川右岸に張り出す舌状台地の北西部に位置する。北西・南東の幅約60m、北東・南西の長さ約300mの範囲を調査した。北東部は標高22~215m、南西部は標高23~22mのいずれも緩斜面である。当遺跡の北西部にあたり、集落は南東部にも展開しているものと考えられる。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえて時代ごとの様相について概観する。

2各時代の様相について

(1) 縄文時代

当時代の遺構は、標高約23mの台地平坦部を中心に竪穴住居跡16軒、炉穴11基、炉跡3基、土坑56基、集石造構1か所が確認されている。これらの遺構からは、早期後半・前期中葉・中期・後期の土器が出土している。

早期後半の遺構は、炉穴11基（第1~11号炉穴）が該当し、第1・2・6号炉穴からは貝殻条痕文の深鉢片が出土している。これらの炉穴は、調査区北東部の台地平坦部に環状に配置されている。近県では



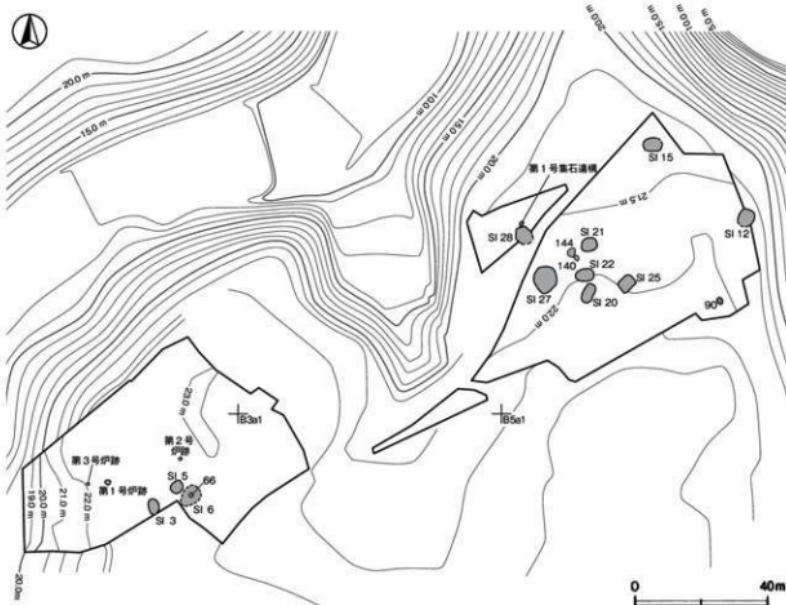
第115図 縄文時代早期遺構全体図

千葉県の佐倉市臼井屋敷遺跡や印西市駒込遺跡で環状炉穴群が報告されている¹⁾が、県内ではまだ確認されていない。炉穴がこのように環状に配置される理由として、炉として使う際に風を利用するためであり、季節に伴う風向きの変化に対応するために主軸を変えて環状に作ったと考えられている。

第2号炉穴からは、971点の貝が出土している。そのうちわけは、ハイガイが753点で78%、オキシジミが162点で17%、ハマグリが42点で4%、ウミニナが14点で1%である。覆土上層から下層にかけて貝が混入しており、廃絶過程で廃棄された貝と考えられる。これらの貝は、ハイガイを主体とした海洋性の貝であることから、当期には遺跡の近くまで海水が流入していたことを裏付ける資料となる。早期の炉穴は県内15遺跡で確認されている。恋瀬川を挟んで南西の台地上に所在する地蔵平遺跡では、12基の炉穴から貝殻条痕の土器片が出土している。今回の調査区域では当時期の住居跡は確認されなかつたが、山王川を挟んだ南東の台地上の新池台遺跡で早期の住居跡が3軒確認されている²⁾。

前期は、堅穴住居跡11軒（第3・5・6・12・15・20～22・25・27・28号住居跡）、炉跡3基（第1～3号炉跡）、集石遺構1か所が該当し、小規模な集落が存在していたと考えられる。北東部の住居跡は環状に配置されており、出土土器から主に閑山式期・黒浜式期・諸磯式期の集落と考えられる。一般的に環状集落が最初に発達するのは、前期中葉で、特に黒浜式期・諸磯a式期・諸磯b式期に集中している³⁾とされており、当遺跡の集落がそれに当てはまる好資料と考えられる。

前期の遺跡は、石岡市内で48遺跡が確認されている。支谷を挟んで西へ約100mに所在する中津川遺跡でも、閑山式期・黒浜式期・諸磯式期の住居跡1軒、陥し穴1基、土坑2基が確認されており⁴⁾。小規



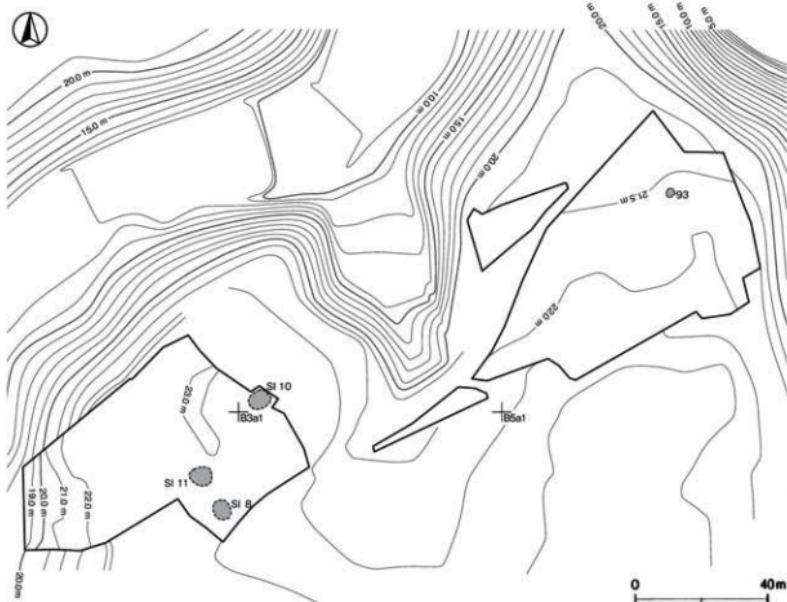
第116図 繩文時代前期遺構全体図

模な集落が遺跡の南西部に展開していたと考えられている。また、低地を挟んで東対岸の外山遺跡では、同時期の住居跡が3軒確認されており⁵⁾。山王川を望む台地上には前期の集落が営まれていたことが明らかになった。前期の遺跡は旧玉里村には55遺跡、旧霞ヶ浦町には155遺跡が確認されている⁶⁾ことから、霞ヶ浦に面した台地上には多くの集落が存在していたと考えられる。

当期は、縄文海進が最も進んだ時期である。第12号住居跡からは400点の貝が出土した。うちわけは、ハイガイ308点で77%、サルボウ70点で17%、ハマグリ22点で6%と、第2号炉穴同様、ハイガイを主体とする海水の砂浜や干潟で採れる貝類である。このことから、当期にも、遺跡のすぐ近くまで霞ヶ浦の湖岸線（海岸線）が迫っていたことがうかがえる。

また、当遺跡で出土した玦状耳飾りは、表面採取されたものであるが、一般的に土坑墓に伴うものと考えられている。出土地点から近接した位置に縄文時代の土坑が4基（SK98・99・100・137）存在しており、出土した玦状耳飾りは、これらの土坑のいずれかに所属していたことが想定できる。この場合、これらの土坑は、土坑墓である可能性が考えられる。栃木県の根古屋遺跡では179体の人骨が確認されているが、玦状耳飾りを伴っていた人骨は、わずかに2体だけである。このことから、玦状耳飾りは、特定の人しか装着することができなかったアクセサリーであったと考えられる。

中期は、竪穴住居跡3軒（第8・10・11号住居跡）、土坑1基（第93号土坑）が該当する。当期の住居跡3軒は南西部にまとまっており、一つの単位集団を形成していたものと考えられる。出土土器から主に阿玉台I b式期・加曾利E 1式期の集落と考えられる。前述の中津川遺跡では阿玉台II式期・加曾利E I・



第117図 縄文時代中期遺構全体図

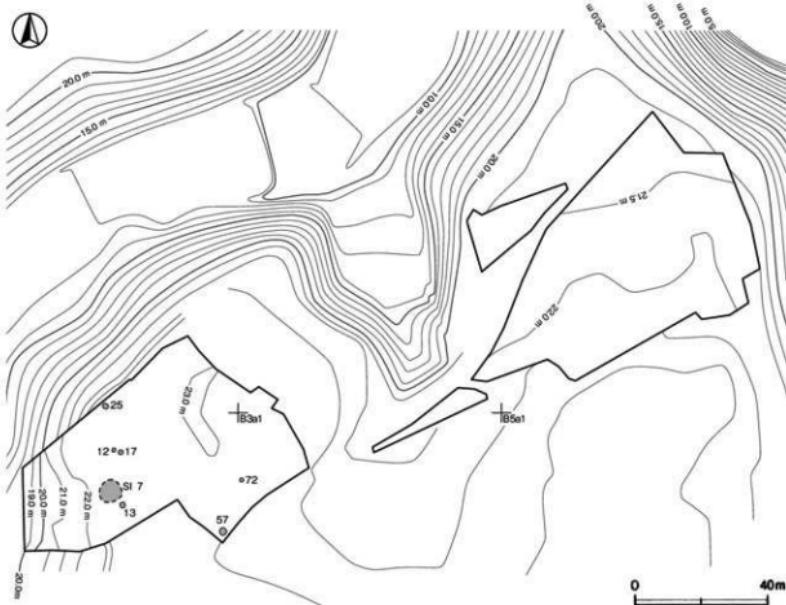
E II式期の遺物とともに住居跡9軒が確認されており、集落が一番拡大した時期とされている。当遺跡と重複する時期の小規模な集落が、支谷を挟んだ東側の台地上にも展開していたと考えられる。また、山王川を挟んだ対岸の東田中遺跡でも住居跡6軒と袋状土坑35基が確認されており⁷⁾。貴重な食料を得やすい台地上に小規模な集落が点在していたと思われる。

後期は、竪穴住居跡1軒（第7号住居跡）、土坑6基（第12・13・17・25・57・72号土坑）が該当する。今回の調査区からは、住居跡1軒しか確認できないことから、全容は明らかではないが、地形から未調査区である台地の南東部にかけて集落が展開していたことが想定できる。

土坑は、調査区の南西部に散在している。時期は、出土土器から主に堀之内I式期である。形状は、長径1.22～2.30m、短径1.04～2.07m、深さ28～123cm、大形の円形または楕円形で、掘り込みの深いものが多い。中津川遺跡でも、当時期の土坑が5基確認されており、形状は、長径1.10～1.62m、短径0.83～1.43m、深さ42～90cm、大形の円形または楕円形で、掘り込みの深いものが多い。いずれの遺跡でも大形で深いという共通する特徴をもつ土坑が確認されているが、住居跡は比較的少ない。当期の集落は、当遺跡や中津川遺跡においても比較的小規模であったと考えられる。

また、第25号土坑からは4,887点の貝が出土している。そのうちわけは、マガキが4,086点で84%、ハマグリが651点で13%、ウミニナが111点で2%、オキシジミが39点で1%である。

縄文時代の石岡市周辺を想定すると、早期末頃には霞ヶ浦が染谷地区付近まで進んで内湾を形成しており、高根貝塚や三村貝塚などが形成された。高根貝塚ではハイガイ・ハマグリが主体であり⁸⁾、三村貝塚もハ



第118図 縄文時代後期遺構全体図

イガイ・ハマグリ・カキなどの貝類が主体であった⁹⁾。両貝塚から出土するこれらの貝類は、当遺跡の早期・前期・後期の各遺構から出土する貝類と類似する。これらの貝類は、潮間帯と上部浅海岸を生息域とするもので、早期末頃のそれぞれの貝塚や遺跡周辺には、汽水域と海水域の双方の環境が存在していたと考えられる。後期になると石川北垂貝塚が形成され、この貝塚から検出される貝類は純鹹種である¹⁰⁾ことから、後期中葉においても海水域が存在していたと考えられている。

(2) 弥生時代

当時代の遺構は、調査区の北東部から南西部にかけての標高約23mの台地平坦部で、竪穴住居跡8軒、土坑3基を確認した。これらの遺構からは、後期前半と後期後半の土器が出土している。

後期前半は、竪穴住居跡3軒（第2・13・24号住居跡）、土坑3基（第97・108・151号土坑）が該当する。第2号住居跡は調査区南西部、第13・24号住居跡は調査区北東部で確認されている。それぞれの住居跡は離れており、単位集団や集落を形成していた様相は見受けられない。

第2号住居跡の南西コーナー部に住居内土坑1が存在する。第2号住居跡の遺構確認時に土坑との重複は見受けられなかったことや、住居の覆土中から出土した土器片が、住居内土坑1の土器と同時期であることから、住居内土坑1は、第2号住居跡に伴うと考えられる。前述したように住居内土坑1は、住居内埋葬の可能性が高い。当遺跡から南西へ約8kmの天の川右岸の台地上に所在する西原遺跡でも類例が見られる¹¹⁾。西原遺跡の第8・11号住居跡はいずれも弥生時代後期前半の住居跡で、住居に土器墓が伴う



第119図 弥生時代遺構全体図

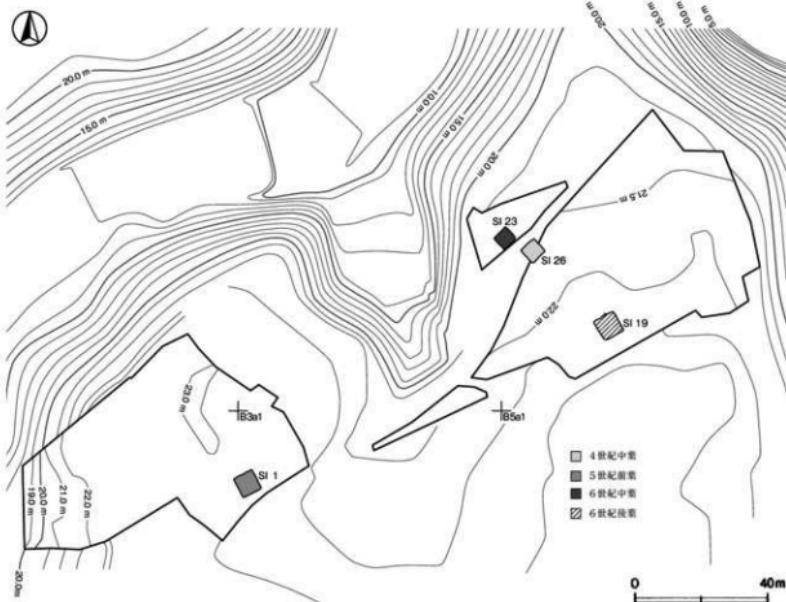
と考えられている。特に第11号住居跡の南西コーナー部に位置している第7号土器棺墓は、当遺跡で確認された第2号住居跡の住居内土坑1と構築されている場所が一致する。西原遺跡の第8号住居跡の南東部に第5号土器棺墓は位置しており、前述した2軒の住居跡と共に通るのは、いずれの土器棺墓や住居内土坑も、住居跡の出入り口側に構築されていることである。このような類例は同県南地区のつくば市に所在する上野古屋敷遺跡でもみられる¹²⁾。後期前葉と考えられる第135号住居跡の南部で、出入り口施設に伴う柱穴の東に住居内埋葬と考えられる埋甕が確認されている。これらは、縄文時代晩期の埋甕を想起させるものがある。

後期後半は、堅穴住居跡2軒(第16・18号住居跡)が該当する。いずれも調査区北東部で確認されており、細片ではあるが、上種吉式期の甕が出土している。当遺跡や中津川遺跡をみてもこの時期の住居はみられず、一時期2軒ほどの単位集団が存在していたと考えられる。

(3) 古墳時代

当時代の遺構は、標高約23mの台地平坦部を中心に堅穴住居跡4軒(第1・19・23・26号住居跡)が確認されている。これらの住居跡は、各々時期が異なり、4世紀中葉、5世紀前葉、6世紀中葉、6世紀後葉にそれぞれ1軒ずつである。

4世紀代の住居跡は、田崎遺跡に6軒¹³⁾、田島遺跡三面寺地区(以下、田島遺跡の南東部)に5軒¹⁴⁾、田島遺跡田島下・南光院下地区(以下、田島遺跡の北東部)に1軒¹⁵⁾確認されている。このことから、



第118図 古墳時代遺構全体図

当期は、台地上の平坦部や縁辺部に小集団が点在していたものと考えられる。

5世紀の住居跡は、中津川遺跡に4軒、田島遺跡の南東部に1軒だけである。台地平坦部を中心に小規模な集落が形成されていたと考えられる。

6世紀の住居跡は、田島遺跡の北西部に8軒、南東部に27軒確認されている。田島遺跡では、前葉から中葉には、比較的傾斜が緩やかな斜面部の上位から中位にかけて、後葉には、斜面中位から下位へと集落が展開している。なお、田崎遺跡と中津川遺跡の調査区からは、当期の住居跡は確認されていない。

7世紀の住居跡は、当遺跡や中津川遺跡においては確認されていないが、田崎遺跡においては21軒確認されている。また、前葉の住居跡は、田島遺跡の南光院地区（以下、田島遺跡の中央部）でも確認され、田島遺跡の南東部から中央部、さらに田崎遺跡まで集落が展開するようになる。

今回の調査範囲は、遺跡の北西部の限られた範囲であり、集落の全容を明らかにしたものではない。よって確認されている住居跡は集落のはんの一部である可能性が高い。各時期の集落は、南東部の台地平坦部に広がっていることが想定される。当遺跡と併せて考えている周辺遺跡についても同様に限られた成果である。

3 おわりに

今回の調査の成果は、当遺跡の北西部の様相である。前述してきたように、当遺跡には、縄文時代早期から古墳時代後期に至るまで断続的に人々が生活を営んだ痕跡を見いだすことができた。縄文時代早期から後期では、炉穴や住居跡、土坑から貝殻が出土していることから、海の恵みを受けて採集中心の生活をしていたと考えられる。弥生時代後期前半の住居内土坑からは壺が横位で4個体出土している。壺からは、骨片や骨粉などは検出されなかったので断定はできないが、類例から住居内埋葬の可能性が高い。また、古墳時代の住居跡は4軒確認されているが、各住居跡の時期は異なるため、集落は調査区の南東部に広がっていることが予想される。7世紀代以降の生活の痕跡は、当遺跡では確認されていない。水田経営に適していた田島遺跡から田崎遺跡にかけて移り住むようになったと考えられるが、詳細は不明である。

以上、植樁遺跡の性格を明確にできるよう、周辺の遺跡との関わりも踏まえて考察を試みてきた。全容については、今後の調査に期待したい。

註

- 1) 白井屋敷跡遺跡、－空間利用の変遷－、遺跡発表3 佐倉市、嘱託調査研究員 木村 寛之
- 2) 和田雄次「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 新池台道路」「茨城県教育財团文化財調査報告書」第17集、1983年3月
- 3) 谷口康浩「環状集落と縄文社会構造」学生社 2005年3月
- 4) 近江屋成陽「中津川遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書4」「茨城県教育財团文化財調査報告書」第327集 2010年3月
- 5) 山本静男「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 外山遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告書」第13集 1982年3月
- 6) 萩ヶ浦町教育委員会 筑波大学考古学研究室「茨城県新治郡霞ヶ浦町遺跡分布調査報告書 遺跡地図編」 2001年3月
- 7) 公益財團法人茨城県教育財團「埋蔵文化財年報31」 2012年6月
- 8) 石岡市史編さん委員会『石岡市史上巻（通史編）』石岡市 1979年3月
- 9) 註8) と同じ
- 10) 石岡市史編さん委員会『石岡市史下巻』石岡市 1985年3月

- 11) 江輔良夫「土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 原田北遺跡 西原遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 85 集 1994 年 3 月
- 12) 川井正一「上野古屋敷遺跡 2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 307 集 2008 年 3 月
- 13) 薮藤貴史 本橋弘巳「田崎遺跡 一般国道 6 号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書 4」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 327 集 2010 年 3 月
- 14) 飯田浩彦 大開武 小野政美 薮藤和浩「田島遺跡（三面寺地区）一般国道 6 号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書 3」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 311 集 2009 年 3 月
- 15) a 飯泉達司「田島遺跡（田島下地区）一般国道 6 号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 253 集 2006 年 3 月
b 小野政美「田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）一般国道 6 号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書 2」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 287 集 2008 年 3 月

参考文献

- ・海老澤稔「恋瀬川流域における弥生後期の土器変遷について」『茨城県史研究』第 62 号 茨城県立歴史館 1989 年 3 月
- ・海老澤稔「茨城県における弥生後期土器の編年」 第 9 回 東日本埋蔵文化財研究会『東日本弥生土器後期の土器編年』〔第 2 分冊〕東日本埋蔵文化財研究会福島実行委員会・福島県立博物館 2000 年 1 月

写 真 図 版



調査区南西部全景（北西から）



調査区南西部（上空から）

PL2



調査区北東部全景（北西から）

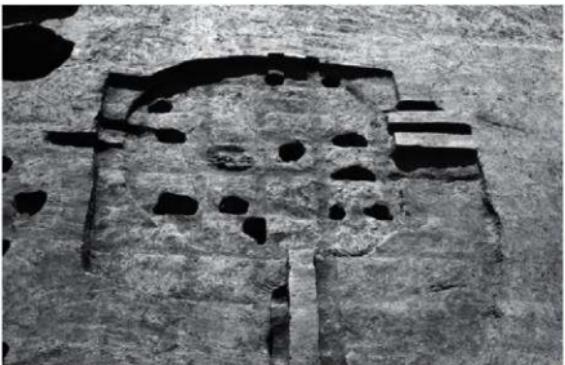


調査区北東部（南から）

第3号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



PL.4



第8号住居跡
炉完掘状況



第8号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況



第 11 号 住 居 跡
炉 完 挖 状 況



第 11 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 12 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

PL6



第12号住居跡
完掘状況



第15号住居跡
炉完掘状況



第15号住居跡
完掘状況

第 20 号 住 居 跡
完 剥 状 況



第 21 号 住 居 跡
完 剥 状 況



第 22 号 住 居 跡
完 剥 状 況



PL8



第27号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
完掘状況



第17号土坑
遺物出土状況

第 57 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 72 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



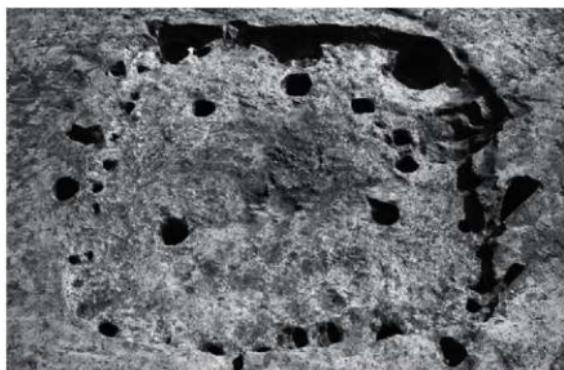
第 1 号 集 石 遗 槽
遗 物 出 土 状 况



PL10



第2号住居跡
遺物出土状況



第2号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
完掘状況

第 13 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 17 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 97 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況





第1号住居跡
遺物出土状況



第1号住居跡
遺物出土状況



第1号住居跡
完掘状況

第 19 号 住 居 蹤
遺 物 出 土 状 況



第 19 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 23 号 住 居 蹤
遺 物 出 土 状 況



PL14



第23号住居跡
完掘状況



第1号溝跡
完掘状況



第4号溝跡
完掘状況



第8・12号住居跡、第93号土坑、遺構外出土土器

PL16



SI 15-4



SI 7-1



SK72-10



SK12-6



SK57-8



SK57-9

第7·15号住居跡、第12·57·72号土坑出土土器



第2号住居跡出土土器

PL18



第1・19・23・26号住居跡出土土器



第12·15·20·25号住居跡, 第1·6号炉穴, 第90·140号土坑, 遺構外出土土器



第5·15·21·22·25号住居跡，第144号土坑，遺構外，第3号埋没谷出土土器

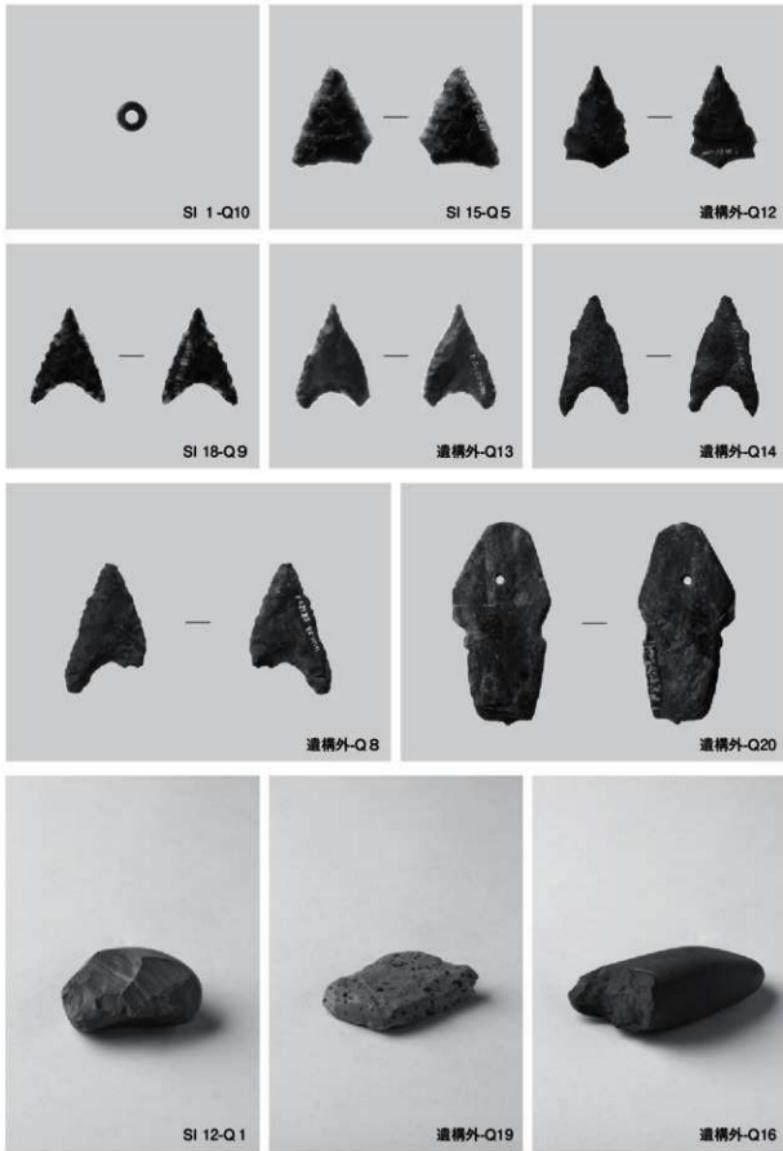


第12·13·16·18·25号住居跡，第1号炉跡，第13·25·103号土坑，遺構外出土土器，土製品

PL22



出土土製品、石器

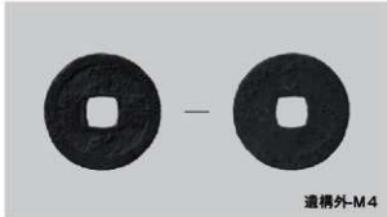


出土石器、石製品

PL24



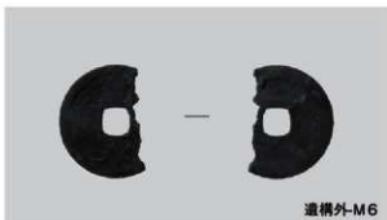
造構外-M3



造構外-M4



造構外-M5



造構外-M6



造構外-Q17



造構外-Q18



SI 12-Q2



SI 12-Q3

出土石器、錢貨

抄 錄

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium Service Pack 1
レイアウト Adobe InDesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS4
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトしたものに入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第370集

槻 堀 遺 跡

一般国道 6 号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書 7

平成25(2013)年 3月12日 印刷

平成25(2013)年 3月15日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505